

阪大NOW

地域に生き世界に伸びる

No.103
2008

4 月号

トピックス

卒業式・大学院学位記授与式挙行 3,445名の新入生が入学

クローズアップ

地域に開かれた現代の学問所「21世紀懐徳堂」オープン



大阪大学広報誌

目次

トピックス.....	2
クローズアップ.....	4
役員室だより.....	8
キャンパスニュース.....	22
記念講義.....	43
ナウスペシャル.....	48
表彰等.....	50
人事.....	53
インフォメーション.....	71
ガイドマップ.....	73
海外レポート.....	74
交流協定大学.....	78
クラブ&サークル.....	79
トピックス.....	80



表紙写真：重建懐徳堂模型

大阪大学の源流の一つである学問所「懐徳堂」が1916（大正5）年に「重建懐徳堂」として再建されたものの復元模型。

懐徳堂文庫資料の総合調査時に発見された設計図を基に製作され、文学研究科玄関ロビー（1/50模型）、中之島センター玄関ロビーと総合学術博物館（ともに1/100）に展示されている。[株式会社竹中工務店寄贈]

表紙デザイン：株式会社ココティエ

卒業式・大学院学位記



3,445名の新入生が入学



授与式挙行

平成19年度卒業式が、3月24日(月)に2部構成(午前10時から及び午後1時から)で本学吹田地区体育館で挙行され、3,532名が卒業しました。

式では、学士学位記が各学部の受領代表者に授与され、続いて、楠本長三郎第2代総長の退官を記念して創立された楠本奨学会から各学部・学科の優秀な卒業生に贈られる「楠本賞」が22名に授与されました。

また、大阪大学OBによる「先輩スピーチ」として、今年度は、毎日放送アナウンサーの西 靖さん(平成6年3月法学部卒業)にスピーチいただきました。

翌日、午前10時から、同体育館において、大学院学位記授与式が挙行され、2,061名に修士の学位が、95名に法務博士(専門職)の学位が、729名に博士の学位が授与されました。

総長式辞 37～40ページに掲載
(総務部総務課)



スピーチを行う西氏

平成20年度入学式(学部)が4月1日(火)に2部構成(午前10時から及び午後2時30分から)にて、大阪大学吹田地区体育館で挙行されました。

開式に先立ち、本学交響楽団によるワーグナー作曲「ニュルンベルクのマイスタージンガー前奏曲」が演奏され、式では、新入生3,445名を代表して、午前(第1部)では経済学部の小野広樹さんが、午後(第2部)では医学部の足立雄一さんがそれぞれ宣誓を行いました。

続いて、鷲田清一総長の告辞及び学部長等の紹介の後、入学を祝し本学混声合唱団が「大阪大学学生歌」を、また男声合唱団がシュトゥッツ作曲「フライエクスト」をそれぞれ合唱し、閉式となりました。

引き続き、オリエンテーションが行われ、学生生活全般についての説明の後、本学応援団による新入生歓迎エールがあり、日程を終了しました。



なお、保護者の方々に対しては、コンベンションセンターでの映像配信を行い、入学式の様子をご覧頂きました。

総長告辞 40～42ページに掲載

(総務部総務課)

大阪大学

21世紀 地域に開かれた現代の学問所「21世紀懷徳堂」オープン 懷徳堂

大阪大学 21 世紀懷徳堂

4月1日、大阪大学21世紀懷徳堂が、豊中キャンパスのイ号館、歴史ある校舎の一角に、オープンしました。かぎりなく真っ白な空間が、これからここで起こることを予感させてくれるような、コミュニケーションギャラリー、そして黒で統一された多目的スタジオ。登録文化財になっている歴史的建造物の中に、ハッと目を見張る異次元空間が出現しました。これから大阪大学が担っていく、社会学連携事業の基地として、いよいよ始動です。

大学と地方自治体、学生と市民、大学と企業が一体となって、一つの事業を推し進めていく、その過程の中で、未来の大阪の文化力を担える市民が育っていったら・・・。

それが21世紀懷徳堂の願いです。



除幕式の様子：鷺田総長(右)と武田理事・副学長

現代の懷徳堂をめざして

「もしこの21世紀に懷徳堂が存在したなら、何をやっていただろう？」

こんな問いへの一つの回答として、「大阪大学21世紀懷徳堂」が発足しました。「懷徳堂」は言うまでもなく、享保年間（18世紀前半）大阪の地に生まれた学問所で、武士ならぬ町人がお金を出し合って設立し、学ぶものの身分を問わない、自由で伸びやかな学風をその特色としていました。市民による市民のセルフラーニングのための学舎（まなびや）でありながら、当時の思想・科学の最先端をもリードしていたのです。近代大阪市民の願いと自助努力によって、第3の帝国大学として誕生した大阪大学が、懷徳堂をその精神的基盤としている所以です。大阪大学は、この懷徳堂の精神を、より直接的な形で現代によみがえらせようと考えました。それが「大阪大学21世紀懷徳堂」です。

“社会学連携”の拠点として

“社会学連携” これは、大阪大学独自の用語です。大学の市民貢献として、産学連携すなわち特定の企業をパートナーとする活動について、大阪大学は多大な成果を収めてきましたし、これからも強力に推進していきます。一方で、大阪大学は、市民を直接のパートナーとし、市民の生活を充実させる資源を提供していく活動、これを“社会学連携”と呼んで、産学連携とともに市民貢献活動の2本の柱としていくことを目標とします。それは、「地域に生き世界に伸びる」という大阪大学のモットーの一つの実現と言えるでしょう。

大阪大学の社会学連携は、これまでも盛んに行われていました。附属病院の医療活動はもちろんその一つですし、中之島講座（旧・開放講座）



イ号館

Handai-Asanhi 中之島塾ほか、さまざまな部局で行われてきた公開講演会、公開講座、公開シンポジウムもあります。図書館の市民開放、総合学術博物館の活動もそこに含まれるでしょう。さらに中之島センターは、まさに大阪大学の社会学連携の都心における拠点たるべく開設されたのです。しかし、産学連携に比べて、大阪大学の社会学連携は、市民の目から見て今ひとつ全体像が「見えにくい」という印象があったのではないのでしょうか。21世紀懐徳堂は、このような従来の大阪大学の社会学連携活動の情報を集約し、市民に分かりやすい形で提供していくことを目的としています。加えて、市民や自治体等からのご意見・ご要望に応え、協同し、新たな活動を作り出していくコーディネーションにも力を注いでいく体制を作りつつあります。

21世紀懐徳堂ホームページ

21世紀懐徳堂は、大阪大学の社会学連携活動の情報を市民の皆様に分かりやすくお伝えするために、独自のホームページを開設しました。このホームページでは、大阪大学が展開している全ての社会学連携活動の情報を収集し、強力がつ簡便な検索機能で提示できる機能を有しています。大阪大学で市民対象に開催されるイベントが、「文化・芸術」「語学」「健康・医療」等の内容的なカテゴリー、吹田、豊中、箕面、中之島等の開催場所、日付等の観点で分類され、これらの分類や他のキーワードをもとに自由に検索できます。また見やすいイベントカレンダーも備えています。市民生活に直結した知の源泉として、このホームページをご活用いただけましたら幸いです。

大阪大学 21世紀懐徳堂ホームページ <http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/>

21世紀懐徳堂の施設

21世紀懐徳堂は、大阪大学の中でもっとも古い建造物である豊中キャンパスイ号館の1階に拠点を設けました。事務スペースの他、コミュニケーションギャラリーと、多目的スタジオを新設しました。

コミュニケーションギャラリー兼オフィス

(プロダクトデザイン・インテリアデザイン：花村周寛 CSCD 特任助教)



大阪大学のあらゆる社会学連携活動の情報や地域の文化活動の情報を集め、閲覧に供するとともに、市民と大学構成員との交流・語らいの場として設けられました。白を基調とした落ち着いたデザインで、花村氏デザインの多機能テーブルのほか、大型テレビ、情報検索用のパソコン等が設置されています。

多目的スタジオ



授業風景（CSCD「地域コミュニケーションコーディネータ入門」
担当：金水 敏教授）

多目的スタジオ仕様

面積	140 m ²
壁・天井	黒色で、床上180cmまでの壁に10mm厚のラバー設置
床	<ul style="list-style-type: none"> ・木製フローリング仕上げ（イベント内容により、リノリウムカーペットやパンチカーペットを敷くことが可能） ・平台設置により階段状客席の設置も可。
設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ミキサー、アンプ、DVDデッキ、マイク（ワイヤレス3本） ・照明設備：天井蛍光灯（3区画で調光式）、スポットライト4台（移動式） ・天井吊りプロジェクター ・電動式スクリーン ・情報コンセント（グローバル） ・イス（メモ台付き）80脚 ・平台・箱馬 ・リノリウムカーペット、パンチカーペット

*スタジオ裏には、楽屋（8畳の和室が2室）があります。講師の控室として、また更衣が必要な際などにご利用いただけます。ただし、シャワーはございません。

小規模ながら演劇、音楽会、朗読会、ダンスイベント等様々な芸術的イベントに使用できるように設けられました。大阪大学主催・共催のイベントだけでなく、市民の皆様にも使用していただけるよう、規約等を整備中です。詳細が決まり次第、ホームページ等でお知らせいたします。

学生・地域住民の皆様とともに

21世紀懐徳堂の運営は、専任事務スタッフおよび全学教職員だけによるものではありません。大学が市民社会と直接接する社会学連携の場は、学生にとってもまたとないコミュニケーションの訓練の場となります。大阪大学コミュニケーションデザイン・センターが全学的に展開しているコミュニケーションデザイン科目の一端として、平成20年から、「地域コミュニケーションコーディネータ入門」という授業が始まりましたが、これはまさしく21世紀懐徳堂の活動に大学院生・学部生が参加し、それに対して単位を与えていくという学内インターンシップの試みです。ここでは、学生が自らの専門性を基盤にしながら、大学の顔として社会と接していくコミュニケーション技術を身につけていきます。この授業の受講生を“21世紀懐徳堂インターン”と位置づけ、さらに単位に関係なく事業に参加していただく“21世紀懐徳堂ハンズ”というグループも組織していく予定です。これは、学生はもちろんのこと、地域住民の方、学生の父兄や地域学校のPTAの方々、自治体関係者、各種NPO関係者等をも含むものです。事務スタッフ、関係教職員、インターン、ハンズはすべて21世紀懐徳堂の正規運営メンバーとして活躍していただきます。

懐徳堂記念会、コミュニケーションデザイン・センターとの連携

懐徳堂の精神を顕彰し、現代につなげていく団体として、「懐徳堂記念会」があります。懐徳堂記念会は、在阪企業関係者や大阪大学等の大学関係者、また一般の方々を会員とし、その会費・寄付金で運営されています。これまで、多くの講座の提供、機関誌の発行、出版助成事業などの文化事業を展開し、来る平成22年には、開設100周年を迎えます。大阪大学21世紀懐徳堂は、「懐徳堂」の名称を使用することについて懐徳堂記念会のご許可を得るとともに、社会貢献事業の展開において今後継続的に連携していくことを申し合わせています。

また、既に述べたように、21世紀懐徳堂は大阪大学全体の社会学連携活動を活性化することを目的としていますが、大学のアウトリーチ活動推進を設置の目的の一つとしている大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（以下、CSCD）とは、とりわけ深い連携のもとで活動していきます。その連携の一つとして、CSCDが取り組んでいる“サイエンスショップ”の窓口を21世紀懐徳堂内に設けます。サイエンスショップは、市民の皆さんが生活の中で直面する、科学・技術や文化に関する疑問・質問・問題点を直接持ち込んでいただく相談窓口であり、その問題点を学内の資源を使って研究し、市民に還元していく活動です。サイエンスショップのスタッフは、持ち込まれた問題を研究課題として分析し、主として学生に割り振って研究させ、教員がその研究に対してアドバイスを与えていきます。“21世紀”の“懐徳堂”にふさわしい、新しいタイプの知識還元の仕事と言えるでしょう。

皆様のご支援を！

以上述べたように、21世紀懐徳堂は、学生、教職員等大学関係者のみならず、地域住民の皆様にご活用いただき、活潑なご意見・ご要望をお寄せいただくことで活性化されていきます。21世紀懐徳堂の活動を通し、“市民の大学”としての大阪大学に今後一層のご愛顧を賜りますよう、お願いいたします。

21世紀懐徳堂ホームページ（<http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp>）のイベント情報は、従来からありました大阪大学ポータルサイト内部の、「セミナー・シンポジウム情報登録フォーム」を活用しています。市民に公開されるイベントの情報をお持ちの学内関係者の皆様は、積極的に上記フォームにご登録いただきますようお願いいたします。

登録フォーム（大阪大学構成員限定）URL:https://www-info.osaka-u.ac.jp/cms/cms?a=editlist&s=seminar_new

アクセス

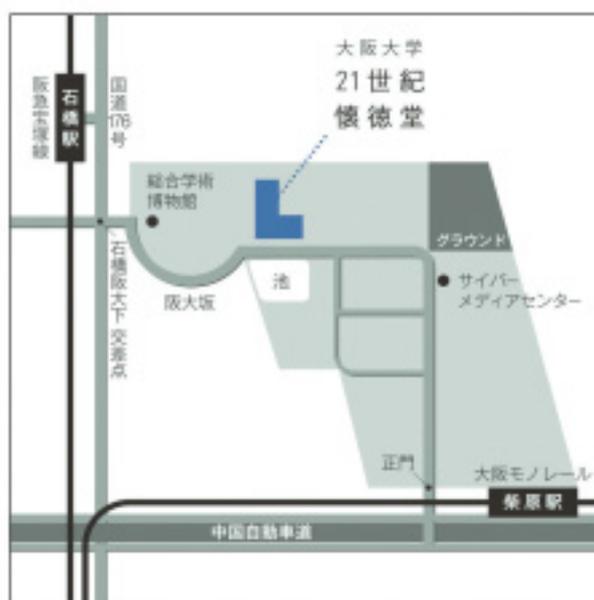
大阪大学豊中キャンパス

阪急電車宝塚線

石橋駅（特急・急行停車）下車 徒歩約15分

大阪モノレール

柴原駅下車 徒歩約15分



〒560 - 0043 豊中市待兼山町 1-16

TEL 06 - 6850 - 6443 E-mail : info@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp

役員室だより

2008.4 Vol.23

新年度に入り、構成員のみなさまには新たな気持ちで日々の教育・研究に、業務に、また勉学に取り組まれていることと存じます。大学本部におきましても、これまでの6室1本部から8室体制に改めるとともに、大学運営の目下の最重要課題と位置づけているキャンパス整備、財務基盤ならびに広報体制の強化を図るため、この4月に3つの整備本部をスタートさせました。（「4月からの新体制」（18ページ）参照）

年頭にも申し上げましたとおり、全構成員のみなさまがそれぞれに輝く「阪大スタイル」の確立と、アーティスティックな「知」の機関として本学の発展とをつねに念頭に置きながら、地道に、しかし確実に、直面する課題の一つひとつに取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

（総長 鷲田 清一）

各室の検討状況

総合計画室

平成20年度の年度計画

平成20年度の本学年度計画については、各部局の年度計画を踏まえて、総合計画室等が中心となっており、3月末に文部科学省へ提出しました（既に大阪大学ホームページに掲載済み）。また、3月21日に開催された経営協議会において年度計画の主要事項について説明しました。（主要事項は19～21ページを参照）

学内措置による組織の整備

新たな予算措置を伴わない学内措置による組織整備として次の事項が認められました。

- ・研究科附属教育研究施設の設置（平成20年4月1日）
工学研究科附属構造・機能先進材料デザイン教育研究センター
- ・産業科学研究所の研究部門の改組（平成20年4月1日）
特別プロジェクト研究部門の設置
機能分子科学研究部門分子材料解析研究分野の廃止

教育研究環境の改善と施設整備

施設マネジメント委員会では、平成19年度から定額配分（約4億5千万円）により予算を確保し、計画的・効率的な教育研究環境改善に取り組んでいます。また施設の状況を把握すべく、10月から3月にかけて全部局キャラバンを実施し、屋上からの漏水及び危険性のある箇所等、緊急を要する工事等も実施しました。

平成19年度実施項目一覧

〔安全・安心に資するもの〕

医学部基礎研究棟等外壁改修 他 12件

〔学生サービス等に資するもの〕

学生会館内装改修

化学棟トイレ改修 他 5件

〔緊急営繕など〕

極限量子科学研究センター防水改修

吹田テニスコート人工芝貼替 他 60件

〔その他〕

UO（旧留学生センター）改修 他 6件

平成19年度は豊中団地における教育研究スペースの狭隘解消を目的とした「文系総合研究棟」が目的積立金により、吹田団地には子育て支援対策の一環として提案された「たけのこ保育園」が学内経費と育児・介護雇用安定等助成金により整備されました。



文系総合研究棟



構造：鉄筋コンクリート造
規模：地上7階
延べ面積：6,588㎡
着工年月：平成19年2月
完成年月：平成20年1月



大阪大学キャンパスマスタープランに沿って計画し、建物を南北に貫く歩行者新街路を設置。建物下部を2層吹き抜けのピロティーとして新街路と一体性を生み出す交流空間としています。

たけのこ保育園



構造：鉄骨造
規模：地上2階
延べ面積：649㎡
着工年月：平成19年8月
完成年月：平成20年1月



孟宗竹が群生する丘陵西側の南北に細長い敷地に、健やかな子供の発育に配慮し、できるだけ日照が得られるように部屋の配置、屋根形状をデザインしています。

平成20年度は、前年度からの老朽化に伴う改善計画と全部局キャラバンの経緯を踏まえ、下記の事項の実施を進めていきます。

平成20年度実施予定項目一覧

〔安全・安心に資するもの〕

（レーザー）レーザープラズマ実験棟外壁等改修 他

〔学生・教職員サービス等に資するもの〕

（核物）共同利用研究員宿泊所改修 他

〔バリアフリー対策〕

（工）中央オープンスペース並びに構内各所バリアフリー化改修 他

教育・情報室

教育・情報室員の交代

以下の5名の室員が任期を終えられました。

金水 敏 教授（文学研究科）	久保 司郎 教授（工学研究科）
大和谷 厚 教授（医学系研究科）	玉井 暉 教授（文学研究科）
下條 真司 教授（サイバーメディアセンター）	

これまで教育・情報室員として長年ご尽力いただいたことに感謝いたします。

4月1日より、次のような新体制となりました。

小泉 潤二 理事・副学長	
三原 健一 教授（言語文化研究科）	藤田喜久雄 教授（工学研究科）
宮崎 純一 教授（医学系研究科）	小林 傳司 教授（コミュニケーションデザイン・センター）
工藤真由美 教授（大学教育実践センター長）	竹村 治雄 教授（サイバーメディアセンター長）
三井 衛 情報推進部長（事務局）	関 昭裕 学生部長（事務局）
細戸 康治 事務部長（附属図書館）	

情報基盤推進本部の設置

情報基盤デザイン機構を改組し、教育・情報室長を本部長、サイバーメディアセンター長を副本部長とする、情報基盤推進本部を設置しました。この本部には附属図書館も加わり、図書館における学術情報基盤を含めて、大阪大学の情報基盤全般の整備を図ります。

平成20年度「大学院教育改革支援プログラム」及び「質の高い大学教育推進プログラム」

日本学術振興会による平成20年度の「大学院教育改革支援プログラム」及び「質の高い大学教育推進プログラム」の概要が明らかになりました。「大学院教育改革支援プログラム」の採択件数は60件程度、一大学からは3件まで、「質の高い大学教育推進プログラム」の採択件数は125件程度、一大学からは4件までという制限がありますので、教育・情報室で学内ヒアリングを行い、その結果に基づいて大阪大学として申請するプログラムを選考します。

入学試験の実施

2月25日 - 26日に前期日程試験、3月12日に後期日程試験が実施されました。本年度は新設の外国語学部への志願者約2,700人のほか、多くの学部で志願者が増加し、大阪大学全体で14,216人となりました。これは昨年度の志願者数9,373人から51.7%の増加となっています。入試にともなう多大な業務に従事された教職員の皆様には感謝いたします。

卒業式・入学式

3月24日 - 25日に卒業式と大学院学位記授与式が挙行されました。大阪外国語大学との統合により、旧外国語学部の学生も合わせて3,532人が学部を卒業し、2,061人が修士号、95人が法務博士（専門職）号、729人が博士号を得ました。卒業生数の増加に伴い、卒業式を1日目の午前と午後の2度に分けて実施し、学位記授与式は翌日に行いました。

また4月1日に入学式が行われ、新たに3,445人が大阪大学に入学しました。こちらも入学者数の増加のため、午前と午後の2度に分けて挙行されました。

附属図書館の改修

平成19年度の補正予算を受けて、附属図書館本館B棟および吹田分館旧館の耐震改修を行います。工事は2008年8月から始まります。改修後は、それぞれラーニング・コモンズと呼ばれる新しい共同学習のスペースもつくられます。

電子的情報基盤整備経費の新設

教育研究の基盤としての電子ジャーナルの重要性はますます増大していますが、その経費はこれまで部局の分担とされてきました。これを全学共通経費化する方向に向けて大きく動き出しました。またデータベース利用についても課金制を撤廃し、一括して電子的情報基盤整備経費によることとして全学で無料化しました。

「大阪大学附属図書館の理念と目標」の策定

附属図書館は「大阪大学附属図書館の理念と目標」を策定しました。これは中期計画第2期に向け附属図書館のミッションを明確にし、教育と研究と社会貢献のため学術情報基盤としての図書館の整備を進めようとするものです。

研究・産学連携室

研究推進室は、国立大学法人化後、本学における研究に関わる事柄を全学的観点から検討するため設置され、これまで数々の大型プロジェクトの採択、外部資金の獲得、企業等との連携などに貢献してまいりましたが、平成20年度からは、本室の役割として、研究の推進とともに産学官連携の推進を明確にするため、名称を研究・産学連携室に変更いたしました。

研究・産学連携室は、西尾章治郎理事・副学長を室長とし、大坊郁夫教授、原島 俊教授、米田悦啓教授、土井健史教授、萩行正憲教授、木村健治教授、正城敏博教授、今田幸二郎研究推進部長を室員とし、平成20年度は、下記の項目を中心に研究と産学連携の活性化を図ります。構成員各位のご協力をお願いします。

産学連携推進本部の設置

大学知的財産本部整備事業は平成19年度で終了するため、知的財産本部、スーパー産学官連携機構を廃止し、平成20年4月に産学官連携窓口の強化を図るとともに、全学的な産学官連携活動の機能推進を図るために産学連携推進本部を設置することにしました。

各種大型研究プロジェクトによる研究の発展・推進

昨年度に引き続き、グローバルCOEプログラム、世界トップレベル国際研究拠点形成促進プログラム、先端融合領域イノベーション創出拠点事業を中心に各研究領域における研究の高度化と人材育成を行い世界トップレベルの研究拠点を形成します。

部局横断型プロジェクトの推進

昨年度に引き続き、部局横断型研究プロジェクトを立案・実施して新規研究分野の開拓を図ると共に、各種競争的資金獲得に向けての戦略的な企画・立案体制を構築します。

各種規程の一部改正

研究推進室から研究・産学連携室への名称変更、産学連携推進本部の設置に伴い、研究推進室に関する規程、発明規程、共同研究講座及び共同研究部門規程等、本室に関連する規程の一部改正を行いました。

評価室

平成20年度の始まりにあたって

平成20年4月からの新体制に伴い、「評価・広報室」から「評価室」として、新たなスタートを切りました。

【評価】

「評価室」にとって、今年度は、全国の国立大学法人にとりまして、初めての経験であり、かつ、最重要課題である「中期目標期間の評価（暫定評価）」を迎えます。

既に、平成19年度中から、各部局には何度も作業をお願いしておりますが、暫定評価に係る実績報告書及び教育研究評価書（「中期目標の達成状況報告書」及び「現況調査表（教育、研究）」）提出を平成20年6月末日に控えております。提出後は、文部科学省国立大学法人評価委員会並びに（独）大学評価・学位授与機構による評価が始まり、平成21年3月末頃には評価結果を受理するという大きな節目の年であります。

これらの評価作業は、大学が法人化後4年間を振り返り、自己評価を行い、組織の改善を自ら行うツールであるとともに、次期中期目標期間の計画策定へつなげていく土台となるものです。

組織評価の在り方や作業の方法等は、常に改善を行ってまいりますが、評価は、大学を構成する各部局の皆様のご理解とご協力がなくてはなし得ないものでありますので、引き続きよろしくお願いします。

【リスク管理】

新たに発足した「リスク管理推進本部」では、本学のリスク管理を統括し、リスク管理に関わる規則等の体系化とリスク管理のための組織体制の整備を推進するとともに、リスク情報の一元的管理を行います。

このために、まずは、リスク情報の把握に着手していきます。

評価室長 高杉 英一

平成20年度からの体制

「評価室」は、次のメンバーで運営されます。

高杉 英一 理事 評価室長

川端 亮 教授（人間科学研究科）

水谷 規男 教授（高等司法研究科）

金澤 浩 教授（理学研究科）

吉峰 俊樹 教授（医学系研究科）

村上 伸也 教授（歯学研究科）

山中 伸介 教授（工学研究科）

谷澤 克行 教授（産業科学研究所）

東野 輝夫 教授（データ管理分析室長・情報科学研究科）

猿渡 勝次 総務部次長（事務局）

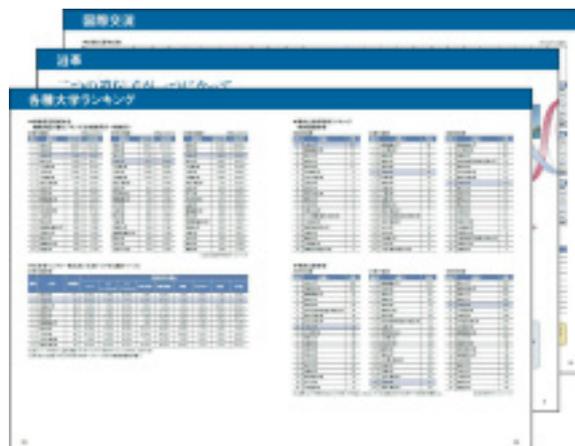
長井 詳昭 総務部評価・広報課長（事務局）

大阪大学業績集 2004 - 2006

全学基礎データ収集システムによるデータ及び基礎評価（平成17年度試行）等に基づき、平成16（2004）年度から平成18（2006）年度の3年間の本学の教育・研究・社会貢献の活動状況並びに業務運営状況に関してとりまとめた「大阪大学業績集2004-2006」を作成し、大阪大学ホームページに掲載しました。

3年間の本学の様々な活動をデータ及び図表を用いて説明しておりますので、是非ともご活用ください。

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/annai/information/joho/gyousekisyu2004_2006.pdf



財務室

平成19年度教育研究等重点推進経費の執行計画

財務室（旧財務・会計室）で策定した平成19年度教育研究等重点推進経費（第6次）執行計画案が、3月18日の役員会で承認されました。

採択事業の詳細は以下のとおりです。

部 局 名 等	事 項 名
附属図書館	Web of Science バックファイルの購入（追加）
科学教育機器リノベーションセンター（研究推進部 / 研究推進課）	リユース可能な研究教育基盤機器整備経費（現有研究教育機器の修理と汎用性基盤機器としての全額共同利用化促進）（追加）
医学部附属病院	院内感染対策整備設備（追加）
バイオ関連多目的研究施設 / 蛋白質研究所	バイオ関連多目的研究施設1階 NMR 室 - 2 改修工事（貸借）
研究推進部	競争的資金を用いた事務機能強化による特任事務職員（8名）の業務遂行に要する什器類等経費（新規）
執行計画額	合計 42,959 千円

平成19年度予算補正（第2次）

法人化後の予算は、学生納付金収入（授業料、入学料、検定料）、附属病院収入などの自己収入額の実績に応じて適宜収入予算を見直し、その増減に対応した支出予算の見直しを行う作業、つまり予算補正案の編成作業を行う必要があります。

このため、上半期の収入実績を基礎とした収入見込額との増減額を支出予算に反映させた予算補正（第1次）を行なったところですが、あらためて財務室（旧財務・会計室）で策定した1月末までの収入実績に基づく予算補正（第2次）案が、2月19日の役員会で承認されました。

平成20年度の予算配分等

平成20年度の予算配分については、財務室（旧財務・会計室）で策定した国立大学法人大阪大学予算編成方針案、平成20年度予算配分基本方針案等が、2月19日の役員会で承認されました。主な変更点は、総長のリーダーシップを発揮した判断により必要な経費を適宜配分可能とするため、大学基盤推進経費財源への全学的間接経費の組み入れ額を、定額方式から定率方式（25%）にしたことなどです。

平成20年度教育研究等重点推進経費執行計画

財務室（旧財務・会計室）では、平成20年度教育研究等重点推進経費について、学内公募を行い、申請のあった事業に対して、書類審査、ヒアリング審査等を経て審議を重ねてきましたが、このたび執行計画案が3月31日の臨時役員会で承認されました。



教育研究等重点推進経費ヒアリング風景

役員室だより

採択事業の詳細は以下のとおりです。

部 局 名 等	事 項 名
事務局（情報推進部）	学務情報システムの整備・拡充
事務局（学生部／学生支援課）	快適なキャンパスライフを支援するための体系的な整備経費（3 - 2）
歯学部附属病院	看護体制並びに教育支援体制の充実に係る経費
教育・情報室（学生部／学務課）	平成20年度大阪大学ファカルティ・ディベロップメント研修（教育・情報室主催）
大学教育実践センター	新型授業開発プロジェクト
教育・情報室（学生部／学務課）	入試広報の充実による志願者確保策と教育環境の向上
附属図書館	学生用図書の体系的・継続的な整備経費
大学教育実践センター	共通教育講義棟C棟AV設備
附属図書館	統合に伴う学生用図書の整備経費
工学研究科	専門英語e-ラーニング教材の開発完了と同教材を利用した新型授業の実践
工学研究科	「阪大キャンパスに咲く花（豊中版）」の出版
教育・情報室（学生部／学務課）	高度教養教育推進のための調査・検討
歯学研究科	歯科医療手技習得のための教育設備導入経費
附属図書館	電子的情報基盤整備経費
工学研究科	核物質防護のためのセキュリティ強化と原子炉等規正法改正への対応
研究推進室(研究推進部／研究推進室)	機関帰属知的財産の出願等経費
サイバーメディアセンター	全学IT認証基盤整備
保健センター	健康診断システム用サーバー更新
事務局（施設部）	キャンパスマスタープランの策定
科学教育機器リノベーションセンター （研究推進部／研究推進課）	リユース可能な研究教育基盤機器整備経費(現有研究教育機器の修理と汎用性基盤機器としての全学共同利用化促進)
保健センター	X線デジタル処理システム用サーバー
蛋白質研究所	核磁気共鳴装置群の統合・整備による国内外の共同利用研究の高度化
海外拠点本部（国際部／国際連携課）	海外拠点本部（サンフランシスコ教育研究センター）運営経費
海外拠点本部（国際部／国際連携課）	海外拠点本部（グローニンゲン教育研究センター）運営経費
海外拠点本部（国際部／国際連携課）	海外拠点本部（バンコク教育研究センター）運営経費
事務局（施設部）	施設情報管理システム保守費
環境安全研究管理センター	大阪大学薬品管理支援システム（OCCS）に係る更新、運営、管理経費
研究推進室(研究推進部／研究推進室)	部局横断型の研究プロジェクト等支援経費
知的財産本部(研究推進部／産学連携課)	バイオメディクス㈱を相手とする知的財産の裁判に必要な弁護士費用等
サイバーメディアセンター	総合情報通信システム（ODINS）推進費
教育・情報室(研究推進部／研究推進課)	第40回大阪大学中之島講座（大学開放事業・社会貢献事業）
医学系研究科（医学科）	飼育ケージ洗浄機更新
医学部附属病院	ナースコール設備（更新）
ラジオアイソトープ総合センター	RI画像解析システムの更新
産業科学研究所	高周波プラズマ発光質量分析装置（ICP-AES）の導入
事務局（研究推進部／不正使用防止 計画推進室）	公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づくハンドブック作成費
レーザーエネルギー学研究センター	超伝導フォトニクス研究棟電源設備増設
学際融合教育研究プラットフォーム （学生部）	平成20年度大阪大学学際融合教育研究プラットフォームシンポジウム ～学際融合教育の観点、狙い及び取り組み状況について～
保健センター	心電計
超高压電子顕微鏡センター	超高压電子顕微鏡用高解像度CCDカメラの更新と性能向上
事務局（施設部）	環境報告書の作成業務委託
太陽エネルギー化学研究センター	機器・施設の共同利用推進のための環境整備
科学教育機器リノベーションセンター （研究推進部／研究推進課）	科学教育機器リノベーションセンターの施設改修と工作機械の更新経費
生命機能研究科	高度生体機能イメージングの基盤技術開発
核物理研究センター	大阪大学神岡観測室の整備
事務局（研究推進部、国際部 他）	研究支援等に係る人件費
執行計画額	合計 1,603,760千円

人事労務室

時間外労働及び休日労働に関する協定書（36協定）の締結

平成20年4月1日から平成21年3月31日までを有効期間とする時間外労働及び休日労働に関する協定書（36協定）の締結については、各地区の過半数代表者との間で数回に及び協議を重ね、そのご意見等を頂戴し、また、大学の置かれた状況や大学の考え方等についてもご理解をいただき、締結に至りました。同協定の主な内容は以下のとおりです。

時間外労働の時間数等に関する原則

36協定によって延長できる時間外労働の時間数は、

- ・1日につき8時間
- ・1か月につき45時間
- ・1年につき360時間

を限度とすることが原則です。

また、同協定により労働することのできる法定休日の日数は、4週につき2日が限度となります。

時間外労働に関する特例

ただし、緊急やむを得ない臨時の事由による場合に限り、本人の同意のもとに、1か月につき45時間もしくは1年につき360時間の限度を超えて時間外労働を命じられて行うこととなりますが、この場合の時間数は、

- ・1か月につき 80時間（附属病院地区の特定医師等については、100時間）
- ・1年につき 480時間（附属病院地区の特定医師等については、750時間）

以内となります。

時間外労働に関する特例の適用にあたっての制限

- ・1か月につき45時間の限度を超えての時間外労働は、1年度内において6月までが限度です。
- ・1年度内における時間外労働の時間数が360時間を超えた場合は、その翌月以降、1か月につき45時間が時間外労働の限度となります。

なお、4月1日付けの事務局長通知により、上記の内容を各部局長等に対してお知らせし、併せて、業務の簡素化やアウトソーシングの活用、所掌事務の変更等により時間外労働の縮減に努めるとともに、勤務時間管理をより徹底して行うようお願いしています。

また、教職員各位に対しても、4月1日に学内専用ホームページ「人事関係」の中に「時間外労働の時間数及び勤務時間等の記録について」を掲載することにより、上記の内容を説明するとともに、勤務時間並びに時間外労働及び休日労働等について勤務時間等記録簿へ記載する際には、適正な時間数等を必ず記載することに留意するよう周知しています。

(https://www-info.osaka-u.ac.jp/gakunai/g_sj/affairs/pdf/200401rohdojikan.pdf)

広報・社会学連携室

新たにスタートしました!!

4月からの新運営体制により、「広報・社会学連携室」が新たなスタートを切りました。

広報・社会学連携室長 武田 佐知子

【広報】

新たに発足した「広報基盤整備本部」では、本学における様々な広報媒体を利用した効果的な広報戦略をまとめ、総長のリーダシップの下、大阪大学の活動を広く社会に発信し、信頼される大阪大学を積極的にアピールしていきます。広報・社会学連携室では、広報基盤整備本部と連携しながら、大阪大学の魅力ある広報のための具体的な企画、立案を行っていきます。特にウェブ広報を強化することは急務であり、「ウェブデザインユニット」を設置し、格調高いウェブページによる情報発信を行っていきます。

【社会学連携】

大阪大学はこれまで多くの社会貢献を果たしてきました。

実績を誇る「産学連携」や病院の診療活動を通じた社会貢献。

これらとともに、大学のシーズを活かして、大阪の学芸と市民文化の再興のために、地域社会、近隣市民の人々等様々なセクターと手を携えて多様な文化事業を推進してゆく、その取り組みが「社会学連携」です。

新たに設置されました「21世紀懐徳堂」を社会学連携活動の拠点として推進していきたいと考えています。

大学構成員の皆さんのご理解とご協力をよろしく願いいたします。



21世紀懐徳堂開所式にて鷲田総長とともに

室員構成

「広報・社会学連携室」は、次のメンバーで運営されます。

武田佐知子 理事 広報・社会学連携室長

永田 靖 教授（文学研究科）

森 勇介 教授（工学研究科）

宇野 公之 教授（薬学研究科）

安蘇 芳雄 教授（産業科学研究所）

野村 美明 教授（国際公共政策研究科）

金水 敏 教授（CSCDセンター長・文学研究科）

猿渡 勝次 総務部次長（事務局）

関 昭裕 学生部長（事務局）

喜田 一也 総務部広報・社会学連携事務室長（事務局）

事務担当も新たに組織編成されました。総務部評価・広報課広報・社会学連携事務室が担当します。

阪大ニューズレター No.39 を刊行



阪大ニューズレター No.39 を刊行しました。今号から、「総長カフェ 21世紀懐徳堂ライブ」と題して、鷲田総長が各界の人たちと語り合うコーナーがスタートしました。また、大阪の文化の継承を掲げる上方文化芸能協会と大阪大学との関わりなど、大阪大学の社会学連携活動を紹介しています。

国際交流室

新たな国際交流推進体制

4月から、これまでの室体制が見直され、国際交流推進本部は国際交流室となりました。

また、大学国際戦略本部強化事業により設置されていた国際企画室は、新たに置かれた国際企画推進本部へ発展的に吸収され、同事業の終了後以降も継続して活動できるようになりました。これらの結果、大阪大学本部の国際交流推進体制はこれまで以上に強化されました。以下では、この体制の構成要素である国際交流室、国際企画推進本部ならびに国際交流委員会、さらに海外拠点本部、およびそれらの活動を支援する事務局国際部について概要を紹介し、本学の国際交流推進体制を理解していただければ幸いです。

国際交流室は、これまでの国際交流推進本部の機能をそのまま引き継ぎます。すなわち国際交流室は、全学委員会である国際交流委員会の意見を尊重しながら、全学的な施策を企画・実施して行きます。国際交流室の下には必要に応じていくつかのワーキンググループ（WG）を編成し、重点的に推進すべき事柄に関する検討を進めています。現在のところ4つのWG等、すなわち留学生・研究者受入サービスシステム検討部会、短期留学受入・派遣推進WG、中国との交流促進検討WG、APRU（環太平洋大学協会）/ AEARU（東アジア研究型大学協会）学内WG、が置かれています。また、新たに設置されたキャンパス整備本部、広報基盤整備本部、産学連携推進本部、リスク管理推進本部にも、宿舎、国際広報、国際産官学連携、危機管理など、必要に応じて積極的に関ることになります。

国際企画推進本部は、基本的にこれまでの国際企画室の機能を受け継ぎます。すなわち、定期的に会議を開いて物事の審議を進めるのではなく、大学の国際化の推進に資するアイデアを本部員が随時持ち寄るとともに、専任の教職員等を中心として必要な専門的調査を行ない、その成果を施策の企画立案に結び付けたり、企画を具現化（ファシリテート）するというように、能動的・機動的な活動を行います。これまで国際企画室に所属していた教職員・特任研究員等はそのまま移行しますが、今後、国際交流活動に熱心に取り組んでいる教職員を新たにメンバーに加え、調査・企画機能をさらに充実させる予定です。国際交流に関するアイデア、ご意見、ご質問、コメント等がありましたら、是非とも国際企画推進本部（員）までお寄せ下さい。

国際交流委員会は、周知の通り各部局等から選ばれた委員で構成されており、国際交流に関する事項の審議、全学的取り組みの運営、部局等との情報の共有などの重要な役割を担っています。国際交流委員会の下にもWG等が置かれ、主として定常的に発生する審議事項や全学的取り組みの運営に当たっています。現在、英語表記WG、学術交流協定に関するWG、海外先進教育研究実践プログラムに関する検討WG、新稲国際学生宿舎入居者選考のための面接委員会、日韓共同理工学系学部留学生受入方法検討WG、国際学生交流推進事業*運営部会（*大阪大学独自の奨学金制度）海外学生交流助成候補者等選考委員会、留学生支援基金運営部会、短期留学プログラム運営部会、日研生プログラム検討WG、短期留学プログラムFrontierLab @ OsakaU 検討WGが設置され、それぞれの任務を遂行しています。

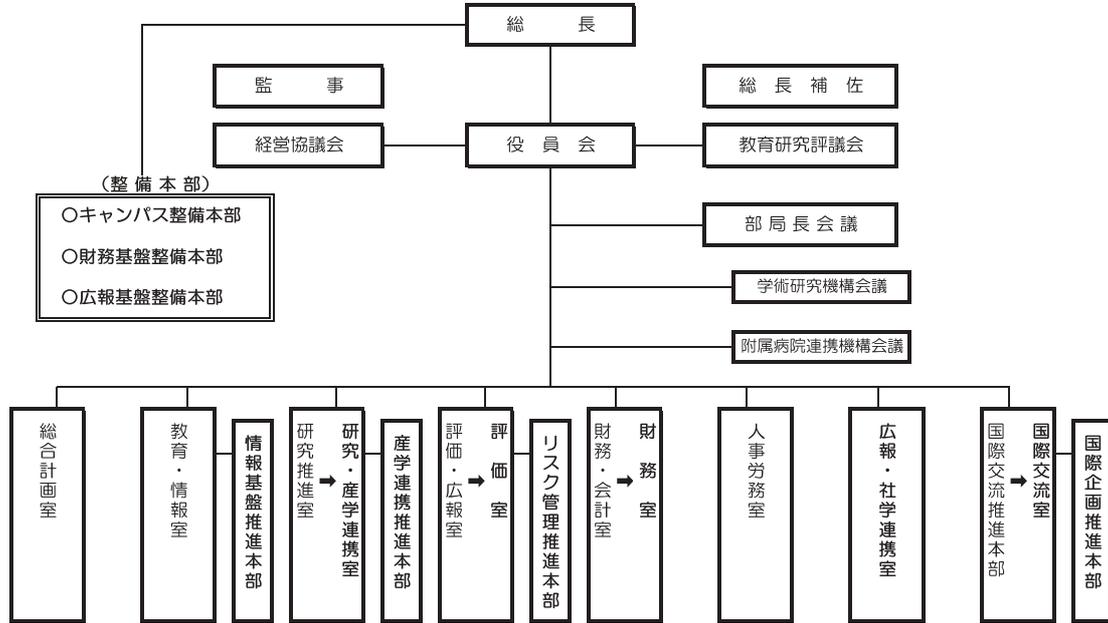
因みに、周知のOUSSEP及び旧大阪外国語大学から大阪大学に引き継がれたOUSSEP-Mapleなどの短期留学特別プログラム（いわゆる「短プロ」）は、前述の短期留学プログラム運営部会により国際交流委員会の下で運営されています。一方、日研生すなわち日本語・日本文化研修生のプログラム、ならびに本年度から新たに創られた理工学系学生を対象とするFrontierLab @ OsakaUについては、定常的運用に至るまでの詳細の詰め作業を検討WGで行っています。

海外拠点本部は、周知の海外拠点（サンフランシスコ教育研究センター、グローニンゲン教育研究センターおよびバンコク教育研究センター）が大学の組織上所属するところとして設置されたものです。この本部は、国際交流室長が本部長を兼任し、海外拠点運営委員会によって運営されています。

国際部は、旧大阪外国語大学との統合に伴い旧研究推進・国際部から独立して設置されました。国際部には国際交流課、国際連携課、学生交流推進課があり、加えて、サポートオフィス（Support Office for International Students and Scholars）が設置されています。詳しい所掌事項はここでは述べませんが、学術交流協定や訪問者の接遇、APRU等に関することは国際交流課、海外拠点およびグローバルコラボレーションセンターに関することは国際連携課、学生交流や奨学金に関する、ならびに留学生センターおよび日本語・日本文化教育センターに関することは学生交流推進課で取り扱っています。

4月からの新体制

平成20年4月からの運営組織



総合計画室 10名

西田正吾(理事・副学長) 堀井俊宏(微・教授)
 青江秀史(司法・教授) 三成賢次(法・教授)
 滝澤温彦(理・教授) 猿渡勝次(総務部次長)
 井上克郎(情・教授) 高橋清夫(財務部長)
 佐古田三郎(医・教授) 西川和慶(施設部長)

教育・情報室 10名

小泉潤二(理事・副学長) 工藤真由美(実・教授)
 三原健一(言・教授) 竹村治雄(サ・教授)
 藤田喜久雄(工・教授) 三井衛(情報推進部長)
 宮崎純一(医・教授) 関昭裕(学生部長)
 小林傳司(CSCD・教授) 細戸康治(図・事務部長)

研究・産学連携室 9名

西尾章治郎(理事・副学長) 木村健治(言・教授)
 大坊郁夫(人・教授) 正城敏博(先・教授)
 原島俊(工・教授) 今田幸二郎(研究推進部長)
 米田悦啓(生・教授)
 土井健史(薬・教授)
 萩行正憲(レ・教授)

評価室 11名

高杉英一(理事・副学長) 東野暉夫(情・教授)
 川端亮(人・教授) 水谷規男(司法・教授)
 金澤浩(理・教授) 村上伸也(歯・教授)
 山中伸介(工・教授) 猿渡勝次(総務部次長)
 吉峰俊樹(医・教授) 長井詳昭(評価・広報課長)
 谷澤克行(産・教授)

財務室 9名

門田守人(理事・副学長) 吉川秀樹(医・教授)
 阿部顕三(経・教授) 狩野裕(基・教授)
 片岡勲(工・教授) 高木信二(経・教授)
 中谷和彦(産・教授) 高橋清夫(財務部長)
 長谷俊治(蛋・教授)

人事労務室 10名

月岡英人(理事・事務局長) 小川一夫(社・教授)
 小嶋典明(司法・教授) 森崎市治郎(歯病・教授)
 松繁寿和(国・教授) 盛岡通(工・教授)
 岡村康行(基・教授) 岩切平治(総務部長)
 野口真三郎(医・教授) 三浦新(人事課長)

広報・社会学連携室 10名

武田佐知子(理事・副学長) 金水敏(文・教授)
 永田靖(文・教授) 野村美明(国・教授)
 森勇介(工・教授) 猿渡勝次(総務部次長)
 宇野公之(薬・教授) 関昭裕(学生部長)
 安蘇芳雄(産・教授) 喜田一也(広報・社会学連携事務室長)

国際交流室 8名

辻毅一郎(理事) 鈴木睦(言・教授)
 辻内直人(国・教授) 菊野亨(情・教授)
 真島和志(基・教授) 木内行雄(国際部長)
 高田健治(歯・教授)
 土岐博(核・教授)

印は室長

総長補佐 7名

川合知二(産・教授) 馬場章夫(工・教授) 三成賢次(法・教授) 山本弘(薬・教授)
 木下タロウ(免・教授) 林紀夫(医・教授) 大和谷厚(医・教授)

平成20年度 年度計画の主要事項

平成20年度 年度計画主要事項 : 大阪大学

1. 業務運営
2. 財務
3. 人事労務
4. 評価
5. 広報・社会学連携
6. 教育・情報
7. 研究・産学連携
8. 国際交流
9. 附属病院

地域に生き世界に輝びる



OSAKA UNIVERSITY

1

【1. 業務運営】

- (1) 円滑な大学運営のための体制整備
 - ・ 6室1本部体制から8室体制(広報・社会学連携室の新設)への移行
 - ・ 課題、特命事項に対する機動的、重点的な取り組みのための整備本部、推進本部の設置
- (2) 次期中期目標・中期計画に向けた検討
 - ・ 第一期の達成状況、評価等の検証を踏まえた次期中期目標・中期計画の原案の策定
- (3) 教育研究組織の整備と定員配置
 - ・ 世界的な研究を支援するための体制の整備
 - ・ 社会のニーズに対応した教育研究組織の設置
 - ・ 円滑な教育研究等を支援するための留保ポストの重点的な配分

OSAKA UNIVERSITY

2

【1. 業務運営】

- (4) 施設マネジメントの一層の推進
 - ・ 老朽建物の改修、施設の維持管理の強化、リーディングプロジェクトの推進、バリアフリー化の推進
 - ・ 民間資金を活用した新たな整備手法の導入の検討
 - ・ 外大統合に伴う新入生増に対応するための豊中地区のインフラ整備
- (5) 多様な人材活用の推進
 - ・ 男女共同参画の推進(保育所の整備、女性研究者支援プログラムの実施)
 - ・ 障害者雇用の推進

OSAKA UNIVERSITY

3

【1. 業務運営】

- (6) 安全衛生管理体制、安全衛生教育の充実
 - ・ 関連4センターとの更なる連携強化による安全衛生管理体制と教育体制の充実
 - ・ 化学物質・高圧ガス・核燃料物質・病原性微生物の管理強化
 - ・ 感染症・事故・災害発生に対する安全衛生管理部門の対応体制の整備
- (7) 事務改革の推進
 - ・ 業務改善による事務の効率化、合理化
 - ・ 外部資金による事務体制の強化

OSAKA UNIVERSITY

4

【2. 財務】

- (1) 長期的な財政計画の策定と財務基盤の整備に向けた検討
 - ・ 財務基盤整備本部の設置
- (2) 総長の指導性の強化のため、総合的・戦略的な資源配分体制の充実
 - ・ 大学基盤推進経費の財源の拡充
- (3) 余裕資金を活用し、国債等による長期・短期運用の効果的な組み合わせによる資金運用
- (4) 学内資金貸付制度の運用による教育研究支援の推進

OSAKA UNIVERSITY

5

【3. 人事労務】

- (1) 障害者の雇用をより一層促進するための措置の検討・実施
 - ・ 障害者の法定雇用率(2.1%)の達成に向けての取組みを検討
 - ・ 障害者の雇用とその雇用に伴う受入れ体制の構築し実施
- (2) 教員への再雇用制度の構築を図るため、具体化に向けた検討
 - ・ 本学においては、改正高年齢者雇用安定法の対応として、再雇用を行うこととしており、63歳を定年年齢とする者について、平成22年度定年退職者からその対象となることより、制度の構築を図るため、具体化に向けた検討

OSAKA UNIVERSITY

6

【4. 評価】

- (1) 中期目標期間の評価(暫定評価)への対応
平成20年度に実施される暫定評価に際して、「中期目標期間及び平成18年度年度の実務推進報告書」を作成するとともに、「(独)大学評価・学位授与機構が行う「教育研究評価」「教育、研究の現状調査」及び「中期目標の達成状況評価」の取りまとめ、訪問調査等」に対応する。
- (2) 法科大学院認証評価への対応
平成20年度に実施する法科大学院認証評価(本評価)に際し、高等司法研究所と連携して自己評価書を作成し、訪問調査等に対応する。
- (3) 達成状況評価
平成19年度計画の達成状況とともに、中期計画が達成できるかどうかの観点からより重視して評価する。
- (4) 機関別認証評価への対応
平成21年度に実施する機関別認証評価に際し、ワーキンググループを設けて、具体的な実施方法を検討し、年度報告書には評価書作成に着手する。

OSAKA UNIVERSITY

7

7

【5. 広報・社会学連携】

- (1) 広報体制の強化
本学の広報活動に係る基本方針を策定し広報基盤の整備を図るため、総長を本部長とする「広報基盤整備本部」を設置
- (2) ホームページの充実
英語による情報発信の強化、迅速な情報発信及びマルチメディアコンテンツの充実を図るために、WEB広報全般を機能的に運営することを目的とした「ウェブデザインユニット」を設置
- (3) 社会学連携と21世紀構想堂
 - ・ 大阪市、北摂5市、堺市との連携協定に基づくさまざまな連携事業の推進
 - ・ 市民を対象とした公開講座等の文化事業を推進するために、「21世紀構想堂」を設置

OSAKA UNIVERSITY

8

8

【6. 教育・情報】

- (1) 大阪大学の三つの教育目標「教養」「デザイン力」「国際性」の強化に向けて、大学教育実践センター、コミュニケーションデザイン・センター(CSCD)、グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)を中心に改革を推進
- (2) 大阪外国語大学との統合の意義を実現する新しい教育実践への取り組み
- (3) 国際協力のための教育実践に向けて、国際協力機構(JICA)と国立民族学博物館との連携協力を推進
- (4) 特別教育研究経費および外部の競争的資金による教育改革

OSAKA UNIVERSITY

9

9

【6. 教育・情報】

- (5) 基礎教育・大学院教育の質の向上への取り組み
- (6) TA制度改革による教育の質の向上
- (7) キャリア教育の推進
- (8) 全学FD活動の推進
- (9) IT基盤により教育・学務の質の向上
- (10) 学術情報基盤としての図書館の改修と整備
- (11) 入試戦略と入試広報の強化

OSAKA UNIVERSITY

10

10

【7. 研究・産学連携】

- (1) 次期中期目標・中期計画における研究推進及び産学連携の在り方
- (2) 21世紀COEプログラムの継続・発展とグローバルCOEプログラムの発展・推進
- (3) 先端融合領域イノベーション創出拠点、世界トップレベル国際研究拠点形成促進プログラムによる研究拠点の発展
- (4) 科学教育機器リノベーションセンターのリユース促進、先端機器開発、汎用性機器共同利用による研究教育環境の整備・高度化
- (5) 本学全体の産学連携機能を集約した産学連携推進本部の設置

OSAKA UNIVERSITY

11

11

【7. 研究・産学連携】

- (6) 彩都や関西バイオクラスターとの連携・強化を含む国際及び地域産学官連携の推進
・ ライフサイエンス領域でのトランスレーショナルリサーチ拠点形成事業の支援
- (7) 戦略的な受託研究・共同研究への対応による外部資金の拡大
・ 共同研究推進制度の活用
・ 技術交流会、企業との連携協定による産学連携研究の推進
- (8) 部局横断型研究ワーキングによる研究グランドデザインの策定と推進
- (9) 特別教育研究経費による研究拠点形成ならびに大学間連携研究の推進
- (10) ナノサイエンス・ナノテクノロジー研究推進機構、生命科学・生命工学研究推進機構、サステナビリティ・サイエンス研究機構による部局横断型研究の企画と推進

OSAKA UNIVERSITY

12

12

【8. 国際交流】

(1) 海外教育研究拠点活動の推進

- 共通事項**
- ・拠点周辺の大学・教育機関との協力強化並びに連携促進
 - ・学部・大学院生の短期研修、インターンシップ実施の支援
 - ・セミナー・シンポジウム、留学フェア
- サンフランシスコ教育研究センター（アメリカ、H. 14設置）**
- ・通訳講座「世界は今、サンフランシスコから」（前期：日本語）
 - 「学問のすすめ、米国大学キャンパスから」（後期：英語）
 - ・国際定年者連携活動の支援
 - ・JAFSA（ペイリアス学院連携ネットワーク）における交流促進
 - ・北米地区大東大研究会の活動支援
- グローニンゲン教育研究センター（オランダ、H. 17設置）**
- ・グローニンゲン大学との重点的関係促進
 - ・若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム（ITP）の推進支援
 - ・TILレクチャーの本格的運用開始と奨励による産学教育の充実
 - ・ Erasmus Mundus計画への参加支援
- パレム教育研究センター（タイ、H. 18設置）**
- ・日系市民を対象とした「大東大大学（パレムレクチャー）の継続実施
 - ・東南アジア地域大東大国際交流コーディネーターネットワークの構築
 - ・E.O.O.L（グローバルコラボレーションセンター）の活動支援

13

【8. 国際交流】

(2) 海外から来学した学生・研究者に対する生活・研究環境の整備
ーワンストップ・サービスの本格実施ー

- ・サポート・オフィスによる支援
- ・GCN-Osaka（ネットよでの参加型情報提供サービス）による各種情報提供

(3) 国際学生交流推進事業の実施

- ・短期留学受入れプログラムの多様な実施
- ・各種助成事業による学生交流の推進
（学生交流助成、学生海外研修プログラム等助成、
学生海外短期研究留学助成、学生海外研修助成）
- ・留学生支援基金による留学生活のサポート

(4) 国際交流に関する企画・立案能力の強化

- ・国際企画室による企画・立案能力の強化
- ・主要大学との研究交流の推進一特にアジア諸国との交流促進に向けてー
- ・大学間ネットワークを活用した教育研究協力の推進
（APRU, AEARU, Erasmus Mundus）
- ・国際費助の積極的活用

14

【9. 医学部附属病院】

医学部附属病院は、中期目標・中期計画の進捗状況に鑑み、大学病院のミッションである教育、研究、診療を一層推進するため、平成20年度、以下のような重点課題を実施することとしている。

(1) 診療機能の充実（センター化構想）

- 患者さんのニーズに対応した診療機能を充実するため、特長ある診療専門別センター化を推進する。
- ・オンコロジーセンターの設置（がん診療の向上）
- ・ハートセンターの充実（CCU（救命救急科併設）4床→6床に増床）
- ・呼吸器センターの設置

(2) チーム医療によるがん診療の向上

- 平成20年度に設置されるオンコロジーセンターをはじめ、緩和ケアチーム、放射線治療部門とも連携して、ひとりの患者さんに、各診療科、診療部門の医師がチームとなって診療を行うことにより、がん診療の向上を目指す。

(3) 未来医療センターの機能の充実

- 平成14年4月に設置された未来医療センターにおいて、高度先進医療、トランスレーショナルリサーチを推進することにより、先進的な治療の開発・研究を一層推進する。

15

【9. 医学部附属病院】

(4) 臨床試験の活性化の推進

- 国立大学病院としてのミッションの一つである臨床試験（治験）と臨床研究を一層推進するため、新たに臨床試験部を設置する。

(5) 7:1看護体制の更なる発展

- 平成18年度の施設増設により新設された7:1看護体制は、平成19年7月に取得したところであるが、さらに、患者さんに対して、安心して、安全な医療の提供を行うことにより、大学病院として地域社会へ一層貢献する。

(6) ドクターヘリの運用開始

- 平成20年1月より、大東大のドクターヘリ事業に協力しているが、この事業により救急医療体制の一層の充実を図る。

16

【9. 歯学部附属病院】

歯学部附属病院は、中期目標の達成、大学附属病院のミッションである教育、研究、診療を一層推進し、社会の要請に応え、かつ、より有能な歯科医師を養成するため、平成20年度は以下のような重点課題を実施することとしている。

(1) 本館改修とカルテ管理システムの運用

- 昨秋から実施している本館改修に伴って、カルテ管理システムに万全を期すための保管場所及びシステムを確保した。今後、診療情報管理士を専任する等によりソフト面、ハード面での適正な診療情報管理を推進する。

(2) 診療機能の充実（センター構想）

- 患者ニーズに対応した診療機能を充実するため、総合・専門歯科診療センターの設置を推進する。
- ・一般歯科総合診療センター
病院内に歯科用治療床子40台を配置した一般歯科総合診療センターを設置し、安全な治療と患者の歯科医師と患者との信頼関係を構築した。今後は、既設経路との統合も視野にいた、より発展的・合理的な経路への検討を推進する。
- ・インプラントセンター（仮称）（安心・安全な医療の提供）
現在、多数の診療科でそれぞれ実施しているインプラント治療を一元的に総合診療室を確保し、平成20年度4室のうち1室を優先的に使用することにより治療の安全を確保する。

17

【9. 歯学部附属病院】

(3) 地域連携の推進（救急医療体制）

- 大東大北前、能勢等の北部地域における中核的歯科医療機関としてより地域との連携を図るため、受入先医療機関が連携となる夜間救急対応を積極的に進めてきた。今後引き続き、阪大歯学部附属病院の存在を知らしめると共に、地域での講演等を活動に行い、外来患者の増加を図る。

(4) 病院経営体制の充実

- 平成19年度に実施した経営コンサルティングを継続し、財源改善を考慮した新たな活動を検討・推進する。

(5) 臨床プロジェクト型研究の推進

- 臨床研究活性化委員会（院内設置）で、20年度は、口腔癌患者を有する歯科等への手術・治療に関する臨床研究を複数診療科で横断的に推進することとしている。

18

平成19年度大阪大学ビデオ英語・英会話研修実施

本学の国際交流が活発化するなか、外国人教師・研究員・留学生等の受け入れ関係事務の増加に伴い英語を使用する機会がますます増えるため、その対応ができる職員の育成を目的とした、平成19年度のビデオ英語・英会話研修が、平成19年9月6日(木)から平成20年1月13日(日)まで参加者8名により行われました。近畿大学非常講師の足達賀代子さんを講師とする計15回(1回2時間)の講義・演習に加え、今年度は研修の一環としてTOEICテストの受験が加わりました。

講義・演習においては、実用英会話の中でも特に聴解力を修得させるとともに、基本会話の演習及びオランダのグローニンゲン教育研究センター(大阪大学海外拠点事務所)へ平成17年4月から平成19年3月まで常駐職員として派遣された地石雅彦さんによる海外研修体験談報告などを盛り込んだ総合的な語学学習方式で実施されました。

研修生は、同講師の熱心な指導と研修生自身の努力によって、各人の英語能力も当初より格段に向上しました。

(総務部人事課)



レーザーエネルギー学研究センター第1回産業共用シンポジウム開催

レーザーエネルギー学研究センターの第1回産業共用シンポジウム「高強度レーザーが拓く光科学新産業」が、1月17日(木)、同センター大ホールにて開催されました。「高強度レーザーが拓く光科学新産業」事業は、世界最大級のパルスエネルギーを出力する激光XII号レーザーをはじめ、最新の科学的知見を生み出している先端的なレーザー施設を産業界に開放するとともに、計測・理論解析を加えたセンターの技術総合力で支援することにより、新産業の創出につなげる取り組みで、昨年、文部科学省「先端研究施設共用イノベーション創出事業」に採択されました。



基調講演を行う柿田室長

シンポジウムには企業、産学連携関係者を中心に117名が参加し、三間園興センター長による開催挨拶の後、IFEフォーラム座長の藤野隆雄氏(関西電力㈱常務取締役)から祝辞を頂き、文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課新技術革新室長の柿田恭良氏による基調講演をはじめ、産学官の様々の視点から、本事業への期待、課題、社会的役割についての講演や活発な討議が行われ盛況のもとに終了しました。

(レーザーエネルギー学研究センター)

平成19年度大学院歯学研究科FD講演会開催

歯学研究科では、平成19年度大学院歯学研究科FDの取り組みの一環として、1月21日(月)にF棟(口腔科学研究棟)5階弓倉記念ホールにおいて講演会を開催しました。

冒頭、米田俊之研究科長の挨拶の後、文部科学省の三浦和幸高等教育局大学振興課課長補佐が、「大学院教育に期待するもの - 魅力ある大学院教育の構築に向けて」と題し、



大学院教育の現状分析と将来像、それに対する文部科学省の方針について講演を行いました。

講演には60名を超える教職員や大学院生が参加し、熱心に耳を傾け、大学院教育の重要性について共通の認識を持つことができ、大変有意義なものとなりました。

(歯学研究科・歯学部)

韓国の学术交流協定締結校一行来訪

2月1日(金)、大阪大学もしくは歯学研究科と学术交流協定を締結している韓国のソウル大学、延世大学及び慶北大学の歯学部の教授等9名が、米田俊之歯学研究科長を表敬訪問しました。



一行は、米田研究科長と懇談、歯学研究科及び歯学部附属病院を見学した後、歯学研究科21世紀COEシンポジウム「Origination of Frontier BioDentistry Network」において講演を行い、日韓の先端歯科医学研究の学术交流を図り、今後の連携の必要性を再確認しました。

(歯学研究科・歯学部)

産業科学研究所が国際シンポジウム開催

産業科学研究所では、2月4日(月)、5日(火)に「第11回産研/第6回ナノテクセンター/第1回MSTEC国際シンポジウム」を淡路夢舞台国際会議場で開催しました。

今回の国際シンポジウムは、「ナノサイエンス&ナノテクノロジー研究の新たな展開 “New Advances in Nanoscience & Nanotechnology”」というテーマを設定し、近年その発展が飛躍的に著しいスピントロニクス、ナノバイオ、ナノ有機、ナノエレクトロニクス、ナノカーボン等を中心に国内外の研究者による18の招待講演が行われ、さらにポスターセッションでは、98枚ものポスターで活発な討論が行われました。外国人招待講演者として、アメリカ、イギリ



招待講を行うDavid G. Whitten教授 (New Mexico大学)



淡路人形浄瑠璃

ス、韓国、インドの4ヶ国から8人が参加し、国内外から集まった約140人の研究者と活発な質疑応答が行われ、大変有意義なシンポジウムとなりました。

なお、パンケットでは、日本の伝統芸能を紹介することを目的として、淡路人形浄瑠璃が披露され、外国人招待講演者に日本文化を紹介する貴重な機会となりました。

本研究所が行う国際会議・シンポジウムは、毎回インターネットライブで講演を配信しています。各演者による興味深い講演は、現在産研ホームページ (<http://www.netroom.sanken.osaka-u.ac.jp/SYMPO2008/program.html>) より視聴可能ですので、是非ご覧ください。

(産業科学研究所)

医学部保健学科が第5回近畿チーム医療フォーラム開催

医学部保健学科が、第5回近畿チーム医療フォーラム：チーム医療で取り組む「がんプロフェッショナル養成プラン」を、2月10日(日)大阪大学中之島センターにおいて、教育・医療関係者約70名の参加を得て開催いたしました。

このフォーラムは、京都大学、神戸大学、大阪大学の3大学が持ち回りで開催しているもので、今回は、平成19年6月に策定された「がん対策推進基本計画」を受けて助成されることになった「がんプロフェッショナル養成プラン」に、3大学がそれぞれ異なるグループとして採択されたことから現在取り組んでいる状況の報告の場として平成19年度当番の大阪大学が開催したものです。

フォーラムでは、大和谷 厚医学部保健学科長の挨拶の後、「チーム医療と聴く力」と題し鷲田清一総長から、がんを患い苦痛の中に身を置くことで閉ざされる世界、苦しみに耳を傾けることの難しさなど人としての存在の意味やあり様にまで迫る内容の基調講演が行われました。

シンポジウムでは、大西和子三重大学大学院医学系研究科教授(京都大学採択分)、平井みどり神戸大学医学部附属病院薬剤部長・教授、松浦成昭大阪大学大学院医学系研究科教授から各大学のがんプロフェッショナル養成プラン



基調講演を行う鷲田総長

の概要、特色の紹介、取り組み状況の報告の後、意見交換がありました。

次いで、「がん医療から始まる新しいチーム医療」と題し、三浦公嗣文部科学省高等教育局医学教育課長から、今後のチーム医療のあり方、また、それを担う人材育成について示唆に富む特別講演が行われました。

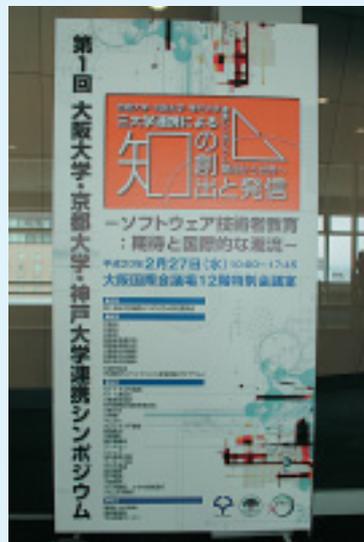
今回のフォーラムは、各プランの充実・発展のみならず、大学教育そして、がん医療の充実・発展に向けて有意義なものとなりました。

(医学系研究科・医学部)

第1回大阪大学・京都大学・神戸大学連携シンポジウム - 関西から世界へ:三大学連携による「知」の創出と発信 - 開催

大阪大学、京都大学及び神戸大学の3大学が連携し、世界に通用する高度人材育成を行うとともに、関西の知的創造拠点を形成することを目的とした国際シンポジウムが2月27日(水)大阪国際会議場において開催され、大学、企業関係者や経済界等から約320名が参加しました。

第1回目となる平成19年度は大阪大学が幹事校となり、情報科学分野を対象とした大学間連携による高度人材育成に関するテーマ「ソフトウェア技術者教育：期待と国際的な潮流」で行われ、シンポジウムの冒頭では、大阪大学鷲田清一総長、京都大学尾池和夫総長、神戸大学野上智行学長が、関西が誇る世界の「知」を集積し、世界へ向けて発信していきたいと挨拶を述べました。



鷲田阪大総長



尾池京大総長



野上神大学長



会場の様子



パネルディスカッション

シンポジウムでは、ドイツ、米国、韓国、インドの4カ国から招いた研究者による各国のソフトウェア技術者教育の現状について講演が行われ、後半には、文部科学省「先導的ITスペシャリスト育成プログラム」の紹介と、大阪大学をはじめ6大学の研究者によるIT教育の実践についてパネルディスカッションが行われました。

(総務部総務課)

公開講座「これから始める心エコー図検査セミナー」開催

医学系研究科保健学専攻では、2月28日(木)に公開講座「これから始める心エコー図検査セミナー」を開催しました。

心エコー図は、心臓病の診断に用いられている超音波検査法で、患者さんに対して全く非侵襲的な「人に優しい」検査法です。検査する側では、患者さんの体位、検査手順、探触子の操作、記録方法など、どれを取っても「易しい」



検査ではなく、むしろ難しい検査法で、心エコー図の記録や読影には熟練が必要です。そのため、検査方法の習得を希望する医療関係者は多いものの、その機会がないのが現状です。

今回の公開講座は、受講者を10名に限定し、主に開業医を対象として検査の技術修得の実習を中心としたセミナーを開催しました。講義の後、3グループに分かれた実習では、日本心エコー図学会理事長でもある別府慎太郎教授を始め、関連学会の認定する指導医・専門医である教員らによるマンツーマンでの丁寧かつ熱心な実技指導が行われました。

セミナー終了時のアンケートでは、個別指導の丁寧さ、初めての探触子操作で何とか画像を描出できたことへの達成感等参加者全員から大変満足した内容のコメントが寄せられ、大変好評でした。次回の開催を希望する声も多数あり、保健学専攻では今後も同様の公開講座を開催する予定です。

(医学系研究科・医学部)

LibQUAL⁺シンポジウム(大阪会場)開催

図書館利用者の視点を重視した図書館サービス評価のための国際ワークショップとシンポジウムが、「図書館利用者を知る：LibQUAL⁺によるサービス評価」と題して開催されました。まず、図書館評価に関するグループ討議を交えたワークショップが、2月27日(水)慶應義塾大学三田キャンパス(東京会場)で行われた後、3つの講演、2つの事例報告とパネルディスカッションから成るシンポジウムを、2月29日(金)附属図書館豊中本館(大阪会場)にお



いて、85名(49大学・機関)の参加者を迎え実施しました。

LibQUAL⁺は、テキサスA & M大学チームと米国研究図書館協会(Association of Research Libraries, ARL)の調査プロジェクトによって、1999年から協同開発されたWebによる図書館用のサービス品質に関する利用者アンケート調査と分析がパッケージ化されたサービスで、米国のみならず、これまでに全世界の500館以上が参加し、各国語にも翻訳されています。

シンポジウムでは、東北学院大学の佐藤義則教授による基調講演「図書館サービス評価と利用者および利用の調査」に始まり、LibQUAL⁺開発の主要メンバーであるMartha Kyriallidou氏(ARL LibQUAL⁺部門)とColleen Cook氏(テキサスA & M大学図書館長)から、開発経緯や調査結果の活かし方についての具体的な講演が行われました。そしてその後、慶應義塾大学と大阪大学による事例報告とパネルディスカッションが行われました。

附属図書館では、さらに利用者からのサービスに関する意見に耳を傾け、シンポジウムで得られた知見を、今後のサービスの改善・充実に役立てていきたいと考えています。

(附属図書館)

理学研究科「ゴミ・化学薬品の廃棄及び実験上の安全に関する説明会」開催

理学研究科では、3月5日(水)に理学部本館 D501 大講義室において、教職員・学生を対象として、「ゴミ・化学薬品の廃棄及び実験上の安全に関する説明会」を次のとおり開催しました。



- (1) 安全衛生全般について
(説明者：安全衛生管理部副部長・教授 山本 仁)
- (2) ゴミの廃棄について
(説明者：理学研究科庶務係主任 小西三郎)
- (3) 化学薬品の取扱と廃棄について
(説明者：理学研究科化学専攻教授 深瀬浩一)
- (4) 実験上の安全に関して
(説明者：理学研究科高分子科学専攻教授 青島貞人)

この説明会は、昨今のゴミ置場及び実験中の事故発生を受け、本研究科安全衛生管理委員会が主催し、事故再発防止と安全意識高揚を目的に実施したものです。参加した約200名の教職員・学生等は、熱心に聞き入り、会は成功裡に終わりました。

(理学研究科・理学部)

情報科学研究科がグローバルCOE創設シンポジウム開催

情報科学研究科は、3月5日(水)、大阪府豊中市内のホテルにおいて、文部科学省グローバルCOEプログラム「アンビエント情報社会基盤創成拠点 生物に学ぶ情報環境技術の確立」創設シンポジウムを開催しました。

同拠点は、昨年6月にグローバルCOEプログラムとして採択されたものであり、今回のシンポは、同プログラム初年度にあたり、今後の高度人材育成・研究推進の方向性について理解を深めることを目的として行われたもので、国内外からの関心が高く、200名を超える研究者、報道関係者が参加しました。

シンポは、今瀬 真研究科長の挨拶の後、㈱日立製作所取締役会長(元総合科学技術会議議員)の庄山悦彦氏が「アンビエント情報社会におけるイノベーションへの期待」と題して基調講演を行い、続いてフィリップス研究所主席研究員の Evert J. van Loenen 博士の招待講演が行われました。

その後、同プログラムのプロジェクトリーダーである西尾章治部理事・副学長の全体説明の後、各グループの説明



が担当教授から行われ、活発な質疑応答が行われるなど、関心の高さが伺えました。

同拠点は、グローバルな視点で21世紀の情報科学技術の発展に大きく貢献できる若手人材を育成する等、情報科学技術分野で更なる発展が期待されます。

(情報科学研究科)

サステナビリティ・サイエンス研究機構シンポジウム及び国際シンポジウム開催

サステナビリティ・サイエンス研究機構（RISS）は、「持続可能な産業社会形成」をメインテーマに、3月7日（金）大阪大学中之島センターにおいてシンポジウムを、8日（土）尼崎市中小企業センターにおいて、国際シンポジウムを開催しました。

「産業社会を持続させるためのフィロソフィ」と題した7日のシンポジウムには、約160名が参加し、大阪ガス株式会社の中谷秀敏副社長が持続可能社会に活かす日本の技術と智恵について講演を行いました。続いて、国際日本文化研究センター名誉教授の山折哲雄氏が東洋的な考え方を背景に持つ経営の在り方について、また、本学の鷲田清一総長が豊かさの意味を再考することによる行動の意義について講演を行いました。



7日のシンポジウムで講演する鷲田総長

8日は、「環境再生による持続可能な地域づくり」をテーマに、午前の部で

はサステナビリティ学連携研究機構（IR3S）（統括：東大）フラッグシッププロジェクトの研究報告を、午後の部では第2回RISS国際シンポジウムを行いました。同報告会には約90名の参加があり、東京大学大学院の花木啓祐教授、北海道大学の田中教幸教授、RISS兼任教員である本学の梅田 靖教授の3氏が発表を行いました。

国際シンポジウムには、約230名が参加し、早稲田大学の伊藤 滋特命教授が基調講演、ゲルハルト・ゼルトマン氏がIBA エムシャーパーク事業（ドイツ）、スペイン・ビルバオ市副市長のイボン・アレソ氏が国連で「世界有数の復興都市」に認められたビルバオ市の都市再生の取り組みを紹介しました。

講演後のパネルディスカッションでは、上記の講演者3名に、積水ハウス株式会社の伊久哲雄常務、兵庫県庁の本井敏男まちづくり局長、IR3S 副機構長の武内和彦東京大学大学院教授が加わり活発な議論を展開し、産業地域社会の実現に向けた礎を築きました。

（サステナビリティ・サイエンス研究機構）

工学研究科附属サステナビリティ・デザイン・オンサイト研究センター開所式開催

平成19年10月1日、研究施設として初めて尼崎臨海地区に設立された工学研究科附属サステナビリティ・デザイン・オンサイト研究センター（略称：オンサイト研究センター）は、その研究交流棟が竣工したのを記念し、3月8日（土）に開所式を行いました。

開所式典では、学内外から60人が出席する中、井戸敏三兵庫県知事、白井 文尼崎市長、酒井 一尼崎市議会副議長、和田 勇積水ハウス株式会社代表取締役社長、西尾章治郎大阪大学理事・副学長、豊田政男工学研究科長によるテープカットが行われました。

その後、町村 尚工学研究科准教授の司会で式典は進められ、豊田研究科長の挨拶のあと、井戸県知事、和田社長による祝辞が披露されました。



西尾理事・副学長の挨拶



オンサイト研究センター研究交流棟

引き続き、西尾理事・副学長から挨拶の後、開設にあたり協力支援をいただいたアマタ株式会社、大阪ガス株式会社、株式会社神戸製鋼所、積水ハウス株式会社、西日本旅客鉄道株式会社を代表して、熊野英介アマタ株式会社代表取締役社長に感謝状が贈呈されました。

開所式終了後、オンサイト研究センターで開かれた披露会では、盛岡 通オンサイト研究センター長の挨拶と発声による乾杯が行われ、学内外の来賓・関係者が参加する中、終始和やかな雰囲気懇談が行われました。

オンサイト研究センター研究交流棟は、2階建て548㎡、会議室、研究室、地域交流の空間を備え、持続可能な産業地域社会の実現を目指す提言がなされる発信基地となることが期待されています。

（工学研究科・工学部）

第13回企業等との研究懇話会開催

第13回大阪大学研究懇話会が3月11日(火)、医学部銀杏会館で開催されました。

この研究懇話会は、企業等に本学における研究活動の情報を提供するとともに、企業が求める人材あるいは共同研究など大学に対する要望など幅広く意見交換することを目的に年に一度、開催されています。

当日は、関西の企業等の研究開発担当役員及び本学の部長等、総勢80名以上が集まり、『新生大阪大学と産学連携による高度人材育成』というテーマのもと、鷲田清一総



鷲田総長



野村りそな銀行取締役副会長

長による講演、企業側を代表してりそな銀行取締役副会長の野村正朗氏の「企業が期待する大学における人材育成について」と題するご講演をいただきました。

また、社会人の高度人材育成プログラムを推進する本学教員からそれぞれ話題提供があり、今後の大学運営、産学連携及び協力の推進等について、参加された企業等の方と活発な意見交換が行われました。

(研究推進部研究推進課)

米国イェール大学から表敬訪問

3月13日(木)、米国イェール大学より、ジョン・パトラー文理学研究科長、ジョージ・ジョセフ国際関係担当副総長代理、ウェズリー・ポーリング大学院寄付金獲得部長が鷲田清一総長を表敬訪問し、本学留学生の派遣状況及びイェール大学博士課程への申請について懇談しました。

総長表敬には、高田健治歯学研究科教授(国際交流推進本部員)、森岡裕一文学研究科教授、イェール大学応用物理学科で1981年から1年間助手をされていた囃地 宏レーザーエネルギー学研究センター教授が加わりました。

総長表敬後の懇談では、お互いの理解をさらに深めるために、総長を除く上記対応者に加え、竹中 浩法学研究科教授、高阪 章国際公共政策研究科教授、ヨコタ・ジェリー言語文化研究科教授が加わり、大学院教育の諸問題などについて活発な意見交換が行われました。

イェール大学は1701年創立で、アメリカ東部アイビー・リーグに所属する8校の1つです。昨年の「タイムズ紙世



界大学ランキング2007」では2位(本学は46位)で、名実共に世界のトップクラスの大学として知られています。イェール大学の本学への公式訪問は今回が初めてで、今後の国際交流における協力関係が期待されます。

(国際部国際交流課)

退職教授との懇談会開催

総長主催による平成19年度退職教授との懇談会が3月19日(水)、医学部銀杏会館で開催されました。

この懇談会は、本学を退職または転出される教授の方々の永年のご尽力に感謝するとともに、惜別の意を表すために開催され、今回は対象となる51名のうち、25名の方々が出席されました。



鷲田総長の挨拶



小谷教授からの謝辞

はじめに、鷲田清一総長の挨拶のあと、退職教授を代表して理学研究科の小谷眞一教授から謝辞が述べられました。

引き続き、西田正吾理事・副学長の発声で乾杯し、終始和やかな雰囲気の中で歓談が行われ、名残を惜しみつつ閉会となりました。

(総務部総務課)

平成19年度普通救命講習会開催

平成19年度普通救命講習会が、吹田市・豊中市消防署の協力により、2月18日(月)、3月18日(火)に吹田地区において、また、2月19日(火)、3月19日(水)に豊中地区において開催されました。



この普通救命講習会では、心肺蘇生法による人工呼吸、心臓マッサージの実習やAEDの取扱いについて行われました。(大阪大学AED設置台数56台)

心臓や呼吸が止まった人の治療はまさに1分1秒を争い、命が助かる可能性(生存退院率)は、1分ごとに7~10%低下していきます。

このようなとき必要なことは、まず「すぐに119番通報する」ことですが、救急車が到着するまで6分(全国平均)以上かかります。もし、救急車が来るまで手をこまねいては、助かる命も助けられなくなる場合もあります。そこで、そばに居合わせた人による救命処置が重要になるのです。

私たちは、いつ、このような救命の手助けをする現場に遭遇するかわかりません。

万が一に備えて、講習会に参加してみませんか。

(安全衛生管理部)

文系総合研究棟竣工記念シンポジウム・記念式典挙行

3月26日(水)、大阪大学文系総合研究棟の竣工を記念するシンポジウムと式典を開催しました。記念式典に先立ち、天野文雄文学研究科長の総合司会のもと、新生大阪大学がその独自の「阪大スタイル」を内外に広く示し、また本新棟が大阪大学において担うべき役割と意義を知ってもらうために、「阪大は、いま - 新生大阪大学の社会学連携と『ときめき』研究」と題した公開シンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、鷲田清一総長が最初に基調講演を行い、「21世紀の懐徳堂」たるべき大阪大学の新たな「スタイル」について語りました。それを受けて、小泉潤二理事・副学長の司会のもと、大阪大学のグローバルCOEプログラム拠点リーダーである、西尾章治郎理事・副学長と柳田敏雄生命機能研究科教授によって「『ゆらぎ』を科学する：生物科学と情報科学からの視点」をテーマにリレートークが行われ、大阪大学で現在進められている他分野融合的な世界最先端の研究の一端が示されました。

記念式典では、工藤眞由美大学教育実践センター長の司会により、本竣工記念式典の実行委員会である三成賢次法学研究科長が式辞を述べ、高杉英一理事・副学長が大阪大



模擬法廷

学を代表して挨拶をしました。そして、当日のご来賓である清水潔文部科学省高等教育局長に祝辞を賜りました(澤田佳成国立大学法人支援課課長補佐による代読)。最後に、高橋明男法学研究科副研究科長が文系総合研究棟の概要説明を行い、新棟の施設内容や機能について画像資料を交えながら解説をしました。式典終了後すぐに新棟の見学会を行い、参加者には講義室や模擬法廷などの各施設を実際に見ていただきました。

見学会の後、新棟施設の有効利用の手法を示すために、大講義室を利用して祝賀会を開催しました。本多佑三経済学研究科長の司会のもと、まず床谷文雄国際公共政策研究科長が関係者一同を代表して挨拶を行い、続いて大阪大学の顧問弁護士であり、また、経営協議会委員でもある鎌倉利行様からご挨拶をいただきました。そして、松川正毅高等司法研究科長による乾杯の発声で祝宴が始まり、途中に守山敏樹保健センター長の新棟竣工に関わるスピーチなどもあり、和やかな雰囲気の中で文系総合研究棟の竣工を祝いました。

(文系総合研究棟竣工記念式典実行委員会)

事務系職員退職者送別会開催

平成19年度事務系職員退職者送別会が、3月27日(木)に医学部銀杏会館3階大会議室で行われました。

この催しは、本学を退職される事務系職員の方々への在職中のご尽力に感謝するとともに、惜別の意を表するため開催されているもので、退職される14名を含む56名の出席がありました。

はじめに、岩切平治総務部長から挨拶があり、続いて三井衛情報推進部長の発声で乾杯し、その後、退職される方々全員から挨拶がありました。

終始和やかな雰囲気の中で歓談が行われ、名残を惜しみつつ閉会となりました。

(総務部総務課)



岩切部長の挨拶

ベトナム副首相兼教育訓練大臣来訪

外務省賓客として来日されたグエン・ティエン・ニャンベトナム副首相兼教育訓練大臣一行 14 名に対する大阪大学総長招待晩餐会が、3月27日(木)にリーガロイヤルホテルにて開催されました。本学からは、鷲田清一総長、小泉潤二理事・副学長、高杉英一理事・副学長、辻 毅一郎理事に加え、ベトナムとの教育研究交流に関連の深い、戸部義人基礎工学研究科長を始めとする部局の関係教職員、併せて 15 名が参加しました。この他、外務省からは、山崎隆一郎関西担当大使を始め 3 名、ベトナム総領事館からは、レ・ドック・リユー在大阪ベトナム総領事を始め 2 名の、総勢 34 名が参加する盛大な会となりました。

鷲田総長から歓迎の挨拶、ニャン副首相から返礼の挨拶



記念品の交換（左：鷲田総長、右：ニャン副首相）



が述べられた後、山崎大使の発声による乾杯で始まった会話は、ベトナムにおける成績偏重主義に対する改革を押し進め、人格と創造力、そして実社会への応用力を重視するニャン副首相の施策と、人間の生活に根ざした実学と柔軟な思考を育てる懐徳堂の精神をスピリチュアル・ルーツの一つとする本学の共通性や、ベトナムとの学術・教育の交流などに関して歓談する絶好の機会となりました。ベトナム政府は現在、2020 年までに海外で 1 万人の博士を育成する「ベトナム博士育成計画」を進めており、その内 1,000 人を日本に留学させることを目指していますが、本学参加者からは、その受入れに対し前向きに協力していく旨が述べられました。

(国際部国際交流課)

平成 19 年度大阪大学国際交流に関する教職員研修会実施

平成 19 年度大阪大学国際交流に関する教職員研修会が、3月27日(木)に IC ホール会議室で実施され、国際部から 9 名の受講者と 5 名のオブザーバー参加がありました。

この研修は、世界大学ランキングの上昇に伴い、海外の大学や学術機関からの来訪者が急増している今日、国際交流に関わる職員が英語によるプレゼンテーション能力を身につけることで、来訪者との交流の中で本学を魅力的に紹

介し、対面的なサービスをより充実したものとすることを目的に実施されました。講師には、日本人への英語教育やプレゼンテーション教育の経験が豊富な、言語文化研究科のロバート・オモハン特任准教授をお招きし、レクチャー、グループ・ワーク及びプレゼンテーション実技という参加体験型のプログラムで実施されました。

“International Professional Communication : What You Need to Know!” と題するオモハン講師のレクチャーでは、国際的なプレゼンテーションにおける重要な要素として、コンテンツ・デリバリー・ストラクチャーの三つの項目が強調されました。また、文化的背景が異なる人々に対してプレゼンテーションを行う際には、技術的側面を重視するのではなく、プレゼンター自身が聴衆へ魅力的に語りかけることの大切さを説明されました。質疑応答時には、受講者から多数の質問が寄せられ、併せてプレゼンテーション実技の体験を通じて、プレゼンテーション能力向上の必要性を痛感したとの感想が述べられました。今回の経験を受講者各自が今後の業務に活用することを確認し、研修を無事終了しました。

(国際企画推進本部)



オモハン特任准教授

免疫学フロンティア研究センターがキックオフシンポジウム等開催

世界トップレベル研究拠点プログラムに採択され、昨年10月1日に発足した免疫学フロンティア研究センターのキックオフシンポジウムが「免疫学&イメージング」をテーマに大阪国際会議場において3月27日(木)、28日(金)の両日に、また、発足記念の趣旨を踏まえたレセプションが初日のシンポジウム終了後にリーガロイヤルホテルにおいて、いずれも多数の参加者を得て盛大に開催されました。

シンポジウムでは、開会に当たって鷲田清一総長から、世界トップレベル研究拠点プログラムの概要や免疫学フロンティア研究センターが採択されるに至る経緯、センターに対するホスト機関としての支援や協力をお願いが開会挨拶として述べられ、続いて審良静男拠点長からセンターの研究目標や拠点組織形成計画、施設設備の整備計画等について述べられるとともに、センターのロゴマークの紹介等が行われました。



講演は招待された世界トップレベルの研究者21名により行われました。初日は免疫学に関連する研究発表が生まれ、審良拠点長、Max Planck Institute for Infection BiologyのFritz Melchers氏をはじめとする世界的な免疫学研究者から最新の研究成果を含む内容での発表が続き、会場には用意した350席を越え立ち見が出るほどの多数の関係者が参加し、各スピーカーの講演を熱心に聞き入るとともに活発な質疑応答が行われました。

2日目はイメージングを主テーマとして行われ、本学の柳田敏雄教授のほか、この分野で先進的な海外の研究者などから、生体内を可視化することにより得られた研究成果や新たなイメージング技術の紹介が動画を交えて発表され、初日同様に予定をオーバーしての活発な質疑応答が行われ



シンポジウム風景



総長挨拶



拠点長挨拶

た。最後に柳田副拠点長から閉会の挨拶が行われ盛会裡に終了しました。

シンポジウム初日のプログラム終了後に開催されたオープニングレセプションには、シンポジウムのスピーカー、このプログラムの創設、フォローアップに尽力された文部科学省関係者や国会議員及び日本学術振興会の担当者が招待され、加えて、今後直接・間接に協力をお願いすることとなる関連学会関係者など多数の招待者、本学関係者、そして一般参加者を含め約200名が参加し、木下タロウ副拠点長の司会の下に進められました。



鏡開き

始めに鷲田総長の式辞、森口泰孝文部科学省科学技術・学術政策局長の挨拶、続いてこのプロジェクトを推進した松田岩夫参議院議員(元国務大臣:科学技術政策・食品安全・IT担当)の祝辞の後、来賓及びスピーカー18名が壇上にあがり鏡開きが行われ、続いて、Melchers氏の発声により乾杯を行い歓談に入りました。途中、村田直樹日本学術振興会理事、谷口 克理化学研究所免疫・アレルギー科学総合研究センター長、海外からのシンポジウム講演者であるRonald N.Germain氏(NIH)から、祝辞、挨拶があり、最後に、審良拠点長による世界的に注目されているこの組織の発展への決意と協力依頼を含めた閉会の挨拶があり、レセプションは和やかな雰囲気の中にお開きとなりました。

(免疫学フロンティア研究センター)

国際交流推進本部主催講演会開催

国際交流推進本部（現：国際交流室）では、平成16年度より国際交流に関するアドバイザリーボードを組織し、国内外で活躍されている経験豊富な有識者からご意見を伺い、国際交流に関わる知見の向上につとめています。

3月28日（金）、本学の平成20年度国際交流室アドバイザリーボード委員に就任頂いている高島肇久氏を講師にお招きし、「国際人を育てる～今、日本に求められること～」と題した教職員対象の講演会を医学部銀杏会館大会議室にて、開催いたしました。

講演の中で高島氏は、他国と比較して日本人が能力的に弱い部分として、事の大小を見極める能力、事の本質を見極める能力、決断能力の3点を挙げ、これからの国際人の資質として、交渉力と自分の考え方を発信できる人材を育てていくことの必要性について話をされました。また、大学がインターネットなどのメディアを活用して世界に情報を発信していくことが、国際化には不可欠であることも述べられました。講演会には56名が参加し、講演会後に行われた意見交換会でも、本学の国際交流戦略の現状



と課題について、熱心に討論がなされました。

高島氏は、30年以上NHKでテレビジャーナリストとしてご活躍され、国連広報センター所長、外務省外務報道官を歴任後、現在は外務省参与、学習院大学特別客員教授としてご活躍中で、本学の国際化の機動力となるアドバイザーとして大いに期待されるところです。

（国際交流室）

平成19年度退職時永年勤続者表彰式挙行

平成19年度退職時永年勤続者表彰式が、3月28日（金）にコンベンションセンター1階会議室1において、被表彰者69名のうち55名の出席のもとに挙行されました。

式は、鷲田清一総長から被表彰者一人一人に表彰状が授与された後、お祝いの言葉が述べられ、続いて、被表彰者を代表して基礎工学研究科事務長の大澤眞一氏が謝辞を述べ閉式しました。

今年度表彰された方は、次のとおりです。

中島 猛 夫（事）	大 濱 住 子（理）	大 園 律 子（医病）	金 子 美 恵 子（工）
長岡 重 男（事）	出 口 正 視（医）	大 金 定 猛 文（医病）	越 田 眞 三（基）
長田 義 孝（事）	鈴木田 富 郎（医病）	佐 藤 良 夫（歯）	大 澤 眞 一（基）
青井 信 一（事）	八 田 か ず よ（医病）	石 橋 武 司（歯）	平 林 誠（基）
岩谷 ナヨ子（事）	下塩見 三津子（医病）	小 谷 貢 三（歯）	宮 下 順 一（言院）
森岡 忠 子（事）	川 地 文 子（医病）	坂 田 克 行（歯）	忠 野 健 治（微）
泉原 博（事）	野 口 成 子（医病）	本 田 則 行（歯）	角 一 道 明（産）
平元 健 史（図）	浅 井 満 子（医病）	上 木 麻 理 子（歯病）	水 口 修（産）
西 徹（図）	森 徳 子（医病）	緒 方 洋 一 郎（業）	酒 井 美 世（蛋）
宮崎 茂 樹（図）	野 島 順 三（医病）	西 村 久 子（業）	山 下 啓 一（蛋）
谷本 壽（図）	花 山 正 行（医病）	西 川 誠 行（工）	多 田 か よ 子（蛋）
宮内 修（図）	高 橋 秀 彰（医病）	大 前 政 博（工）	石 田 淑 恵（社）
西 知 子（図）	森 節 雄（医病）	森 山 重 信（工）	津 田 加 男 留（社）
廣 政 治（文）	正 木 卓（医病）	和 久 田 宏（工）	吉 田 清 和（電頭）
鹿島 知 子（人）	木 田 良 次（医病）	後 藤 嘉 代 子（工）	中 尾 正 治（教育実践）
奥村 泰 三（人）	畑 田 哲 雄（医病）	溝 口 裕 彦（工）	
土居 幹 嗣（理）	八 百 保 夫（医病）	山 野 美 恵 子（工）	
宮下 富 夫（理）	小 西 勇 司（医病）	樋 崎 幸 江（工）	

（総務部人事課）

平成20年度個別学力検査等実施

平成20年度個別学力検査等は、外国語学部及び法学部国際公共政策学科等の設置後、初めての入試となりました。志願者数及び志願倍率は、前期日程7,361名(2.9倍)後期日程6,855名(10.3倍)で前年度と比して前期日程2,234名増、後期日程2,609名の増で、両日程を合わせると4,843名の増となりました。

前期日程試験は、2月25日(月)及び26日(火)に行われ、7,227名が受験し欠席率は全体で1.8%(昨年度2.6%)で

した。合格者発表は、3月7日(金)に行われ、合格者数は2,724名(昨年度2,192名)でした。

続いて、後期日程試験が3月12日(水)に行われ、3,217名が受験し欠席率は全体で53.1%(昨年度54.2%)でした。合格者発表は、3月22日(土)に行われ、合格者数は769名(昨年度512名)でした。

両日程合わせた合格者数は3,493名で昨年度と比べて789名増でした。(学生部入試課)

平成20年度 大阪大学入学者選抜試験(前期日程)合格者数等

学部	学科・専攻	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数
文学部	人文学科	125	387	3.1倍	384	137
人間科学部	人間科学科	105	263	2.5倍	262	110
外国語学部	中国語専攻	30	85	2.8倍	84	30
	朝鮮語専攻	13	32	2.5倍	32	14
	モンゴル語専攻	13	27	2.1倍	27	14
	インドネシア語専攻	7	17	2.4倍	16	8
	フィリピン語専攻	9	21	2.3倍	20	10
	タイ語専攻	11	33	3.0倍	33	12
	ベトナム語専攻	11	38	3.5倍	38	12
	ビルマ語専攻	13	42	3.2倍	41	14
	ヒンディー語専攻	13	40	3.1倍	40	14
	ウルドゥー語専攻	13	35	2.7倍	35	14
	アラビア語専攻	19	46	2.4倍	46	21
	ペルシア語専攻	13	32	2.5倍	31	14
	トルコ語専攻	13	41	3.2倍	40	14
	スワヒリ語専攻	13	44	3.4倍	43	14
	ロシア語専攻	19	62	3.3倍	61	21
	ハンガリー語専攻	11	50	4.5倍	50	12
	デンマーク語専攻	13	51	3.9倍	50	14
	スウェーデン語専攻	13	42	3.2倍	40	15
	ドイツ語専攻	26	74	2.8倍	73	26
	英語専攻	45	146	3.2倍	144	45
	フランス語専攻	19	68	3.6倍	68	21
	イタリア語専攻	13	54	4.2倍	53	14
	スペイン語専攻	26	92	3.5倍	92	28
ポルトガル語専攻	23	87	3.8倍	85	25	
日本語専攻	22	73	3.3倍	72	22	
外国語学部 計		421	1,332	3.2倍	1,314	448
法学部	法学科	145	304	2.1倍	297	154
	国際公共政策学科	68	205	3.0倍	204	72
	法学部 計	213	509	2.4倍	501	226
経済学部	経済・経営学科	185	730	3.9倍	713	207
理学部	数学科	38	116	3.1倍	112	42
	物理学科	58	172	3.0倍	171	64
	化学科	60	196	3.3倍	193	64
	生物科学科生物科学コース	20	80	4.0倍	77	23
	生物科学科生命理学コース	10	27	2.7倍	27	10
	理学部 計	186	591	3.2倍	580	203
医学部	医学科	75	228	3.0倍	223	76
	保健看護学専攻	68	141	2.1倍	136	73
	放射線技術科学専攻	35	96	2.7倍	94	38
	検査技術科学専攻	30	69	2.3倍	69	32
	医学部 計	208	534	2.6倍	522	219
歯学部	歯学科	54	141	2.6倍	132	57
薬学部	薬学科	20	76	3.8倍	71	21
	薬科学科	50	156	3.1倍	153	53
	薬学部 計	70	232	3.3倍	224	74
工学部	応用自然科学科	173	413	2.4倍	411	186
	応用理工学科	198	536	2.7倍	527	214
	電子情報工学科	129	318	2.5倍	313	136
	環境・エネルギー工学科	60	173	2.9倍	171	68
	地球総合工学科	94	245	2.6倍	242	102
	工学部 計	654	1,685	2.6倍	1,664	706

キャンパスニュース

基礎工学部	電子物理科学科	74	192	2.6倍	186	77
	化学応用科学科	63	201	3.2倍	197	64
	システム科学科	127	391	3.1倍	380	131
	情報科学科	62	173	2.8倍	168	65
	基礎工学部 計	326	957	2.9倍	931	337
合 計	2,547	7,361	2.9倍	7,227	2,724	

注 理学部、工学部、基礎工学部は、第1志望学科の志願者数である。 注 複数の募集単位(学科・専攻等)のある学部には、計を設けている。

平成20年度 大阪大学入学者選抜試験(後期日程)合格者数等

学部	学科・専攻	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数
文学部	人文学科	40	340	8.5倍	186	43
人間科学部	人間科学科	25	204	8.2倍	115	26
外国語学部	中国語専攻	10	101	10.1倍	49	12
	朝鮮語専攻	5	31	6.2倍	19	9
	モンゴル語専攻	5	30	6.0倍	17	10
	インドネシア語専攻	3	25	8.3倍	14	4
	フィリピン語専攻	3	30	10.0倍	12	6
	タイ語専攻	4	40	10.0倍	25	7
	ベトナム語専攻	4	49	12.3倍	17	5
	ビルマ語専攻	5	30	6.0倍	20	8
	ヒンディー語専攻	5	48	9.6倍	22	7
	ウルドゥー語専攻	5	42	8.4倍	24	6
	アラビア語専攻	6	40	6.7倍	20	7
	ベルシア語専攻	5	90	18.0倍	23	8
	トルコ語専攻	5	36	7.2倍	21	7
	スワヒリ語専攻	5	45	9.0倍	25	8
	ロシア語専攻	6	57	9.5倍	27	8
	ハンガリー語専攻	4	37	9.3倍	24	6
	デンマーク語専攻	5	47	9.4倍	24	7
	スウェーデン語専攻	5	44	8.8倍	21	6
	ドイツ語専攻	9	79	8.8倍	47	11
	英語専攻	15	145	9.7倍	72	17
	フランス語専攻	6	59	9.8倍	31	7
	イタリア語専攻	5	48	9.6倍	21	7
	スペイン語専攻	9	92	10.2倍	43	11
	ポルトガル語専攻	7	89	12.7倍	35	8
	日本語専攻	8	59	7.4倍	39	10
		外国語学部 計	149	1,393	9.3倍	692
法学部	法学科	25	373	14.9倍	157	26
	国際公共政策学科	12	141	11.8倍	75	16
	法学部 計	37	514	13.9倍	232	42
経済学部	経済・経営学科	35	478	13.7倍	196	43
理学部	数学科	9	119	13.2倍	56	10
	物理学科	18	194	10.8倍	84	19
	化学科	17	181	10.6倍	88	18
	生物科学科生物科学コース	5	101	20.2倍	46	6
	生物科学科生命理学コース	20	99	5.0倍	62	21
	理学部 計	69	694	10.1倍	336	74
医学部	医学科	15	158	10.5倍	24	17
	保健看護学専攻	10	83	8.3倍	34	12
	保健看護学専攻(専門高校卒業生選抜)	2	0	-	-	-
	放射線技術科学専攻	5	41	8.2倍	20	7
	検査技術科学専攻	10	60	6.0倍	26	12
	医学部 計	42	342	8.1倍	104	48
歯学部	歯学科	6	60	10.0倍	30	8
薬学部	薬学科	5	57	11.4倍	29	5
	薬科学科	5	127	25.4倍	61	7
	薬学部 計	10	184	18.4倍	90	12
工学部	応用自然科学科	44	514	11.7倍	260	47
	応用理工学科	50	646	12.9倍	317	55
	電子情報工学科	33	352	10.7倍	177	36
	環境・エネルギー工学科	15	230	15.3倍	93	17
	地球総合工学科	24	213	8.9倍	120	24
	工学部 計	166	1,955	11.8倍	967	179
基礎工学部	電子物理科学科	20	168	8.4倍	67	21
	化学応用科学科	17	150	8.8倍	56	19
	システム科学科	34	227	6.7倍	91	35
	情報科学科	17	146	8.6倍	55	17
	基礎工学部 計	88	691	7.9倍	269	92
合 計	667	6,855	10.3倍	3,217	769	

注 理学部、工学部、基礎工学部は、第1志望学科の志願者数である。 注 複数の募集単位(学科・専攻等)のある学部には、計を設けている。

平成19年度卒業式式辞

まず、本日ここに集われた3532名の学生諸君、ご卒業おめでとうございます。また、この日まで長きにわたってみなさんの勉学を支えてこられたご家族の方々のご労苦に対しても心より敬意を表したく存じます。

さてみなさんは、大阪大学の学位の称号を得てこれより実社会に入っていられるわけですが、そこは言うまでもなく、競争の熾烈さをどんどん増している社会です。学界であれ企業社会であれ、みなさんのこれからの活動は、つねにその達成度が問われ、確実さと斬新さとが同時に問われる、なかなか厳しい社会です。そのなかでみなさんは、ときには下支えの仕事を任せられ、ときには前線での活躍を期待され、そのなかからさらに少なからぬ人たちがリーダーとして囑望される存在にもなっていられることでしょう。

そのみなさんに、いずれぜひその役を担ってほしいとわたしが願うのは、もう一つ別のタイプのリーダーとしての役です。一言でいえば、みなさんには今後、市民社会のリーダーとしての役をすすんで引き受けていっていただきたいということです。



わたしたちの社会はいま、高度消費社会、高度サービス社会などといわれます。調理すること、ゴミを処分すること、育てること、看護すること、介護することなどをはじめとして、自身が生活するうえで、あるいは身のまわりの人の世話をするうえで、わたしたちはきわめて多くのことがらを行政のサービスや民間のサービスに委託しています。調理は食品産業や外食産業に委託し、ゴミ処理は清掃局に委託し、子どもの教育は学校に委託し、医療や看病は病院に委託しています。

そのことでわたしたちはより安心して生活を送ることができるようになるのですが、同時にそのことの裏面として、わたしたちはそれをみずから手で行なう能力を少しずつ失っていきます。事実、1995年の阪神淡路大震災のとき、都市のライフラインが切断されたときに、わたしたちは雨水を飲み水に変えるやり方、ケガの応急処置の仕方、仮設テントの張り方一つ、身につけていないことを思い知らされたのでした。それだけではありません。地域のもめ事一

つも、解決のために周囲の合意をとりつけていくよう動くのではなく、役所に訴えるというような仕方に対応するようになっています。もめ事をまとめる能力すら失っているようです。行政のサービスをいつでも受けることができること、企業のサービスを買うことができること、これは福祉の充実と世間ではいわれますが、裏を返していえば、各人がこうした自活能力を一つ一つ失ってゆく過程でもあるということです。

もう一つ、危うい点があります。行政のサービスを受ける、民間のサービスを買うということで、知らないうちにサービスの受益者、サービスの消費者としての意識があたりまえになっていって、生活になんらかの支障が生じると、それを「サービスの低下」として行政もしくはサービス業者に文句を言う、苦情を言うというふうに対応するようになるということです。クレームをつけるというのは、市民意識が高い人の行為のようにみえますが、じつはとても受け身な行為だとわたしは思います。それは「もっと安心してサービス・システムにぶら下がらせよ」と言っているにほかならないからです。システムはだれかが支えなければならないのに、クレマーはじぶんがシステムの外にいてと勘違いしている。わたしにいわせれば、自分を市民（シティズン）ではなく、受益者や顧客、消費者だと勘違いしているのです。だから、税金や料金をちゃんと払っているのにそれに見合うサービスがちゃんととされていないと批判するわけです。大人のそういう意識が子どもにまで浸透しているからでしょうか、子どもまでが、学校で授業が面白くないと先生のサービスがよくないと、あたりまえのように思って、ふてくされるようになっていきます。要するに、高度なサービス社会というのは、皮肉にも、市民をどんどん受け身にしてゆく、そして市民としての責任の意識を低下させていくものでもあるということです。

サービス社会はたしかに心地よいものです。けれども、人として生きるうえで欠かせない能力の一つ一つをもういちど内に回復してゆかなければ、脆弱なシステムとともに自身が崩れてしまうことを肝に銘じなければなりません。食品の安全性をはじめとして、最近起こっている流通システムの不祥事は、そのことを強く思い知らせる例の一つで





す。フランスの思想家、ブлез・パスカルは、すでに十七世紀にこのことを次のような言葉で警告していました。

「われわれは絶壁が見えないようにするために、何か目をささげるものを前方においた後、安心して絶壁のほうへ走っている……」と。

「地域力」といったこのところよく耳にする表現も、見えないシステムに生活を委託するのではなく、目に見える相互のサービス、たとえば他者にこまやかに心を配る、いざというとき他者の面倒をみるといった相互のサービスをいつでも交換できるようにしておくのが、起こりうる危機を回避するためにはいちばん大事なことだと告げているのだと思います。

これからみなさんが住まい、働く社会のなかで、みなさんには、だれかに責任をおしつけたり、いずれだれかが是正してくれるだろうなどと空しく期待するだけの市民ではなく、ほんとうに賢い市民になっていただきたい。公共の責任をすすんで引き受け、担いうる市民になってもらいたい。クレームをつけるだけでなく、みなと突っ込んで話しあい、そのなかで問題のほんとうの根を発見し、そしてそれを問題解決へのプロポーザルにまで練り上げていくことのできる、そういう市民に、市民のリーダーになってもらいたいと思うのです。

そのために必要なこと、それを一言でいえば、自分でコンテクストを作っていくことのできる能力です。事柄の筋道をロジカルにつけていくことのできる思考の能力であり、他の市民と意見を交換しながら当初だれも思い描いていなかったような結論を見いだしていく合意形成の能力であり、さらにはいざというときに助けてもらえる人をいつでも動

員できるよう、ふだんから人びとのネットワークを作っておく、そのような能力です。

何か事が起これば、なぜそのようなことがくり返されるのか、みなでその理由をよく考えること。科学技術や行政の問題から医療制度や環境問題まで、都市行政に問題が鬱積しているなら、みなで対抗的な解決法や施策をどんどん提言していけること。そのような市民性（citizenship）をよく備えた市民に、そしてそのリーダーに、みなさんが将来なれることを祈りつつ、卒業生のみなさんへの、わたしからの、そして大阪大学からのメッセージとさせていただきます。

平成19年度大学院学位記授与式式辞

本日ここに修士ならびに博士の学位を得、授与式を迎えられたみなさんに対し、まずは心よりお祝いを申し上げます。また、この日まで長いあいだ、みなさんの勉学を支えてこられたご家族のみなさまのご労苦に対しても心より敬意を表したく存じます。

これから企業や行政機関、あるいは民間の研究所に活動の場を移される方もおられれば、さらに大学で研究を続けられる方もおられますが、それぞれの場所で、本学で培ったさまざまな知恵と科学的な知識と技能を縦横に発揮されてゆかれることを、強く願っております。

さて、科学研究と技術の発展がこれまで、人類に多大な恵みを与えてきたこと、これを疑う人はいません。それまで、飢え死にさらされていた人類の貧困を救い、治癒できず堪え忍ぶしかなかった難病を克服し、生活上の利便を飛躍的に増大させ、寿命を延ばし、さらには遠く離れた人と気軽に通信するという夢をも実現してきました。近代の科学と技術が人類にもたらした福祉と安寧、これは挙げるときりがないほどです。

しかし近年、その科学と技術が人びとに大きな不安をもたらしつつある、このことも否定しようのない事実です。環境危機、エネルギーの確保、少子高齢化社会、食の安全性、高度先端医療の行きつく先などをめぐり、人びとの不安はつつの一方です。



いますこし詳しく言いますと、環境汚染や資源の枯渇といったマクロな問題から再生医療やナノテクノロジーといったミクロな技術の問題まで、科学技術の先端的な問題はことごとくわたしたちの生命と安全に深くかかわるものです。ところが、それらはその理解に極度に専門的な知識を要するものですから、市民はみずからの生命と安全に深くかかわる問題でありながらもそれらの問題が発生する仕組みや解決の方法を自分たちではうまく理解したり、構想したりすることができません。それどころか研究者自身も、極度に細分化された専門領域以外のことについては、同じ科学であっても正確な発言をしえなくなっています。つまり現代の科学の全体を、だれも見ることができないようになっています。そのためにある領域の専門家と別の領域の専門家、さらには専門家と一般市民のあいだに対話が求められるのですが、双方が十分に理解しあえるための適切なインターフェイスのしくみやコミュニケーションの回路が、いまの日本社会には十分なかたちでは存在しません。これは科学と社会の関係を考えるときに、とても由々しき事態であると言わなければなりません。

二十世紀前半の科学・技術は、先ほども述べましたように人びとの生活に多大な恩恵をもたらすとともに、他方で、研究者の意図にはかならずしも沿うものではなかったにしても、原子爆弾や核兵器開発への科学の動員にみられるように、科学研究への無条件の信頼というものを損ない、恐怖すら抱かせるものとなりました。二十世紀の後半には、公害や環境破壊などが肌で感じられるほどわたしたちの日常生活の至近距離で問題になるようになって、豊かな社会、便利な社会を一貫して追求してきた近代文明と、それを支えた近代の科学文明・技術文明への無制限な信頼を持ち続けることにも、人びとは躊躇するようになりました。これに昨今のデータ改竄など、研究者の職業倫理がきちんと機能せずに事故や不祥事が次から次へと起こってきている現状も考えあわせるならば、専門科学への不信というものは、相当深刻なかたちで増幅されてきていると言わざるをえません。

ところで、学術への市民からの信頼ということがいわれたのは、それほど古い話ではありません。学術が市民からの一定度の信頼を得、一定の国家予算がそれらに投入



されてきたのは、学術が国家ならびに市民にとってある「普遍的」な価値を生みだすものと認められてきたからです。「普遍的」というのは、より具体的にいえば、どんな立場にもどんな利害関係にも与することなく、濁らない眼で「真理」を追究するという共通理解があったからです。これらの了解は、研究者自身によって《客観性》や《中立性》というスローガンのかたちで標榜されました。こうした了解がなりたっていたからこそ、研究者は「公平な観察者」という第三者の位置にすることが許されました、というよりつねに第三者の位置にあるべきだとされました。言ってみれば、裁判官とならんで社会のレフェリー的な位置に立つものとされたわけです。

学術をめぐる暗黙のこうした了解が、研究者への市民の厚い信頼をも支えていました。この信頼は古来の「先生」へのイメージを引き継ぐものでもありました。広くて深い教養をもち、人格清廉な人、というイメージです。市井の感覚を超えたものにかかわっている人という意味で、数奇なキャラクターをもった「変人」「奇人」についても、人びとはむしろ好意をもって語ってきました。研究者に、私的利害を超えて「人類と宇宙の真理」に身を捧げているひとというイメージを被せていたのです。

しかし、組織化された研究「機関」における学術は、じっさいにはそのようなかたちで推進されてきたわけではありません。理系/文系という、あまり深い根柢があるようには思われぬ学問の二分が、科学行政に歪みをもたらしたり、これはとくに自然科学について言えることですが、実験設備の大型化にともないさまざまな産業技術との連携を深め、そのことが研究の一つの大きな制約となっているということもあります。さらに現代では、科学研究の成果は、人びとの日常生活やその環境のあり方に甚大な影響力をもつようになっていますし、難病の治療法、環境保護の技術などのように、社会が大きな関心をもって熱く見つめている領域もあります。それらさまざまな意味で、科学研究は大きな社会的意味、さらには政策的意味を否応なく帯びてしまうものであり、かんたんに価値中立的であるとは言えません。現に国家が大型予算を投入する研究領域は、国家が「国家的利害」と考えるところで決定されているのであって、なにか学術の内在的理由によるものとは思いに

くいものです。そしてそのなかで、研究者はさまざまな「社会的意義」を訴えつつ「競争的資金」を取りにゆかねばなりません。そこで研究者は否応なしに、営業員のように申請業務や評価業務に多忙になっていきます。また、自分の研究が社会に及ぼす直接の、あるいは派生的な影響についてもしばしば責任を問われます。市民や企業のほうからの厳しい「第三者評価」に晒されもします。研究者はあきらかに「第三者」から「当事者」のひとりへと立場を変えたのです。レフェリーではなくプレイヤーに変わったのです。

ちょうど企業が、一営利団体としてのみならず、社会のなかの一市民としての企業のあり方、つまり「企業市民」と訳されるような corporate citizenship としての責任を問われるようになってきているように、同じく社会のなかのプレイヤーである大学のような高度教育・研究機関も、citizen としての役割と責任を問われる時代に、確実に入ってきています。それは、科学研究の社会的責任という狭い意味だけでなく、大学という組織体が地域社会、さらにはそれ以上に広域の社会のなかで、これからは、広い意味での文化の担い手として果たすべき役割についても真剣に問うていかねばならないということです。

そうしたなかで、いま、研究者たちにいちばんに求められるのは、研究を推進するための観察力や分析力、推論の力や知的感受性だけではなく、研究を社会のなかでマネージする能力や作法というべきものです。もっと端的にいえば、みなさんには専門家としての眼と同時に、「賢い市民」としての眼を併せもってほしい、一方に専門的な知見、他方に市民としての知恵や良識という、複眼をもってほしいということです。

《賢い市民》としての眼というのは、市民としての深い教養にもとづいた判断力のことです。教養というものを一言でいえば、人間の社会において何がほんとうに大事なことであるかという、言ってみればものごとの軽重の判断のことです。別の言い方をすれば、人間にとってなくてはならぬものと、あってもいいがなくてもいいものと、あってはならないものの区別、つまりは価値の遠近法が、その人の思考のなかできちんと働かだしているということです。それをさらに、もう一方の眼、つまりみずからの専門的知見との関係でいえば、専門家としての自分の研究や活動を、現実の社会のなかできちんとマッピングできるということです。そして、みなさんには、自分の専門ではないにしても、人として関心をもたずにいられない、あるいは関心をもたねばならないような、そうした社会のより大きな文脈のなかのみずからの専門的な知識や技能を置きなおしたうえで、専門家としての活動を進めていただきたいのです。

人として関心をもたずにいられない、もしくは関心をもたねばならないものの一つに、他者の不幸というものがあります。最近、ある資料のなかで出会った言葉ですが、1911年（明治44年）に大阪毎日新聞慈善団が発足した折り、当時の毎日新聞社長であった本山彦一は次のように言いま

した。「一本の指のうずきは、同時に、全身の苦痛である。社会の一隅に、生活に疲れ、病に苦しむ者の存することは、すなわち、社会全体の悩みでなければならない」（大阪毎日新聞慈善団20年史）と。社会のいかなる不幸も自分とは無関係な問題とは考えない、そのような姿勢のなかで、みずからの専門研究を置くということ、そのことをみなさんには望みたいのです。

大学において学問研究を極めるということと、一市民として他の苦しんでいる人びとを思いやるということとは、異なる二つのことではありません。自然や社会の出来事を、そうした出来事を引き起こしている見えない構造のほうから突きとめようという科学の姿勢と、自分では体験しようのない他人の心の内を思いやろうとする対人関係の態度とは、視点をいったん自分のここという場所から外して、出来事の側に、あるいは他人の側に置くという意味では、あるいはそういう眼に見えないものへの想像力を基本とするという意味では、じつは同じ性質のものなのです。その意味で、ほんとうの科学は思いやりのあるものであるはずで、みなさんにはこれから、このような科学の精神をこそさらに身につけ、「社会からの厚い信頼」を寄せられる社会人・研究者となっていきたいと、わたしは強く願っています。

最後になりましたが、みなさんお一人お一人がこれからの長い生涯、幸運に恵まれ、悔いのない人生を送られることを祈りつつ、わたしの式辞といたします。

平成20年度入学式告辞

まず、本日ここ、大阪大学に集われた3445名の学生諸君、ご入学おめでとうございます。また、ご臨席いただいたご家族のみなさまにも心よりお祝い申し上げます。

長い受験生活をやっと終えられたみなさんは、大学に入って、これまでできなかったような勉強や社会経験をしたいと、大きく胸を膨らませていらっしゃることでしょう。いずれにせよ、これからは世界がうんと広がる、そんな予感に包まれておられることと思います。

では、大学に入って世界が広がるというのは、いったい





どういことでしょうか。これまでしたくても思う存分できなかつたことができる、まずはそう言うこともできるでしょう。けれども、これまでしたくても思う存分できなかったことをするというのは、かならずしも世界を広げることにつながるものではないということ、そのことをまずは心にとめておいていただきたいと思います。

一つの卓抜な比喩から始めたいと思います。それは青木淳という、わが国を代表する建築家のひとりが、その著書のなかで建築の本質を語る時に用いている比喩です。

遊び場には二つの種類があると、この建築家は言います。「原っぱ」と「遊園地」です。遊園地というのは、そこですることがあらかじめ決まっている遊び場のことです。ジェットコースターからメリーゴーランドまで、遊園地にはさまざまな遊びのメニューがあります。それぞれのメニューはそれぞれ料金を払って楽しめます。ふだんでできない体験ができて、ああ面白かったと満足します。それは、写真で見ていた建物をじっさいに見るのと同じで、想像どおりの体験を身をもって確認するか、あるいは想像していたよりちょっと面白かったと思える程度の世界の広がりではありません。

原っぱではどうでしょうか。原っぱ、あるいは都会ではビルの谷間の空き地であるかもしれませんが、そこには遊具は何一つ用意されていません。原っぱでは、ともかくそこへ行って、あたりをぶらぶらし、それから何をして遊ぶか決めます。もしそこに先にだれかがいれば、はじめは見て見ぬふりをしながらも、なにかのきっかけで、たとえば空き缶を蹴ったら、転がったそれを相手が蹴り返してきたというようなことがきっかけで、何かが始まります。そこでは、すべき特定の行為があらかじめ決まっているのではなく、逆にそこで行われることが空間の中身を作っていきます。そればかりではない。行為の内容だけでなく、行為と行為をつなぐもの、具体的にはコミュニケーションのスタイルとか人と空間の関係それ自体がデザインされていきます。

原っぱに人を誘うのは、「なんかようわからんけど、おもしろそう」というぼんやりした感覚であり、それだけでひとびとが集まってくる原っぱにはエネルギーが充満しています。ここではまだ何も形になっていません。だれかこ

れまでつきあったこともないひととこれまでじぶん独りでは思いつきすらしなかつたことを開始する、そんなわくわくするようなカオス状の場が、原っぱなのです。大学という場所はそういう原っぱのような場所でなければならないと、わたしはかねがね思ってきました。

この世界を見るわたしたちの視野というのはけっして広くありません。いつもここから、自分の立っている場所からしか、見られないという限界がまずあります。次に、自分が習ってきた知識や習慣の枠のなかでしか見られないという限界があります。加えてさらに、自分がなじんでいる言語のなかでしか考えられないという限界もあります。こういう世界は、リアルと言うにはまだまだ小さいものです。大学に入ってこれまでできなかったようなことをしたいというみなさんの夢を実現するためには、だから、この小さな世界をもっと大きく広げていかななくてはなりません。

学問というのはそのためにあります。世界についての視野を広げていくのです。視野を広げるというのは、ただたんに、すでに知っている知識を量的に拡大するということではありません。これまでそんな問いがありうるとは想像もしなかつたような問いに、あるいはものの見方、考え方にもふれるということなのです。



バーナード・ショーという作家の小説のなかにこんな言葉があります。You have learnt something. That feels at first as if you had lost something. 「何かを学びましたな。それははじめは何かを失ったような気がするものです。」

大学には、みなさんの頭脳のなかにはまだ登録されていない膨大な知見やスキルがあります。その森のなかでいちど道に迷うこと、方向喪失 (disorientation) の状態に陥ることが、じつは大学で学ぶことの意義なのです。方位の分からない森のなかで、自分がこれまで知らなかつたものを知り、そのなかで自分の「知る」あるいは「考える」というとなみの軸となるものを揉み、組み換え、拡げ、そしてあらたに固めていくこと、そういう作業に大学ではじっくり取り組んでいただきたいのです。そしてその過程で、わたしの友人である哲学者、内田樹の言葉を借りれば、「なんだかまるで分からないけれど、凄そうなもの」と「言っていることは整合的なんだけど、うさんくさいもの」とを直感的に識別する前 知性的な能力を、少しずつ身につ

けていっていただきたいのです。

なぜ、そんな方向喪失にいちど陥らないといけないのか。それは、みなさんにほんとうの意味で「賢い市民」になっていただきたいからです。

一人一人の人生は、あるいはわたしたちが住んでいるこの社会は、すぐに答えが見つかるような問題だけから成り立っているわけではありません。一つの問いに複数の異なる解がある場合もあれば、そもそも答えがあるかどうか分からない場合もあります。いやむしろ、答えが分からないまま、それでもたえず何らかの方向を選択していかなければならないのが現実世界というものです。たとえば、政治の領域では、不確定な状況のなかで不確定なまま迅速で的確な判断が求められます。地域のもめ事やケアの場面でも、あちら立てればこちら立たずといった、さまざまな意見の対立のなかで、なんらかの決定をしなければなりません。自分の生き方について考えるときも、「生きることの意味」をはじめ、人生の最後になっても答えが出ないような問いだらけです。

要するに、人生において、そして社会においてだいじな問題は、答えがすぐに出ないものばかりなのです。ということは、すでに分かっていることよりも、分からないこと、見通しのきかないことに、分からないまま、見通しのきかないまま、どう的確に処するかを知恵やスキルのほうが、ほんとうはだいじだということです。それがほんとうに身につけるべき知恵でありスキルであるということです。先ほど友人の言葉として引かせていただいた、「なんだかまるで分からないけれど、凄そうなもの」と「言っていることは整合的なんだけど、うさんくさいもの」とを直感的に識別する前 知性的な能力とは、まさにそういうものなのです。



「教養」が身につけているというのも、それと別のことではありません。教養があるというのは、ものごとの軽重をわきまえているということです。生きていくうえでなくてはならないもの、絶対に失ってはいけないものと、あってもいいけどなくてもいいものと、端的になくていいものと、そしてあってはならないもの、起こってはならないこと。これらの、言ってみれば価値の遠近法をわきまえているということです。そういう遠近法のなかに、自分のした

いこと、自分がいましなければならぬことをきちっとマッピングできるということなのです。

「賢い市民」というのは、そういうマップを携えて、「わたし」のみならずいまこの時代をともに生きる「わたしたち」が共通に直面していること、つまりはわたしたちの社会が抱え込んでいる問題、公共的な問題に的確に対処していける人のことです。不確かな状況のなかで不確かなまま的確な判断と決断ができる、そのための基盤となるのが、くりかえし申せば「教養」というものなのです。



わたしが最初に「原っぱ」に出ようと申し上げたのも、これまた別のことではありません。いちど自分を何も決まっていない状態、不確定な状態に置いて、そこで一から思考の道筋をみずからつけていける力を養うこと、独力でそれを身につけることができなければ、意見を十分に交わし、ともに考えを進めることのできる他者とのネットワークをみずから紡ぎだせる力を身につけておくこと、大学という場所ではそういうトレーニングをまずはしていただきたいということなのです。

「賢くあれ、みっともないことはするな」と、前総長の宮原秀夫先生は常日頃くりかえしおっしゃっておられました。さらに歴史を遡れば、その「賢く」あること、みっともないことはしないことを、18世紀、19世紀の大坂の町人はいまよりも強く心がけていました。いまから284年前に、五同志とよばれる五人の商人たちが資金を募り、学者を招いて、町人みずからのために創った「懐徳堂」という学問所がそのための場所であり、天保年間、のちに福沢諭吉をはじめとして明治期の日本国家を担うことになる人材を数多く輩出した「適塾」という私塾もまたそうした場所でした。わたしが今日申し上げたあの「教養」を身につけ、磨いていくために、大坂の町人が創ったこの二つの学問所を、大阪大学はその精神的な源流としております。大阪大学のこの源流については、4月18日の共通講義であらためて詳しくお話しさせていただくこととして、「賢くあること、みっともないことはしないこと」、その精神を、大阪大学がみなさんとともにしっかり受け継いでいきたいと強く念じていることを、今日、入学式にあたって、まずはみなさんに伝えておきたいと思っております。

変動音の評価

大学院人間科学研究科教授 桑 野 園 子

生活環境で聞く音のほとんどが時間的に変化する変動音であり、時間は環境音評価の枠組みとして重要である。聴覚は時間の流れとともに情報を伝達する感覚であり、聴覚は変化に鋭敏である。基礎実験により変動成分を強調して検知する聴覚の動特性のモデルを提案したが、これが変動音としての音楽や機械音の評価にも適用できることもわかった。一方、知覚瞬間内の音の大きさに関しては、総エネルギー量で評価でき、それよりも長く、かつ知覚的現在内の音の大きさはエネルギー平均値で評価できることを明らかにし、環境基準の評価手法の改定に貢献した。長い記憶に基づく判断は、物理量のみで決まらない。種々の要因が関与するがそのウエイトは単純ではない。時間的要因とともに、認知的、社会的、文化的要因によっても影響を受けることを数力国間の国際比較実験で明らかにした。音環境問題を考える時、長期間にわたって変化する音の評価することが必要であるが、過去の記憶や未来の予測など時間的側面を考慮することが不可欠であり目下の研究課題である。



くわの・そのこ

プロフィール

略歴：1967年3月大阪大学文学部を卒業、1968年4月同文学研究科を中途退学後、大阪大学医療技術短期大学部助手、教養部助手、同講師、同助教、人間科学部助教授を経て、1996年4月同教授に昇任し、2000年4月大阪大学大学院人間科学研究科教授に配置換となり、環境心理学研究分野を担当するとともに工学部、工学研究科も担当した。1983年工学博士。専門は音響心理学で、日本音響学会佐藤論文賞を2度受賞した。日本音響学会会長、日本音楽知覚認知学会会長、日本騒音制御工学会副会長、国際音響学会の理事、secretary general、副会長、国際心理学連合の理事などを歴任。国際騒音制御工学会議、および国際音響学会議で基調講演を行った。論文の1つは大阪大学 10 papers selection、もう1つは 100 papers selection の対象論文に選ばれた。環境行政にも大きな貢献を果たし、2006年環境大臣から環境保全功労者として表彰を受けた。2005年には日本学会の会員に任命された。

句読点から疑問符へ、そして感嘆符へ

大学院医学系研究科教授 別 府 慎太郎

この標題は、保健学科で新入生に対し毎年話をする言葉です。その意味するところは次のようなものです。小・中・高では、教師は答えのないことは教えないし、生徒は授業で習ったことをそのまま覚える。しかし大学は違う。既知のことは、自分で本を読めば良く、逆に何が未知かを知らされる。「分からない」ということを理解し、その解決手段を考え、試行錯誤し、苦勞し結果を出す。それが研究ということである。小・中・高では、そのまま覚える「句読点」の世界であり、大学は何故だろうという「疑問符」に満ちた世界である。そしてそれを解決できれば、よし、分かったという「感嘆符」の世界が広がる。

この記念講義では、循環器超音波医学を通じて小生が得た疑問符と感嘆符を述べた。阪大は超音波医学の創成の学府であり、丁度臨床応用が始まった頃に第一内科に出局した。Mモードだけの時代、心拍同期断層法が開発された時代、リアルタイム断層法が開発された時代、カラードブラ法が開発された時代、それぞれを生きて、その時代・時代に「何故」を感じ、臨床例を集め、動物実験により解決し、「感嘆符」を得てきた。例えば、巨大左房と血行動態異常との関連、血液鬱滞と血栓症との関連、心膜の血行動態への影響、脳死例での心拍動の特異性、超音波造影法による心筋灌流の評価、気絶心筋・冬眠心筋の病態解明などなどである。この講義が、学生たちに感嘆符への路を歩ませる触媒になれば幸いである。



べっぶ・しんたろう

プロフィール

略歴：昭和44年大阪大学医学部卒業、学内・学外の卒業研修の後、昭和47年大阪大学医学部第一内科出局。昭和52年国立循環器病センター研究所冠循環研究室研究員、昭和54年同室長。平成6年大阪大学医学部保健学科教授。平成13～14年大阪大学医学部保健学科長。平成14年大阪大学評議員。専門は、循環器内科学、超音波医学。研究内容は、心筋虚血、心膜、血栓、心挙動、超音波造影法など多岐にわたる。日本内科学会、日本循環器学会、日本心エコー学会（理事長）、日本超音波医学会（理事）、日本心臓病学会（評議員）、コントラストエコー研究会（代表幹事）などに所属し、Journal of American College of Cardiology、Journal of American Society of EchocardiographyのEditorial Boardを勤める。平成2年紺綬褒章、平成5年日本心臓病学会上田賞（最優秀論文賞）、平成14年日本超音波医学会松尾賞を受賞。

HGFの発見に導かれて

大学院医学系研究科教授 中村 敏 一

本年3月14日、足下が悪いにもかかわらず多数の皆様のご参加のもと、中村先生の最終講義が盛況にとり行なわれた。遠山正彌研究科長からの経歴紹介に引き続き、中村先生の40年あまりの研究生活を80分間にわたり振り返って頂いた。HGF発見の背景となった人工ハイブリッド肝臓構築の苦労話、その過程で肝細胞を試験管内で効率よく大量に増殖させる必要があることを痛感され、この時の思いが、1万匹以上のラットからのHGF発見のスピリットにつながったと熱弁された。中村先生は、様々な臓器傷害モデルでのHGF中和抗体投与が、再生停止、病態憎悪につながることを見出し、傷害後に誘導される内因性HGFが自己修復システムを調節していることを強調された。さらに先生はHGFの補充が劇症肝炎や心筋梗塞などの急性疾患、肝硬変や慢性腎症などの線維性疾患、ALSなどの神経変性疾患の発症予防、病態改善につながることを実証された。先生は多くのオリジナル研究を通じてHGFの治療因子としての重要性を世界にアピールされたが、一方で1日も早く、HGFを病める患者さんに届けたいとの思いから、大学発ベンチャーを設立された。基盤研究から実用展開においてスピリッツ、パッション、周囲への配慮の重要性を熱弁され、全国から馳せ参じた多くのお弟子さんを含む、沢山の方々からの温かい拍手のもとに閉会した。(文責：水野信哉)



なかむら・としかず

プロフィール

略歴：1972年：大阪大学大学院理学研究科博士課程修了、1977年～：徳島大学医学部附属酵素研究施設・講師 助教授、1988年～：九州大学理学部教授、1993年～：大阪大学医学部附属バイオメディカル教育研究センター・教授(腫瘍生化学研究部)、2001年4月～：大阪大学大学院医学系研究科・教授(分子再生医学・改組に伴う名称変更)、2008年4月～：大阪大学先端科学イノベーションセンター・特任教授。
受賞：1984年：日本癌学会奨励賞、日本生化学会奨励賞、1992年：高松宮妃癌研究基金学術、1994年：安田記念医学賞最優秀賞、1994年：持田記念学術賞、1994年：大阪科学賞、1995年：井上学術賞、2006年：ネイチャー・メディスン/アンジェスMGバイオメディカル賞大賞、紫綬褒章受賞。

「生命現象に基づく高機能性化合物の創製」をめざして

大学院薬学研究科教授 今西 武

有機合成化学は、さまざまな有機分子を自在に創り出すことを可能にする研究領域で、「何が創れるのか?」も大いに大切だが、「何のために何を創るのか?」が大変重要である。生命現象が分子レベルで解き明かされつつある今日、それらの分子メカニズムを活用して、天然にはない人工の機能分子を開発し、ライフサイエンス関連の付加価値の高い新規化合物を創製することは大変重要で意義深い。

例えば、天然核酸の化学構造を適切に改変して高機能性人工核酸を開発することで、さまざまなゲノムテクノロジー(アンチセンス法やアンチジーン法など)の基盤材料としてゲノム創薬や遺伝子診断への応用に結び付けられる。実際、天然核酸分子の立体配座特性に基づいて創り出された架橋構造型人工核酸BNA(Bridged Nucleic Acid)は、天然核酸を超えた機能性(RNAやDNAとの強い結合力や優れたヌクレアーゼ耐性能)を示し、特定遺伝子の特異的な発現制御などに有効性が高いことが確かめられるに至っている。今後は、さまざまな遺伝子を対象とした治療薬・診断薬のみならず研究用高機能材料として活用されることが大いに期待できる。

化学・生物・物理という形而上学的な分類が意味をなさなくなった今日、さまざまな分子を合成することができる化学技術を、有機化学の領域内だけに留めるのではなく、分子のサイエンスとして捉え関連する幅広い分野に活用し展開することによってこそ、その学術的・社会的な重要性がより一層増してくる。



いまにし・たけし

プロフィール

略歴：昭和42年大阪大学薬学部卒業、昭和47年同大学院薬学研究科博士課程修了、薬学博士。大阪大学薬学部助手、金沢大学薬学部助教授、大阪大学薬学部助教授を経て平成2年同教授(平成10年から大学院薬学研究科教授)。大阪大学内では、評議員、吹田地区交通安全委員長、学生生活委員会厚生小委員長等を、薬学部内では、薬学研究科長・薬学部長、製薬化学科長、将来計画委員長、教務委員長、予算委員長等を歴任し、大阪大学及び薬学部の管理運営と発展に尽力。学外では、大学等設置審議会専門委員、製品評価センター既存物質名簿再編集委員長、日本薬学会の理事、評議員、Chem.Pharm.Bull.編集委員、役員等候補者選考委員、学会賞選考委員、第13回アンチセンスシンポジウムと第33回核酸化学シンポジウムの組織委員長等として学会等の運営・学術の振興に貢献。昭和58年日本薬学会奨励賞、平成15年第三回バイオビジネスコンペ JAPAN最優秀賞受賞。

有機化学と共に歩んで

大学院薬学研究科教授 北 泰 行

もともと化学反応に興味を持っていたが、大学院生になった頃から有機合成化学に魅せられて40年以上、この路一筋に歩んできた。研究を始めて最初の10年間は、主に新反応の開発、反応機構考察、反応の一般化等を行った。マサチューセッツ工科大学に留学(2年間)し、助教授に昇任してからの10年間は、自分達が開発した反応を基盤として数種の抗腫瘍活性天然物の全合成を達成した。その後、薬品合成化学教室を引き継いでからの約20年間は、創薬を志向しながら環境に優しい合成反応や反応剤の開発、創薬先導化合物の創生研究を展開した。毒性のある重金属酸化剤に代わり、3価の超原子価ヨウ素反応剤が非常に優れた酸化剤になることを明らかにできた。特にフェニルエーテル類からカチオンラジカルを発生させることに初めて成功し、そのために効率の良い酸化的C-C、C-O、C-N結合形成反応、さらに触媒的反応を可能とした。さらに、超原子価ヨウ素反応剤を用いる不斉合成は、これ迄難しいことが明らかにされているが、最近になってその解決の糸口を見出した。この間、多くの優れた共同研究者と一緒に研究生生活を送ることができたことは最高の幸せである。



きた・やすゆき

プロフィール

略歴：昭和42年3月京都薬科大学製薬化学科を卒業、昭和47年3月大阪大学大学院薬学研究科薬品化学専攻を修了、薬学博士の学位を取得。同年6月大阪大学薬学部薬品合成化学講座助手に採用。昭和50年から2年間文部省博士在外研究員として、米国マサチューセッツ工科大学で研究、昭和58年4月大阪大学薬学部助教授を経て、平成4年6月同教授に昇任、薬品合成化学講座を担当、大学院重点化の改組に伴い平成10年4月大阪大学大学院薬学研究科教授に配置換え。同年大阪大学評議員、日本薬学会監事、理事、評議員、化学系薬学部会長を務め、Chirality, Heterocycles, Current Chemical Biology等のEditorial Board。現在、日本学術システム研究センター専門研究員、第20期日本学会会議連携会員、日本薬学会奨励賞、学術貢献賞、日本薬学会賞およびヨウ素学会賞受賞。平成20年3月退職。

生物プロセスシステム工学と共に40年

大学院工学研究科教授 塩 谷 捨 明

解析と合成(Analysisとsynthesis)もの作りにはその両方が必要である。しかし、合成については学問体系が確立されていない分野がまだまだ多い。との恩師高松武一郎先生の言葉に刺激を受けて、生物を使って有用物質をつくるプロセスの合成についての方法論を研究してみようと「生物プロセスシステム工学」を標榜して現在まで研究と教育をしてきました。

合成には、何のためかという目的が最も重要です。目的を達成するために、数式モデルに基づいて、生物プロセスの設計や運転・制御を合理的に行っていきます。これらが順調に進められるためには、個々の過程での道具の整備と方法論の確立が必要となります。また個々の事例から一般化へと体系化も必要です。私の研究はこのような個々の過程での道具の整備と方法論の確立としてまとめられるかと思えます。

解析情報である実験データを基に数式モデルが構築されますが、数式モデルは真の姿からの誤差を必ず含みます。最初の仕事である博士論文は、モデル化の誤差を評価し、設計に組み入れていく道筋を確立することでした。続いて、流加培養における最大生産の方法、それを保証する制御システムの設計論を確立、これらの方法論を種々の生物プロセス、アミノ酸生産、抗体生産、生分解性ポリマー生産、等々に適用し、実証してきました。また、網羅的解析に基づく菌株育種法の開発、二種の微生物の共生関係の解明とその利用、などの研究を行ってきました。

ふり返ってみると、一般化への道程は厳しく、不十分だったと思います。時代の要請に応えられたかとの反省に立って、今後もっと解析のレベルを上げ、複雑な系へと展開していくことが必要だと思えます。

この分野に進まれる研究者の参入と、発展を期待しています。



しおや・すてあき

プロフィール

略歴：昭和42年3月京都大学工学部衛生工学科を卒業後、同年4月京都大学大学院工学研究科修士課程衛生工学専攻に入学し、昭和44年3月同課程を修了、同年4月同大学大学院工学研究科博士課程衛生工学専攻に入学、昭和46年3月同課程を退学し、同年4月京都大学工学部助手に採用され、昭和50年9月京都大学より工学博士の学位を授与された。昭和61年4月大阪大学工学部助手に転任、昭和62年11月同助教授、平成5年12月同教授に昇任し、現在工学研究科生命先端工学専攻所属。この間、昭和52年6月より1年間スイス連邦工科大学(ETH-Zurich)で博士研究員。学内においては、全学留学生委員会委員、国際交流委員会委員、工学研究科内では、留学生相談室長、国際交流室長を歴任。学外においては、文部省工学視学委員(高等教育局)、文部省大学設置・学校法人審議会専門委員(大学設置分科会)、文部省学術審議会専門委員(科学研究費分科会)等歴任。学協会においては、日本生物工学会会長、世界自動制御連盟応用部門専門委員会委員長(バイオプロセスの制御部会)などを歴任した。

軍縮と国際法

大学院国際公共政策研究科教授 黒澤 満

まず、軍縮問題の歴史的発展として、20世紀初めまでは思想家の提案と政治的な主張があり、国際連盟期には軍縮の制限と削減の努力がなされ、国連の初期には核兵器廃絶と全面完全軍縮が議論され、冷戦期に軍備管理としていくつかの条約が成立し、ポスト冷戦期には軍縮も実施され、不拡散が強調されていることを明らかにする。

次に、国際法上の軍縮の概念と内容を、伝統的な定義から始め、軍備管理および不拡散との関係を整理し、量的な側面と質的な側面における軍縮の概念と内容を明確にする。

第3に、国際法体系の中における軍縮国際法の位置づけの問題を検討し、これは武力紛争法の中ではなく、国際安全保障の中に戦争に反対する方として位置づけることを主張する。

最後に、軍縮問題は、武力行使の禁止、紛争の平和的解決、集団的安全保障と相互依存関係にあり、それぞれの分野における進展が国際の平和と安全に不可欠であると結論する。



プロフィール

くろさわ・みつる

略歴：1967年大阪大学文学部哲学科卒業、1969年大阪大学法学部卒業、1971年同大学院法学研究科修士課程修了、1976年同大学院法学研究科博士課程単位取得退学、1976年新潟大学人文学部法学科講師、1980年米国ヴァージニア大学客員研究員、1984年新潟大学法学部教授、1991年大阪大学法学部教授、1993年博士（法学）（大阪大学）の学位を取得、1994年大阪大学大学院国際公共政策研究科教授、1998年大阪大学大学院国際公共政策研究科長、1998年大阪大学評議員、2003年米国モンレー国際大学客員研究員。研究テーマは国際の平和と安全保障、特に軍縮問題。科学技術庁参与、原子力委員会参与、核不拡散条約再検討会議政府代表団顧問などを務める。所属学会は、国際法学会（元評議員）、世界法学会（理事）、日本平和学会（元理事）、国際政治学会（評議員）。

給付行政研究の道のり 法治主義と人間の尊厳の確立を求めて

大学院高等司法研究科教授 村上 武則

2008年1月30日（水）私の退職記念講義が法経講義棟2番講義室で行われたが、超満員の出席者だった。私は研究者になって以来、他の研究者が研究していない分野を研究してきた。海の管理、会計検査院の研究、財産区と慣習法、スポーツ行政法、行政法上の原状回復請求権等がそうであるが、とりわけ給付行政も未開拓の分野であった。給付行政は社会保障行政、公共施設の設置・管理および資金補助行政などだが、特に社会保障行政においては老人介護等弱い立場にある人の「人間の尊厳」と法治主義がおろそかにされやすい。幸い平成17年改正の行政事件訴訟法により「義務付け訴訟」および仮の権利保護としての「仮の義務付け」という新しい武器が創設された。これらの新しい訴訟手段によって、人間の尊厳と法治主義をいっそう守り発展させていかなければならない。のみならず協働国家・社会においては、弱い立場にある人たちを社会的に受け入れる心配りがいっそう重要であろう。



プロフィール

むらかみ・たけのり

略歴：昭和19年6月生まれ。昭和42年京都大学法学部卒。昭和44年京都大学大学院法学研究科修士課程修了。昭和46年京都大学大学院法学研究科博士課程退学。昭和46年広島大学助手、昭和47年同講師、昭和51年同助教授を経て、昭和58年同教授に昇任。平成5年大阪大学教授。大阪府収用委員会副会長、大阪府建築審査会副会長、高槻市個人情報保護制度審議会会長、茨木市建築審査会会長、日本公法学会理事、日本財政法学会理事、日独法学会理事、国家公務員1種試験専門委員を歴任。京都大学博士（法学）。主要著書『給付行政の理論』（有信堂）

「形」の論理

大学教育実践センター教授 細谷 昌志

カントの『判断力批判』の立場に基本的に立ちながら、カントが提出した超越論的哲学の問題を、たんなる趣味判断や認識論的な領域を超えて、あえて形而上学的・存在論的に、しかしあくまで表象から離れず考察する。われわれの心に生ずる意識内容である「観念」と、その構造化である「表象」の認識源泉を求めて究極的に「構想力」にいたるが、構想力は「心の根本能力」として、人間存在と世界のあり方を形而上学的に規定するものである。「現実性」と「可能性」の差異を生きる人間にとって、構想力の働きは根源的であり、それなしには人間の生は存在しえない。とくに産出的構想力による総合の働きは、「図式性」を介して「形」の論理となり、芸術作品だけでなく、各種の宗教的表象（神話やトーテムズムや仮面など）を形成している。そこに、豊かな文化表象の世界が展開される。さらに構想力は技術の概念を媒介することによって、「形の論理」となって現在の歴史のうちに生成してくる。



ほそや・まさし

プロフィール

略歴：昭和48年京都大学文学研究科博士課程終了。文学博士（京都大学）。専攻、宗教哲学。著書、『カント 表象と構想力』、『文化の深淵としての宗教』など。

昭和48年嵯峨美短大講師、52年大阪外国語大学講師、54年同大学助教授、平成3年同大学教授。平成12年から15年まで同大学副学長。

"土曜の午後はミュージアム"

サイエンスカフェ@待兼山 スタート!

総合学術博物館長 江口太郎

土曜日の昼下がり、大阪大学総合学術博物館でサイエンスカフェを楽しみませんか。

総合学術博物館 待兼山修学館がリニューアルオープンしたのは昨年8月18日でした。それ以後、3月末までの博物館参観者数は、団体見学なども含め約11,000名に上ります。また、全国の大学博物館でも初の試みとなった1階のミュージアムカフェ『坂』も、同窓会などのパーティーの参加者も含め、ほぼ同数程度の利用者があるようです。この二つの数字を単純には加算できませんが、それでも、1万5千人ほどの方々に修学館を訪れて頂いたことになると思います。

新学期を迎え、最近では訪れる人がさらに増加しているように感じています。そのような中、総合学術博物館では、新たな試みとして平成20年4月から「サイエンスカフェ@待兼山 “土曜の午後はミュージアム”」を待兼山修学館にてスタートしました。

サイエンスカフェは、いわゆる「講演会」や「何でも相談室」といったようなQ & A方式で専門家が「正解」を教える場所ではありません。正解は得られないかもしれませんが、コーヒーを片手にケーキをつまみながら「科学する」とはどういうことかを、専門家とともに考えていきます。そのことを通して専門家と一般の方々間のコミュニケーション不全を少しでも改善できればと考えています。

総合学術博物館、理学研究科、基礎工学研究科の教員有志がコーディネーターを務める予定です。

第1回「携帯電話の電波は体に悪い？」(4月5日開催)

桜が満開になった4月5日(土)午後3時から、ミュージアムカフェ「坂」において開催されました。あらかじめ参加を申し込んだ13歳の中学1年生から83歳のお年寄りまで20名の方々が、定刻(午後3時)までに集合。当日は、初めての試みでもあるために、新聞記者や豊中市教育委員会の方など、いわゆる「桜」も花盛りで10名ほど来られていました。

今回は、「携帯電話の電波は体に悪い？」というタイトルで、江口がコーディネーターを務め、コーヒーとケーキを前に、通常の講演会とは異なり、パワーポイントなどの映像は用いずに、できるだけ参加者との双方向の会話で、「考えることの楽しさ」や「科学者のこだわり」を体験してもらえればと考えていましたが、参加者の知識レベルや参加の目的にきわめて大きな違いがあるために、活発な討論に至るのはなかなか困難でした。

それでも最後にとったアンケートでは好意的な印象が大半を占めていました。

心意気は感じてもらったのだと思います。



開催スケジュール

カフェ番号	予定日*1	コーディネーター	所属*2	タイトル	対象
1	4月5日	江口 太郎	博	携帯電話の電波は体に悪い？	中学生以上
2	4月12日	池田 茂	基	エネルギーのこれから	中学生以上
3	4月19日	藤原 彰夫	理	論理とパラドクスの迷宮への誘い	制限なし
4	5月10日	佐藤 宏介	基	防犯カメラはどこまで見張る？	高校生以上
5	5月24日	廣川 和花	博	古文書でたどる待兼山	高校生以上
6	6月7日	文珠四郎 秀昭	理	水道水はそのまま飲めない？	高校生以上
7	6月21日	高橋 京子	博	クスリに好奇心：生薬なるほど物語	高校生以上
8	7月5日	上田 貴洋	博	身の回りのものをつくっているものはなあに？ 分子の大きさを実感する方法を考えよう！	小学5,6年と保護者
9	7月19日	藤田 佳孝	理	宇宙から極微の世界まで - 自然界に働く四つの力 -	高校生以上
10	8月2日	豊田 二郎	博	ネットワークとうまくつきあう	中学生以上
11	8月9日	狩野 裕	基	データによる論証とは：データの見方，考え方	制限なし
12	8月23日	古屋 秀隆	理	口になるか、肛門になるかが、動物の分かれ目	制限なし
13	8月30日	荒木 勉	基	体の中の精密機械	制限なし

* 1 実施予定日はコーディネーターの都合により変更される場合もありますのでご了承ください。

* 2 博：総合学術博物館
理：大学院理学研究科
基：大学院基礎工学研究科

開催場所：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 1階
ミュージアム・カフェ「坂」

開催日時：平成20年4月5日～8月30日の指定の土曜日（計13回）
午後3時から4時半まで

定 員：各回とも20名程度

参加費：無料

申込方法：総合学術博物館ホームページ（<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>）の
Webフォームによる申し込み
あるいは往復はがき（住所、氏名、年齢、希望のカフェ番号を明記）
〒560-0043 豊中市待兼山町1-16 大阪大学総合学術博物館

申込期間：各カフェ実施日の1ヶ月前から10日前まで（必着）

抽選により参加者を決定します。当選者には、メールあるいは葉書でお知らせします。



戸田達史教授「朝日賞」受賞

医学系研究科臨床遺伝学の戸田達史教授が、2007年度「朝日賞」を受賞しました。この賞は、朝日新聞社が1929年に制定した賞で、学術や芸術などの分野で傑出した業績を上げ、日本の文化や社会の発展・向上に多大な貢献した個人または団体に贈られるものです。

今回の受賞は、福山型筋ジストロフィーの発見とその類縁疾患における病態の解明という一連の研究が評価されたもので、福山幸夫東京女子医科大学名誉教授、遠藤玉夫東京都老人総合研究所研究部長と3名での共同受賞です。

なお、贈呈式は1月29日(火)東京帝国ホテルで行なわれました。



後列右端から2番目が戸田教授

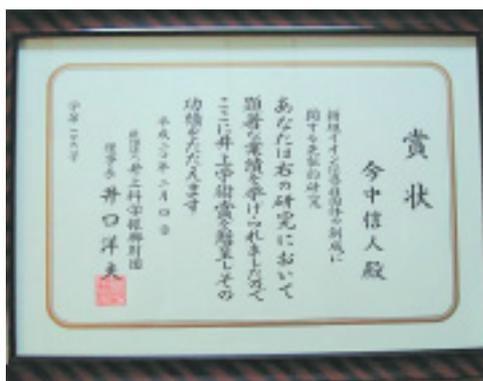
(医学系研究科・医学部)

今中信人教授「第24回(平成19年度)井上學術賞」受賞

工学研究科応用化学専攻の今中信人教授が、「新規イオン伝導性固体の創成に関する先駆的研究」の研究業績により井上學術賞を受賞しました。この賞は、財団法人井上科学振興財団より自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績を挙げた研究者に対し贈られる賞で、同財団は理科学を中心とする自然科学の基礎的研究の振興に資するため、研究者の養成のための研究を助成し、また、優れた研究者を表彰することにより、自然科学の国際的交流を図ることを目的として設立された財団です。

今回の受賞は、『真の新しい材料(もの)づくり』に対する基本姿勢に加え、『熱力学』の観点をも考慮に入れ、これまでの「旧い常識」を覆す“新しい概念に基づいた数々のイオン伝導性固体の創成”を成し遂げたことが高く評価されました。

授賞式は2月4日(月)、KKRホテル東京にて執り行われました。



(工学研究科・工学部)

谷口和弘特任研究員「インタラクティブ発表賞」受賞

基礎工学研究科の谷口和弘特任研究員が、情報処理学会主催インタラクティブ2008において「インタラクティブ発表賞」を受賞しました。今回の受賞は、基礎工学研究科の宮崎文夫教授ならびに西川 敦准教授の2氏との共同受賞です。

インタラクティブ発表賞は、実システムのデモンストレーションを中心とした、発表者と参加者との双方向的なコミュニケーション形式の発表を通して、プログラム委員会の審査と参加者の投票により優秀と認められた発表に授与されるもので、今回対象となった研究のタイトルは「こめかみスイッチ：瞬きパチパチでスイッチカチカチな常時装用入力装置」です。この研究は、使用者が意識的な瞬きをすることによりハンズフリーで機器のON / OFF 操作を行うことができるヒューマンマシンインタフェースに関する研究で、文化・言語の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに使用できるシステムの構築を目指して研究されているもので、今後幅広い分野への応用が期待されています。

なお、賞の授賞式は3月3日(月)に学術総合センターの一橋記念講堂で行われました。

(基礎工学研究科・基礎工学部)



中村仁信教授「第8回(平成19年度)放射線影響研究功績賞」受賞

医学系研究科放射線総合医学講座の中村仁信教授が、財団法人放射線影響協会「第8回(平成19年度)放射線影響研究功績賞」を受賞しました。

財団法人放射線影響協会は、放射線の生物および環境への影響、放射線の医学利用の基礎ならびに放射線障害の防止など放射線科学の分野において顕著な業績を挙げた者にたいして、放射線影響研究功績賞を贈呈し、もって新界の発展に資することを目的としています。

中村教授は、1997年国際放射線防護委員会(ICRP)委員に選任されて以来、インターベンショナル・ラジオロジー(IVR)における患者および術者の放射線被曝と防護に関する研究を行い、IVRにおける被曝低減に大いに貢献されました。また、ICRP勧告「IVRにおける放射線障害の回避」の作成に携わり、新勧告の普及に尽力されました。今回の受賞はこれらの業績が評価されたものです。

贈呈式は3月18日(火)東京ジョンブル ロペリアホールにて行われ、賞状と賞牌、目録の授与、文部科学省大臣官房審議官の祝辞の後、引き続き祝賀会が開催されました。



(医学系研究科・医学部)

平成 19 年度大阪大学教育・研究功績賞

大阪大学教育・研究功績賞は、大阪大学に勤務する教員のうち、教育・研究上の功績が特に顕著であると認められた者に対して授与し、これを顕彰することにより、本学における教育・研究の一層の発展を期することを目的として行われています。平成 19 年度は、以下の方々が受賞されました。

(総務部人事課)

所属名	職名	氏名	該当受賞項目	所属名	職名	氏名	該当受賞項目
文書館設置準備室	講師	菅 真城	4	基礎工学研究科	教授	辻 本 良 信	1
人間科学研究科	教授	寺 阪 満里子	3・4	基礎工学研究科	准教授	水 垣 共 雄	1
経済学研究科	准教授	鳩 澤 歩	1	言語文化研究科	准教授	齋 藤 渉	1
理学研究科	教授	大 貫 惇 睦	3	言語文化研究科	准教授	ヨコタ村上 孝之	1
理学研究科	教授	土 山 明	2・3・7	情報科学研究科	教授	尾 上 孝 雄	4
理学研究科	教授	福 山 恵 一	3	情報科学研究科	准教授	橋 本 昌 宣	4
理学研究科	教授	細 谷 裕	1	生命機能研究科	教授	藤 田 一 郎	4
理学研究科	教授	村 田 道 雄	1	生命機能研究科	准教授	田 村 弘	4
理学研究科	講師	藤 本 ゆかり	1	高等司法研究科	教授	池 田 辰 夫	2
医学系研究科	教授	戸 田 達 史	3	微生物病研究所	准教授	石 井 健	3・10
医学系研究科	准教授	戸 邊 亨	1	産業科学研究所	教授	中 嶋 英 雄	1
歯学研究科	講師	寺 尾 豊	1	産業科学研究所	准教授	村 上 聡	1
歯学部附属病院	講師	仲 野 和 彦	1	産業科学研究所	准教授	YANG JINFENG	1
歯学部附属病院	助教	野 原 幹 司	1	蛋白質研究所	教授	相 本 三 郎	1
薬学研究科	教授	馬 場 明 道	1・2・3・8	社会経済研究所	教授	青 柳 真 樹	3
工学研究科	教授	浅 田 稔	10	接合科学研究所	教授	中 田 一 博	1・5
工学研究科	教授	片 岡 勲	2	超高圧電子顕微鏡センター	教授	森 博太郎	4
工学研究科	教授	金 子 真	1	環境安全研究管理センター	講師	矢 坂 裕 太	10
工学研究科	教授	河 田 聡	1・4・10	留学生センター	教授	村 岡 貴 子	10
工学研究科	教授	久 保 司 郎	2	生物工学国際交流センター	教授	仁 平 卓 也	1
工学研究科	教授	澁 谷 陽 二	1	極限量子科学研究センター	助教	木 村 尚 次 郎	1
工学研究科	教授	竹 内 芳 美	1	太陽エネルギー化学研究センター	准教授	白 石 康 浩	1
工学研究科	教授	西 嶋 茂 宏	2	大学教育実践センター	教授	岩 居 弘 樹	8
工学研究科	教授	南 二三吉	3・8	保健センター	助教	高 島 成 二	3
工学研究科	准教授	鈴 木 毅	7	コミュニケーションデザイン・センター	助教	平 井 啓	1
工学研究科	准教授	吉 村 政 志	1・7	世界言語研究センター	教授	中 島 久	7
工学研究科	助教	打 越 純 一	7	サイバーメディアセンター	准教授	長 谷 川 剛	4
基礎工学研究科	教授	荒 木 勉	1	レーザーエネルギー学研究センター	准教授	河 仲 準 二	10
基礎工学研究科	教授	潮 俊 光	1	免疫学フロンティア研究センター	教授	木 下 タロウ	10
基礎工学研究科	教授	菅 滋 正	1	ナノサイエンス/ナノテクノロジー研究推進機構(特任教授(常勤))		小 川 久 仁	7

<受賞項目>

1. 教育・研究上の業績が認められ、権威のある学術上の表彰を受けた場合。
2. 教育・研究及びその成果が、社会に対し多大な貢献をしたとの評価を得た場合。
3. 専門誌等における掲載論文の評価が高いとされた場合。
4. 学術に関する会議等での発表が高い評価を受けた場合。
5. 職務発明が高い評価を受けた場合。
6. 評価の高い発見をした場合。
7. 教育・研究プロジェクト等においてその貢献が顕著であると評価された場合。
8. 教育・研究に関する事項を審議する委員会等においてその貢献が顕著であると評価された場合。
9. 危険な環境の下で困難な教育・研究業務を遂行した場合。
10. その他、教育・研究活動の貢献が顕著であると評価された場合。

所属名、職名は平成 20 年 1 月現在

新役員紹介

月岡 英人 (つきおか ひでと)

理事・事務局長



【略歴】

- 昭53. 4 文部省入省
- 平 4. 9 文部省初等中等教育局教科書課教科書企画官
- 6. 7 佐賀県教育委員会教育次長
- 9. 7 文部省初等中等教育局教科書課長
- 11. 7 文部省初等中等教育局小学校課長
- 13. 1 国立教育政策研究所教育課程研究センター長
- 16. 7 文部科学省生涯学習政策局主任社会教育官
(命) 同局生涯学習総括官
- 17. 4 独立行政法人大学入試センター理事・副所長
- 20. 4 国立大学法人大阪大学理事・事務局長

関 順一郎 (せき じゅんいちろう)

監事(常勤)



【略歴】

- 昭47. 4 サントリー株式会社入社
- 平 4. 8 サントリー株式会社大阪秘書部部长
- 8. 3 サントリー株式会社経営企画部部长
- 10. 3 サントリー株式会社健康食品事業部部长
- 12. 3 ハーゲンダッツジャパン株式会社社長(出向)
- 18. 3 サントリー文化財団専務理事(出向)
- 20. 3 サントリー文化財団専務理事(出向)退任
- 20. 4 国立大学法人大阪大学監事

山崎 優 (やまさき まさる)

監事(非常勤)



【略歴】

- 昭56. 4 鎌倉法律事務所入所
- 62. 3 退所
- 62. 4 梅田総合法律事務所設立
- 平15. 4 大阪家庭裁判所調停委員(平21.3.31まで)
- 15.11 株式会社万代非常勤監査役(平20.2.29まで)
- 17. 4 大阪大学法務室連携弁護士
- 17. 7 日本テレホン株式会社非常勤監査役(平22.5.31まで)
- 18. 1 大阪地方裁判所鑑定委員(平21.3.31まで)
- 19. 4 大阪弁護士会紛議調停委員会委員長(平21.3.31まで)
- 20. 4 国立大学法人大阪大学監事(非常勤)

新部局長紹介

江川 温 (えがわ あつし)

大学院文学研究科長・文学部長



【略歴】

- 昭49. 3 京都大学文学部卒業
- 52. 3 京都大学大学院文学研究科修士課程修了
- 54. 3 京都大学大学院文学研究科博士課程退学
- 54. 4 大阪大学助手文学部
- 57. 4 大阪大学講師教養部
- 61.12 大阪大学助教授教養部
- 平 2.10 大阪大学助教授文学部
- 8. 1 大阪大学教授文学部
- 11. 4 大阪大学教授大学院文学研究科
- 16. 4 大阪大学大学院文学研究科副研究科長(平20.3まで)
- 18. 4 大阪大学教育研究評議員(平20.3まで)
- 20. 4 大阪大学大学院文学研究科長・文学部長(平22.3まで)

中尾 敏 充 (なかお としみつ)

大学院法学研究科長・法学部長



【略歴】

- 昭48. 3 大阪大学経済学部経済学科卒業
- 50. 3 大阪大学大学院法学研究科修士課程修了
- 55. 3 大阪大学大学院法学研究科後期課程単位修得退学
- 55. 4 近畿大学法学部専任講師
- 61. 4 近畿大学法学部助教授
- 平 4. 4 大阪大学助教授法学部
- 7. 3 大阪大学教授法学部
- 11. 4 大阪大学教授大学院法学研究科
- 11. 8 大阪大学評議員(平14.3まで)
- 16. 4 大阪大学評価・広報室室員(平20.3まで)
- 20. 4 大阪大学大学院法学研究科長・法学部長(平22.3まで)

東島 清 (ひがしじま きよし)

大学院理学研究科長・理学部長



【略歴】

- 昭45. 3 京都大学理学部卒業
- 47. 3 京都大学大学院理学研究科修士課程(物理学第二専攻)修了
- 49. 9 京都大学大学院理学研究科博士課程(物理学第二専攻)退学
- 49.10 東京大学助手理学部
- 51. 3 理学博士(京都大学)
- 62. 4 高エネルギー物理学研究所助教授物理研究系
- 平 5. 3 大阪大学教授教養部
- 6. 4 大阪大学教授理学部
- 8. 4 大阪大学教授大学院理学研究科
- 20. 4 大阪大学大学院理学研究科長・理学部長(平22.3まで)

新部長紹介

平野俊夫 (ひらの としお)

大学院医学系研究科長・医学部長



【略歴】

- 昭47. 3 大阪大学医学部卒業
- 47. 4 大阪大学医学部副手
- 52. 6 大阪大学医学部附属病院医員
- 53. 10 大阪府立羽曳野病院勤務
- 54. 1 医学博士(大阪大学)
- 55. 5 熊本大学助教授医学部附属免疫医学研究施設
- 59. 1 大阪大学助教授細胞工学センター
- 平元. 11 大阪大学教授医学部附属バイオメディカル教育研究センター
- 9. 10 大阪大学医学部附属バイオメディカル教育研究センター長(平11.3まで)
- 9. 10 大阪大学評議員(平11.10まで)
- 11. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科附属バイオメディカル教育研究センター
- 13. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科
- 14. 4 大阪大学教授大学院生命機能研究科
- 15. 4 大阪大学評議員(平成16.3まで)
- 15. 11 大阪大学医学部附属動物実験施設長(平16.3まで)
- 16. 4 大阪大学大学院生命機能研究科長(平18.3まで)
- 17. 4 国立大学法人大阪大学経営協議会委員(平18.3まで)
- 19. 4 国立大学法人大阪大学教育研究評議員(平20.3まで)
- 20. 4 大阪大学大学院医学系研究科長・医学部長(平23.3まで)

小林資正 (こばやし もとまさ)

大学院薬学研究科長・薬学部長



【略歴】

- 昭49. 3 大阪大学薬学部卒業
- 51. 3 大阪大学大学院薬学研究科博士前期課程修了
- 53. 8 大阪大学大学院薬学研究科博士後期課程退学
- 53. 8 大阪大学文部技官薬学部
- 54.11 薬学博士(大阪大学)
- 55. 4 大阪大学助手薬学部
- 平 4. 4 大阪大学助教授薬学部
- 7.12 大阪大学教授薬学部
- 10. 4 大阪大学教授大学院薬学研究科
- 13. 4 大阪大学評議員(平15.3まで)
- 16. 4 大阪大学大学院薬学研究科附属薬用植物園長(平22.3まで)
- 18. 4 大阪大学教育研究評議員(平20.3まで)
- 20. 4 大阪大学大学院薬学研究科長・薬学部長(平22.3まで)

馬場章夫 (ばば あきお)

大学院工学研究科長・工学部長



【略歴】

- 昭46. 3 大阪大学工学部応用化学科卒業
- 48. 3 大阪大学大学院工学研究科石油化学専攻修士課程修了
- 51. 3 大阪大学大学院工学研究科石油化学専攻博士課程修了
- 51. 3 工学博士(大阪大学)
- 51. 4 三菱化成工業株式会社総合研究所(理化研究所・研究員)
- 56. 8 大阪大学助手工学部
- 62. 5 大阪大学助教授工学部
- 平 7. 1 大阪大学教授工学部
- 10. 4 大阪大学教授大学院工学研究科
- 16. 4 大阪大学教育研究評議員(平18.3まで)
- 19. 4 大阪大学先端科学イノベーションセンター長(平21.3まで)
- 20. 4 大阪大学サステイナビリティ・デザイン・センター長(平22.3まで)
- 20. 4 大阪大学大学院工学研究科長・工学部長(平22.3まで)

新部局長紹介

村上 富士夫 (むらかみ ふじお)

大学院生命機能研究科長



【略歴】

- 昭46. 3 大阪大学基礎工学部卒業
- 49. 9 大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程退学
- 49.10 大阪大学助手基礎工学部
- 53.11 工学博士(京都大学)
- 53.11 生物科学総合研究機構助手生理学研究所
- 56. 4 岡崎国立共同研究機構助手生理学研究所
- 59. 4 大阪大学講師基礎工学部
- 62. 2 大阪大学助教授基礎工学部
- 63.12 大阪大学教授基礎工学部
- 平 7. 4 大阪大学基礎工学部生物工学科長(平8.3まで)
- 9. 4 大阪大学教授大学院基礎工学研究科
- 10. 4 大阪大学基礎工学部生物工学科長(平11.3まで)
- 14. 4 大阪大学教授大学院生命機能研究科
- 18. 4 大阪大学大学院生命機能研究科副研究科長(平20.3まで)
- 20. 4 大阪大学大学院生命機能研究科長(平22.3まで)

大 嶋 隆 (おおしま たかし)

歯学部附属病院長



【略歴】

- 昭47. 3 大阪大学歯学部卒業
- 53. 3 大阪大学助手歯学部
- 53. 7 歯学博士(大阪大学)
- 53. 8 大阪大学講師歯学部附属病院
- 59. 6 大阪大学助教授歯学部
- 平12. 4 大阪大学助教授大学院歯学研究科
- 14. 8 大阪大学教授大学院歯学研究科
- 15. 4 大阪大学歯学部附属病院歯疾制御系科長(平16.4まで)
- 16. 4 大阪大学教育研究評議員(平18.3まで)
- 20. 4 大阪大学歯学部附属病院長(平22.3まで)

山 口 明 人 (やまぐち あきひと)

産業科学研究所長



【略歴】

- 昭47. 3 東京大学理学部生物化学科卒業
- 49. 3 東京大学薬学系大学院製薬化学専門課程修士課程修了
- 52. 3 東京大学薬学系大学院製薬化学専門課程博士課程修了
- 52. 3 薬学博士(東京大学)
- 52. 4 理化学研究所流動研究員
- 53. 5 千葉大学助手生物活性研究所
- 56.10 千葉大学助手薬学部
- 58. 6 千葉大学講師薬学部
- 61. 6 千葉大学助教授薬学部
- 平 8. 1 大阪大学教授産業科学研究所
- 20. 4 大阪大学産業科学研究所長(平22.3まで)

新部長紹介

相本 三郎 (あいもと さぶろう) 蛋白質研究所長



【略歴】

- 昭45. 3 大阪大学理学部化学科卒業
- 47. 3 大阪大学大学院理学研究科修士課程(有機化学専攻)修了
- 47. 8 大阪大学大学院理学研究科博士課程(有機化学専攻)退学
- 47. 9 大阪大学助手たんぱく質研究所附属ペプチドセンター
- 52.10 理学博士(大阪大学)
- 62.12 大阪大学助教授たんぱく質研究所附属ペプチドセンター
- 平 6. 1 大阪大学教授たんぱく質研究所附属たんぱく質工学基礎研究センター
- 10. 4 大阪大学教授たんぱく質研究所附属生体分子解析研究センター
- 13. 3 大阪大学教授たんぱく質研究所
- 20. 4 大阪大学蛋白質研究所長(平22.3まで)

岩井 成憲 (いわい しげのり) ラジオアイソトープ総合センター長



【略歴】

- 昭57. 3 大阪大学薬学部製薬化学科卒業
- 59. 3 大阪大学大学院薬学研究科薬品化学専攻前期(修士)課程修了
- 59. 4 北海道大学薬学部教務職員
- 63. 6 北海道大学助手薬学部
- 平元. 2 薬学博士(大阪大学)
- 7. 4 株式会社生物分子工学研究所主任研究員
- 13. 4 東京大学助教授大学院工学系研究科
- 15. 4 大阪大学教授大学院基礎工学研究科
- 20. 4 大阪大学ラジオアイソトープ総合センター長(平22.3まで)

菊野 亨 (きくの とおる) 留学生センター長



【略歴】

- 昭45. 3 大阪大学基礎工学部制御工学科卒業
- 47. 3 大阪大学基礎工学研究科物理系専攻修士課程修了
- 50. 3 大阪大学基礎工学研究科物理系専攻博士課程修了
- 50. 3 工学博士(大阪大学)
- 50. 4 広島大学講師工学部
- 54. 4 広島大学助教授工学部
- 62.10 大阪大学助教授基礎工学部
- 平 2.10 大阪大学教授基礎工学部
- 9. 4 大阪大学教授大学院基礎工学研究科
- 12. 4 大阪大学評議員(平14.3まで)
- 14. 4 大阪大学教授大学院情報科学研究科
- 16. 4 大阪大学中之島センター長(平17.12まで)
- 20. 4 大阪大学留学生センター長(平22.3まで)

新部局長紹介

三宅 和正 (みやけ かずまさ)

極限量子科学研究センター長



【略歴】

- 昭46. 3 横浜国立大学工学部応用化学科卒業
- 48. 3 名古屋大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程修了
- 51. 3 同上博士課程単位修得退学
- 51. 4 日本学術振興会奨励研究員
- 51. 8 名古屋大学助手理学部
- 54. 3 理学博士(名古屋大学)
- 62. 4 名古屋大学助教授教養部
- 平 3.10 大阪大学助教授基礎工学部
- 6. 5 大阪大学教授基礎工学部
- 8. 4 大阪大学基礎工学部物性物理工学科長(平9.3まで)
- 9. 4 大阪大学教授大学院基礎工学研究科
- 20. 4 大阪大学極限量子科学研究センター長(平22.3まで)

馬場 章夫 (ばば あきお)

サステナビリティ・デザイン・センター長



【略歴】

- 昭46. 3 大阪大学工学部応用化学科卒業
- 48. 3 大阪大学大学院工学研究科石油化学専攻修士課程修了
- 51. 3 大阪大学大学院工学研究科石油化学専攻博士課程修了
- 51. 3 工学博士(大阪大学)
- 51. 4 三菱化成工業株式会社総合研究所(理化研究所・研究員)
- 56. 8 大阪大学助手工学部
- 62. 5 大阪大学助教授工学部
- 平 7. 1 大阪大学教授工学部
- 10. 4 大阪大学教授大学院工学研究科
- 16. 4 大阪大学教育研究評議員(平18.3まで)
- 19. 4 大阪大学先端科学イノベーションセンター長(平21.3まで)
- 20. 4 大阪大学大学院工学研究科長・工学部長(平22.3まで)
- 20. 4 大阪大学サステナビリティ・デザイン・センター長(平22.3まで)

新施設長紹介

戸田 達史 (とだ たつし)

附属図書館生命科学分館長



【略歴】

- 昭60. 3 東京大学医学部医学科卒業
- 60. 6 東京大学医学部附属病院分院 医員(研修医)
- 61. 4 東京大学医学部附属病院 医員(研修医)
- 61. 6 東京都小平市公立昭和病院
- 62. 6 東京大学医学部附属病院 医員
- 62.10 東京都新宿区国立病院医療センター
- 63.12 国立診療所下志津病院神経内科 医師
- 平元.12 東京大学医学部附属病院 医員
- 2. 7 東京大学医学部附属病院神経内科(研究に従事)
- 2. 9 東京大学医学部附属病院 医員
- 3. 6 東京大学医学部附属病院神経内科(研究に従事)
- 3. 9 東京大学医学部附属病院 医員
- 3.12 東京大学医学部附属病院神経内科(研究に従事)
- 4. 1 東京都豊島区癌研究会研究所生化学部 癌研究所研究生
- 5. 3 博士(医学)(東京大学)
- 6. 1 東京大学助手医学部
- 8. 8 東京大学助教授医科学研究所附属ヒゲノム解析センター
- 12. 5 大阪大学教授大学院医学系研究科附属バイオメディカル教育研究センター
- 13. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科
- 20. 4 大阪大学附属図書館生命科学分館長(平22.3まで)

新施設長紹介

宮坂昌之 (みやさか まさゆき)

医学部附属動物実験施設長



【略歴】

- 昭48. 9 京都大学医学部医学科卒業
- 48. 9 財団法人田附興風会北野病院見学研修(診療補助)従事(昭48.11まで)
- 48.12 財団法人田附興風会北野病院臨床研修医(昭49.5まで)
- 49. 6 財団法人田附興風会北野病院内科医師(昭49.9まで)
- 49. 9 金沢医科大学医学部助手(昭57.5まで)
- 56. 5 オーストラリア国立大学シオンカーティン医学研究所博士課程修了
- 56. 6 スイスパーゼル免疫学研究所研究員(昭60.8まで)
- 60. 8 浜松医科大学助手医学部
- 62. 4 東京都専門副参事
- 62. 4 東京都衛生局副主幹
- 62. 4 財団法人東京都臨床医学総合研究所免疫研究室長
- 平 2. 8 東京都衛生局副参事
- 4. 7 東京都専門参事
- 4. 7 東京都衛生局参事
- 4. 7 財団法人東京都臨床医学総合研究所免疫研究部長
- 6. 4 大阪大学教授医学部附属バイオメディカル教育研究センター
- 11. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科附属バイオメディカル教育研究センター
- 13. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科
- 20. 4 大阪大学医学部附属動物実験施設長(平22.3まで)

莊村泰治 (そうむら たいじ)

歯学部附属歯科技工士学校長



【略歴】

- 昭44. 3 姫路工業大学機械工学科卒業
- 44. 4 姫路工業大学助手
- 47. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科修士課程修了
- 50. 6 大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程修得退学
- 50. 6 大阪大学基礎工学部教務職員
- 51. 5 工学博士(大阪大学)
- 52. 4 大阪大学基礎工学部研究生
- 54. 4 日本学術振興会奨励研究員
- 54.12 理学電機工業株式会社応用研究室研究員
- 57. 7 大阪大学助手歯学部
- 平 6. 2 大阪大学講師歯学部
- 11. 6 大阪大学助教授歯学部
- 12. 4 大阪大学助教授大学院歯学研究科
- 18. 6 大阪大学教授大学院歯学研究科
- 20. 3 大阪大学歯学部附属歯科技工士学校長(平22.3まで)

宇野公之 (うの ただゆき)

大学院薬学研究科附属創薬教育センター長



【略歴】

- 昭56. 3 東京大学教養学部基礎科学科卒業
- 58. 3 東京大学大学院薬学系研究科修士課程修了
- 61. 3 東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了
- 61. 4 名古屋市立大学助手薬学部
- 平 4. 4 名古屋市立大学講師薬学部
- 4. 5 徳島大学助教授薬学部
- 9. 5 熊本大学教授薬学部
- 15. 4 熊本大学教授大学院医学薬学研究部
- 17. 4 大阪大学教授大学院薬学研究科
- 20. 3 大阪大学大学院薬学研究科附属創薬教育センター長(平22.3まで)

新施設長紹介

岡田 成文 (おかだ しげふみ)

大学院工学研究科附属原子分子イオン制御理工学センター長



【略歴】

- 昭46. 6 東京大学理学部物理学科卒業
- 48. 3 東京大学大学院理学系研究科物理学専門課程修士課程修了
- 53. 3 東京大学大学院理学系研究科物理学専門課程博士課程単位修得退学
- 53. 4 名古屋大学大学院理学研究科研修生(昭55.2まで)
- 54.12 東京大学大学院理学系研究科物理学専門課程博士課程修了
- 54.12 理学博士(東京大学)
- 55. 3 大阪大学助手工学部附属超高温理工学研究施設
- 平 3. 4 大阪大学助教授工学部附属超高温理工学研究施設
- 7. 9 大阪大学教授工学部附属超高温理工学研究施設
- 10. 4 大阪大学教授大学院工学研究科附属超高温理工学研究施設
- 15. 4 大阪大学教授大学院工学研究科附属原子分子イオン制御理工学センター
- 20. 4 大阪大学大学院工学研究科附属原子分子イオン制御理工学センター長(平23.3まで)

谷口 研二 (たにくち けんじ)

大学院工学研究科附属高度人材育成センター長



【略歴】

- 昭46. 3 大阪大学工学部電子工学科卒業
- 48. 3 大阪大学大学院工学研究科電子工学専攻(修士課程)修了
- 50. 3 大阪大学大学院工学研究科電子工学専攻(博士課程)退学
- 50. 4 株式会社東芝総合研究所研究員
- 55. 4 株式会社東芝総合研究所研究主務
- 60. 4 株式会社東芝総合研究所主任研究員
- 61. 7 工学博士(大阪大学)
- 61.10 大阪大学助教授工学部
- 平 8. 7 大阪大学教授工学部
- 10. 4 大阪大学教授大学院工学研究科
- 18. 4 大阪大学教育研究評議員(平22.3まで)
- 20. 4 大阪大学大学院工学研究科附属高度人材育成センター長(平22.3まで)

掛下 知行 (かけした ともゆき)

大学院工学研究科附属構造・機能先進材料デザイン教育研究センター長



【略歴】

- 昭51. 3 北海道大学理学部物理学科卒業
- 53. 3 北海道大学大学院理学研究科(修士課程)物理学専攻修了
- 54. 3 北海道大学大学院基礎工学研究科(後期課程)物理系退学
- 54. 4 大阪大学産業科学研究所文部技官
- 58. 4 大阪大学助手産業科学研究所
- 62.12 理学博士(大阪大学)
- 平 5. 7 大阪大学助教授工学部
- 10. 4 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 12. 4 大阪大学教授大学院工学研究科
- 20. 4 大阪大学大学院工学研究科附属構造・機能先進材料デザイン教育研究センター長(平22.3まで)

新施設長紹介

西 條 辰 義 (さいじょう たつよし)

社会経済研究所附属行動経済学研究センター長



【略歴】

- 昭50. 3 香川大学経済学部卒業
- 53. 3 一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了
- 60. 8 ミネソタ大学経済学部大学院博士課程修了
- 60. 9 オハイオ州立大学経済学部講師(昭61.6まで)
- 60.11 Doctor of Philosophy (ミネソタ大学)
- 61. 7 カリフォルニア大学サンタバーバラ校経済学部助教授
- 63. 9 筑波大学講師社会工学系
- 平 3. 5 筑波大学助教授社会工学系
- 7.10 大阪大学教授社会経済研究所
- 20. 4 大阪大学教授社会経済研究所附属行動経済学研究センター
- 20. 4 大阪大学社会経済研究所附属行動経済学研究センター長
(平22.3まで)

新教授紹介

藤 川 信 夫 (ふじかわ のぶお)

大学院人間科学研究科



【略歴】

- 昭59. 3 広島大学教育学部卒業
- 61. 3 広島大学大学院教育学研究科博士課程前期教育学専攻修了
- 平元. 3 広島大学大学院教育学研究科博士課程後期教育学専攻単位修得退学
- 元. 4 広島大学助手教育学部
- 2. 4 広島大学研究生(教育学部)
- 2. 6 広島大学助手教育学部
- 3. 4 広島大学研究生(教育学部)
- 3.12 広島大学助手教育学部
- 4. 4 日本学術振興会特別研究員(広島大学教育学部所属)
- 5.10 広島大学講師教育学部
- 6.11 博士(教育学)(広島大学)
- 11.10 大阪大学助教授人間科学研究科
- 12. 4 大阪大学助教授大学院人間科学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院人間科学研究科
- 20. 4 大阪大学教授大学院人間科学研究科

所 属：大学院人間科学研究科人間科学専攻
臨床教育学講座
専門分野：教育人間学

高 井 裕 之 (たかい ひろゆき)

大学院法学研究科



【略歴】

- 昭58. 3 京都大学法学部卒業
- 60. 3 京都大学大学院法学研究科公法専攻修士課程修了
- 63. 3 京都大学大学院法学研究科公法専攻博士後期課程研究指導認定退学
- 63. 4 京都大学助手法学部
- 平元. 4 京都産業大学法学部講師
- 5. 4 京都産業大学法学部助教授
- 12. 4 京都産業大学法学部教授
- 16. 4 京都産業大学大学院法務研究科教授
- 20. 4 大阪大学教授大学院法学研究科

所 属：大学院法学研究科法学・政治学専攻
専門分野：憲法学

新教授紹介

廣 田 誠 (ひろた まこと)

大学院経済学研究科



【略歴】

- 昭59. 3 和歌山大学経済学部経済学科卒業
- 61. 3 大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程修了
- 61. 6 大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程退学
- 61. 6 大阪大学助手経済学部
- 平元. 4 下関市立大学経済学部講師
- 4. 4 神戸学院大学経済学部講師
- 6. 4 神戸学院大学経済学部助教授
- 16. 4 神戸学院大学経済学部教授
- 18. 1 博士(経済学)(大阪大学)
- 20. 4 大阪大学教授大学院経済学研究科

所 属：大学院経済学研究科政策専攻応用経済講座

専門分野：近代日本経済史(商業・市場の史的研究)
経営史(企業家活動の史的研究)

岡 村 康 司 (おかむら やすし)

大学院医学系研究科



【略歴】

- 昭60. 3 東京大学医学部医学科卒業
- 63. 4 日本学術振興会特別研究員(平2.2まで)
- 平元. 3 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了
- 2. 2 東京大学助手医学部附属脳研究施設神経生物学部門
- 7. 4 通産省工業技術院生命工学工業技術研究所生体分子工学部生体機能制御研究室主任研究官
- 13. 4 独立行政法人産業技術総合研究所脳神経情報研究部門脳遺伝子研究グループ主任研究員
- 13. 5 岡崎国立共同研究機構教授統合バイオサイエンスセンター神経分化研究部門
- 16. 4 自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター教授
- 20. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科

所 属：大学院医学系研究科生理学講座(統合生理学)

専門分野：神経生理学、生物物理学

中 谷 敏 (なかたに さとし)

大学院医学系研究科



【略歴】

- 昭58. 3 大阪大学医学部医学科卒業
- 58. 7 大阪大学医学部附属病院医員
- 60. 6 大阪大学医学部研究生
- 60. 8 大阪大学医学部附属病院医員
- 61. 1 大阪警察病院医師
- 62. 7 国立循環器病センター研究所研究員
- 平 2. 7 国立循環器病センター病院医師
- 5. 7 米国クリーブランドクリニックリサーチアソシエイト
- 13. 9 国立循環器病センター病院医長
- 20. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科

所 属：大学院医学系研究科保健学専攻医療技術科学分野機能診断科学講座

専門分野：循環器内科学、心臓超音波医学

新教授紹介

丸山 美知子 (まるやま みちこ)

大学院医学系研究科



所 属：大学院医学系研究科保健学専攻統合保健看護科学分野
総合ヘルスプロモーション科学講座
専門分野：地域看護学

【略歴】

- 昭46. 3 新潟大学医学部附属看護学校卒業
- 47. 3 新潟県公衆衛生看護学校卒業
- 47. 4 新潟県南魚沼郡塩沢町役場社会課保健婦
- 50. 4 新潟県立黒埼高等学校養護教諭
- 55. 3 国立公衆衛生院専攻課程看護学科卒業
- 55. 4 社団法人日本看護協会卒後教育部教員
- 60. 4 厚生省健康政策局看護課保健婦係長
- 平 3.10 厚生省社会局庶務課介護技術専門官
- 6. 4 厚生省健康政策局計画課保健指導室保健指導専門官
- 8. 4 国立公衆衛生院公衆衛生看護学部看護技術室長
- 10.10 医学博士（昭和大学）
- 12. 3 大正大学大学院文学研究科前期博士課程修了
- 12. 4 厚生省健康政策局看護課看護研修研究センター所長
- 15. 3 大正大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学
- 20. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科

森 正 樹 (もり まさき)

大学院医学系研究科



所 属：大学院医学系研究科外科学講座
(消化器外科学)
専門分野：消化器外科(消化器癌の診断と治療)

【略歴】

- 昭55. 3 九州大学医学部医学科卒業
- 55. 6 九州大学医学部附属病院医員(研修医)
- 56. 4 国立別府病院医員(研修医)
- 61. 3 九州大学大学院医学研究科博士課程修了
- 61. 4 九州大学助手医学部附属病院(第二病理)
- 62. 4 九州大学助手医学部附属病院(第二外科)
- 平 3. 4 米国ハーバード大学留学(日米癌訓練計画による派遣)
- 4. 4 九州大学助手医学部(第二外科)
- 6. 4 九州大学助教授生体防御医学研究所(臨床腫瘍学部門)
- 10. 4 九州大学教授生体防御医学研究所(臨床腫瘍学部門)
- 20. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科

堤 康 央 (つつみ やすお)

大学院薬学研究科



所 属：大学院薬学研究科毒性学分野
専門分野：プロテオミクス、動態学、毒性学

【略歴】

- 平 3. 3 大阪大学薬学部薬学科卒業
- 5. 3 大阪大学大学院薬学研究科応用薬学専攻修士課程修了
- 6. 8 大阪大学大学院薬学研究科応用薬学専攻博士課程中退
- 6. 8 大阪大学助手薬学部
- 9. 8 薬学博士(大阪大学)
- 16. 4 国立医薬品食品衛生研究所大阪支所医薬基盤研究施設
基盤研究第二プロジェクトチーム副プロジェクト長
- 17. 4 独立行政法人医薬基盤研究所創薬プロテオミクスプロジェクトプロジェクトリーダー
- 17. 2 大阪大学招へい准教授(薬学研究科連携大学院医薬基盤科学分野)
- 18. 6 大阪大学招へい准教授(臨床医工学融合研究教育センター)
- 20. 4 大阪大学教授大学院薬学研究科

新教授紹介

井上 豪 (いのうえ つよし)

大学院工学研究科



所 属：大学院工学研究科応用化学専攻物質機能化学講座
専門分野：構造生物化学

【略歴】

- 平元. 3 大阪大学工学部応用精密化学科卒業
- 3. 3 大阪大学大学院工学研究科応用精密化学専攻博士前期課程修了
- 6. 3 大阪大学大学院工学研究科応用精密化学専攻博士後期課程修了
- 6. 3 博士(工学)(大阪大学)
- 6. 4 大阪大学助手工学部
- 10. 4 大阪大学助手大学院工学研究科
- 11. 4 大阪大学講師大学院工学研究科
- 14. 1 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院工学研究科
- 20. 4 大阪大学教授大学院工学研究科

上西 啓介 (うえにし けいすけ)

大学院工学研究科



所 属：大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻テクノロジーデザイン講座
専門分野：材料加工学

【略歴】

- 昭61. 3 京都大学工学部金属加工学科卒業
- 63. 3 京都大学大学院工学研究科金属加工学専攻修士課程修了
- 平 2. 3 京都大学大学院工学研究科金属加工学専攻博士後期課程退学
- 2. 4 大阪大学助手工学部
- 4. 9 博士(工学)(京都大学)
- 8. 6 トロント大学工学研究科Post Doctoral Fellow(平9.5まで)
- 10. 4 大阪大学助手大学院工学研究科
- 14. 4 大阪大学講師大学院工学研究科
- 16. 4 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院工学研究科
- 20. 4 大阪大学教授大学院工学研究科

柏木 正 (かしわぎ まさし)

大学院工学研究科



所 属：大学院工学研究科地球総合工学専攻船舶海洋工学講座
専門分野：海洋空間開発工学

【略歴】

- 昭53. 3 大阪大学工学部造船学科卒業
- 55. 3 大阪大学大学院工学研究科造船学専攻前期課程修了
- 58. 3 大阪大学大学院工学研究科造船学専攻後期課程単位修得退学
- 59. 3 大阪大学大学院工学研究科造船学専攻後期課程修了
- 59. 3 工学博士(大阪大学)
- 58. 4 神戸商船大学助手商船学部
- 60. 9 九州大学助教授応用力学研究所
- 平13. 9 九州大学教授応用力学研究所
- 20. 4 大阪大学教授大学院工学研究科

新教授紹介

倉本 洋 (くらもと ひろし)

大学院工学研究科



所 属：大学院工学研究科地球総合工学専攻建築構造学講座
 専門分野：建築耐震工学、鉄筋コンクリート構造、鋼コンクリート合成構造

【略歴】

- 昭59. 3 大阪工業大学工学部建築学科卒業
- 61. 3 大阪工業大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了
- 61. 4 株式会社鴻池組本社技術研究所研究員
- 平 3. 3 大阪工業大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程後期単位修得退学
- 3. 4 横浜国立大学助手工学部
- 4. 7 博士(工学)(東京大学)
- 5. 6 建設省建築研究所第四研究部研究員
- 6.10 建設省建築研究所第四研究部主任研究員
- 8.10 コーネル大学(米国)土木・環境工学科客員研究員
- 11. 4 建設省建築研究所第三研究部耐風研究室長
- 12. 4 建設省建築研究所企画部国際研究協力官
- 13. 4 国土交通省国土技術政策総合研究所建築研究部基準認証システム研究室長
- 13. 9 豊橋技術科学大学助教授工学教育国際協力研究センター
- 16. 3 豊橋技術科学大学助教授工学部
- 19. 4 豊橋技術科学大学准教授工学部
- 20. 4 大阪大学教授大学院工学研究科

東海 明宏 (とうかい あきひろ)

大学院工学研究科



所 属：大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻環境システム学講座
 専門分野：環境リスク評価・管理学、環境工学

【略歴】

- 昭57. 3 北海道大学教養部理類卒業
- 60. 3 東京水産大学大学院水産学研究所修士課程海洋環境工学専攻修了
- 63. 3 大阪大学大学院工学研究科博士課程環境工学専攻修了
- 63. 3 博士(工学)(大阪大学)
- 63. 4 大阪大学助手工学部
- 平 2. 9 岐阜大学助教授工学部
- 5. 8 米国カーネギーメロン大学工学及び公共政策学科客員助教授(フルブライト若手研究員)(平6.7まで)
- 8. 4 横浜国立大学助教授環境科学研究センター
- 9. 8 北海道大学助教授大学院工学研究科
- 13. 8 産業技術総合研究所化学物質リスク管理研究センターリスク評価・管理研究チーム主任研究員
- 14. 4 産業技術総合研究所化学物質リスク管理研究センター水圏生体リスク評価チーム長
- 16. 4 産業技術総合研究所化学物質リスク管理研究センター水圏環境評価チーム長
- 20. 4 大阪大学教授大学院工学研究科

中野 貴由 (なかの たかよし)

大学院工学研究科



所 属：大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻材料機能化プロセス工学講座
 専門分野：生体材料学、結晶塑性学

【略歴】

- 平 2. 3 大阪大学工学部金属材料工学科卒業
- 4. 3 大阪大学大学院工学研究科金属材料工学専攻博士前期課程修了
- 4. 4 大阪大学助手工学部
- 8. 3 博士(工学)(大阪大学)
- 10. 4 大阪大学助手大学院工学研究科
- 11. 4 大阪大学講師大学院工学研究科
- 13. 6 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院工学研究科
- 20. 4 大阪大学教授大学院工学研究科

新教授紹介

西 田 修 三 (にしだ しゅうぞう)

大学院工学研究科



【略歴】

- 昭54. 3 北海道大学工学部応用物理学科卒業
- 56. 3 北海道大学大学院工学研究科応用物理学専攻修士課程修了
- 59. 3 北海道大学大学院工学研究科応用物理学専攻博士課程修了
- 59. 3 工学博士(北海道大学)
- 59. 4 北海道大学工学部非常勤講師
- 59. 9 八戸工業大学工学部土木工学科講師
- 平 2. 4 八戸工業大学工学部土木工学科助教授
- 10. 4 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院工学研究科
- 20. 3 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科地球総合工学専攻
社会システム学講座
専門分野：環境水理学

藤久保 昌 彦 (ふじくぼ まさひこ)

大学院工学研究科



【略歴】

- 昭54. 3 大阪大学工学部造船学科卒業
- 56. 3 大阪大学大学院工学研究科造船学専攻前期課程修了
- 56. 4 新日本製鐵(株)入社
- 57. 4 広島大学助手工学部
- 63. 2 工学博士(大阪大学)
- 63. 8 ノルウェー工科大学(現ノルウェー科学技術大学)
客員研究員(～平元.8まで)
- 平元. 4 広島大学助教授工学部
- 11.11 広島大学教授工学部
- 13. 4 広島大学教授大学院工学研究科
- 16. 7 広島大学技術センター長(平20.3まで)
- 20. 4 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科地球総合工学専攻船
舶工学講座
専門分野：構造強度、構造解析

舟 木 剛 (ふなき つよし)

大学院工学研究科



【略歴】

- 平 3. 3 大阪大学 工学部電気工学科卒業
- 5. 3 大阪大学 大学院工学研究科電気工学専攻博士前期課程
修了
- 6. 3 大阪大学 大学院工学研究科電気工学専攻博士後期課程
退学
- 12. 9 博士(工学)(大阪大学)
- 6. 4 大阪大学助手工学部
- 10. 4 大阪大学助手大学院工学研究科
- 13. 4 大阪大学講師大学院工学研究科
- 14. 8 京都大学助教授大学院工学研究科
- 19. 4 京都大学准教授大学院工学研究科
- 20. 4 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科電気電子情報工学専
攻システム・制御工学講座
専門分野：電気エネルギー工学

新教授紹介

宮本 裕司 (みやもと ゆうじ)

大学院工学研究科



【略歴】

- 昭54. 3 京都大学工学部建築学科卒業
- 54. 4 鹿島建設株式会社技術研究所研究員
- 62. 4 鹿島建設株式会社小堀研究室研究員
- 62.11 株式会社小堀鐸二研究所研究部統括部長(兼務)(~平20.3)
- 平 2. 4 カリフォルニア大学デ・ヴィス校客員研究員
- 3. 5 鹿島建設株式会社小堀研究室研究開発部主任研究員
- 4.10 博士(工学)(神戸大学)
- 4.10 鹿島建設株式会社小堀研究室地震地盤研究部主任研究員
- 10. 4 鹿島建設株式会社小堀研究室地震地盤研究部主管研究員
- 12.11 鹿島建設株式会社小堀研究室地震地盤研究部次長
- 13. 4 東京理科大学理工学部建築学科非常勤講師(~平20.3)
- 15. 4 鹿島建設株式会社小堀研究室地震地盤研究部担当部長
- 16. 4 鹿島建設株式会社小堀研究室地震地盤研究部部長
- 17. 6 鹿島建設株式会社研究・技術開発本部小堀研究室地震地盤研究グル-プ長・上席研究員
- 20. 4 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科地球総合工学専攻建築構造学講座
 専門分野：地震工学、耐震工学

矢吹 信喜 (やぶき のぶよし)

大学院工学研究科



【略歴】

- 昭57. 3 東京大学工学部土木工学科卒業
- 57. 4 電源開発株式会社入社
- 平成. 6 スタンフォード大学工学部土木工学科修士課程修了
- 4. 6 スタンフォード大学工学部土木工学科博士課程修了
- 4. 6 Ph.D(スタンフォード大学)
- 11. 5 室蘭工業大学助教授工学部
- 19. 4 室蘭工業大学准教授工学部
- 20. 4 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻共生環境デザイン学講座
 専門分野：環境設計情報学

福井 賢一 (ふくい けんいち)

大学院基礎工学研究科



【略歴】

- 平成. 3 東京大学理学部化学科卒業
- 3. 3 東京大学大学院理学系研究科化学専攻修士課程修了
- 6. 3 東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程修了
- 6. 4 東京大学助手大学院理学系研究科
- 13. 4 東京大学講師大学院理学系研究科
- 14. 4 東京工業大学助教授大学院理工学研究科
- 19. 4 東京工業大学准教授大学院理工学研究科
- 20. 4 大阪大学教授大学院基礎工学研究科

所 属：大学院基礎工学研究科物質創成専攻機能物質化学領域機能化学講座
 専門分野：表面物理化学、触媒表面化学

新教授紹介

日野 信行 (ひの のぶゆき)

大学院言語文化研究科



所 属：大学院言語文化研究科言語文化教育論講座
 専門分野：英語教育・多文化共生教育

【略歴】

- 昭55. 3 大阪大学法学部法学科卒業
- 57. 5 ハワイ大学マノア校大学院英語教育学研究科修士課程修了
- 57. 6 ハワイ大学マノア校大学院英語教育学研究科
 Jack C. Richards研究室研究助手(昭57.8まで)
- 57. 8 東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程英語教育専攻退学
- 58. 4 国際商科大学(現東京国際大学)商学部専任講師
- 63. 4 東京国際大学商学部助教授
- 平 2. 4 大阪大学講師言語文化部
- 5. 4 大阪大学助教授言語文化部
- 8. 4 大阪大学助教授大学院言語文化研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院言語文化研究科
- 20. 4 大阪大学教授大学院言語文化研究科

渡辺 秀樹 (わたなべ ひでき)

大学院言語文化研究科



所 属：大学院言語文化研究科言語文化専攻言語認知科学講座
 専門分野：英語史・英語文体論・古英語テキスト解釈・比喩定型表現研究

【略歴】

- 昭55. 3 千葉大学人文学部人文学科卒業
- 55. 4 東京都立向島工業高等学校採用
- 57. 3 同上退職
- 60. 3 東京大学大学院人文科学研究科英語英文学専門課程修士課程修了
- 61. 3 東京大学大学院人文科学研究科英語英文学専門課程博士課程退学
- 61. 4 大阪大学助手言語文化部
- 63. 3 大阪大学講師言語文化部
- 平 3. 4 大阪大学助教授言語文化部
- 16. 2 文学博士(千葉大学)
- 17. 4 大阪大学助教授大学院言語文化研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院言語文化研究科
- 20. 4 大阪大学教授大学院言語文化研究科

大久保 邦彦 (おおくぼ くにひこ)

大学院国際公共政策研究科



所 属：大学院国際公共政策研究科比較公共政策専攻現代日本法経システム講座
 専門分野：民法

【略歴】

- 昭61. 3 京都大学法学部卒業
- 63. 3 京都大学大学院法学研究科修士課程民刑事法専攻修了
- 平 3. 3 京都大学大学院法学研究科博士後期課程民刑事法専攻研究指導認定退学
- 3. 4 京都大学助手法学部
- 4. 4 京都大学助手大学院法学研究科
- 5. 4 神戸学院大学法学部講師
- 7. 4 神戸学院大学法学部助教授
- 15. 4 甲南大学法学部教授
- 16. 4 甲南大学法科大学院教授
- 20. 4 大阪大学大学院国際公共政策研究科

新教授紹介

真山 全 (まやま あきら)

大学院国際公共政策研究科



【略歴】

- 昭57. 3 京都大学法学部卒業
- 59. 3 京都大学大学院法学研究科博士前期課程修了
- 61. 4 甲南大学法学部助手
- 62. 3 京都大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学
- 62. 4 甲南大学法学部講師
- 平元. 4 甲南大学法学部助教授
- 9. 4 防衛大学校国際関係学科助教授
- 10. 4 防衛大学校国際関係学科教授
- 14. 4 防衛大学校国際関係学科長(平16.3まで)
- 18. 4 防衛大学校総合安全保障研究科教務主事(平20.3まで)
- 20. 4 大阪大学教授大学院国際公共政策研究科

所 属：大学院国際公共政策研究科国際公共政策専攻国際公益システム
 専門分野：国際法、武力紛争法(国際人道法)、国際刑事法

岩井 一宏 (いわい かずひろ)

大学院生命機能研究科



【略歴】

- 昭60. 3 京都大学医学部卒業
- 60. 6 神戸市立中央市民病院(昭62.3まで)
- 平 3. 4 京都大学医学部研究生
- 3.12 京都大学胸部疾患研究所附属病院医員(平4.9まで)
- 4. 3 京都大学大学院医学研究科博士課程修了
- 4. 3 博士(医学)(京都大学)
- 4.10 京都大学助手医学部
- 5. 4 京都大学助手大学院医学研究科
- 5. 4 米国国立保健研究所訪問研究員(平8.3まで)
- 9. 6 京都大学助教授大学院医学研究科
- 11. 4 京都大学助教授大学院生命科学研究所
- 13. 7 大阪市立大学大学院医学研究科教授
- 20. 4 大阪大学教授大学院生命機能研究科

所 属：大学院生命機能研究科細胞ネットワーク講座
 専門分野：生化学、細胞生物学(鉄代謝調節機構と疾患、ユビキチン修飾系と疾患)

野呂 充 (のろ みつる)

大学院高等司法研究科



【略歴】

- 昭63. 3 京都大学法学部卒業
- 平 2. 3 京都大学大学院法学研究科修士課程公法専攻修了
- 5. 3 京都大学大学院法学研究科博士後期課程公法専攻研究指導認定退学
- 5. 4 京都大学助手大学院法学研究科
- 5.10 広島大学助手法学部
- 6. 4 広島大学助教授法学部
- 16. 4 関西大学大学院法務研究科教授
- 20. 4 大阪大学教授大学院高等司法研究科

所 属：大学院高等司法研究科
 専門分野：行政法

新教授紹介

藤原敏道 (ふじわら としみち)

蛋白質研究所



所 属：蛋白質研究所蛋白質構造生物学研究部門・機能構造計測学研究室
 専門分野：生物物理学、核磁気共鳴、蛋白質の物理化学

【略歴】

- 昭55. 3 大阪大学理学部化学科卒業
- 57. 3 大阪大学大学院理学研究科
博士課程前期無機及び物理化学専攻修了
- 60. 3 大阪大学大学院理学研究科
博士課程後期無機及び物理化学専攻修了
- 60. 3 理学博士(大阪大学)
- 60. 4 日本電子株式会社生態計測学研究室
- 平 4. 4 横浜国立大学講師工学部
- 8. 1 横浜国立大学助教授工学部
- 12.12 大阪大学助教授たんぱく質研究所
- 19. 4 大阪大学准教授蛋白質研究所
- 20. 4 大阪大学教授蛋白質研究所

橋爪節也 (はしづめ せつや)

総合学術博物館



所 属：総合学術博物館
 専門分野：近世近代日本美術

【略歴】

- 昭57. 3 東京芸術大学美術学部芸術学科卒業
- 59. 3 東京芸術大学大学院美術研究科日本・東洋美術史専攻
修士課程修了
- 59. 4 東京芸術大学美術学部芸術学科非常勤講師
- 60. 4 東京芸術大学助手美術学部附属古美術研究施設
- 平 2. 4 大阪市教育委員会事務局社会教育部文化財保護課学芸員
大阪市教育委員会事務局大阪市立近代美術館(仮称)
建設準備室学芸員
大阪市教育委員会事務局大阪市立美術館学芸課学芸員(兼務)
- 10. 4 大阪市教育委員会事務局社会教育部文化財保護課主任学芸員
- 14. 4 大阪市教育委員会事務局生涯学習部文化財保護課主任学芸員
- 19. 4 大阪市ゆとりとみどり振興局文化部主任学芸員
(博物館群運営企画担当)
- 20. 4 大阪大学教授総合学術博物館

瀧原圭子 (たきはら けいこ)

保健センター



所 属：保健センター
 専門分野：循環器内科、内科

【略歴】

- 昭55. 3 長崎大学医学部医学科卒業
- 55. 7 大阪大学医学部附属病院医員(研修医)
- 56. 7 日本生命済生会附属日生病院医員
- 61. 3 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了
- 61. 3 医学博士(大阪大学)
- 61. 4 大阪通信病院医師
- 62. 5 トヨタ大学トヨタ総合病院心臓血管研究センター研究員
- 平 2. 2 大阪大学医学部附属病院医員
- 4. 8 大阪大学助手医学部
- 14. 8 大阪大学講師大学院医学系研究科
- 16. 4 大阪大学助教授保健センター
- 17. 4 大阪大学医学部附属病院・歯学部附属病院産業医
- 19. 4 大阪大学准教授保健センター
- 20. 4 大阪大学教授保健センター

第3回大阪大学ホームカミングデイのご案内

本学卒業生及び教職員OB等の方が年に一度キャンパスにお運びいただき旧交を温めるとともに、「今」の大阪大学をご覧いただき本学に一層の関心をお寄せいただく日として、一昨年から開催しております「大阪大学ホームカミングデイ」を本年も下記により開催いたします。

なお、当日は、「いちよう祭」(5月2日、5月3日)の開催期間でもありますので、キャンパス内の各種催し、展示等もご見学いただければ幸いです。どうぞお友達、ご家族お誘い合せのうえ、お気軽にお越しくださいますようご案内申し上げます。

主催 大阪大学

協賛 大阪大学同窓会連合会

開催日 平成20年5月3日(土・祝)

場 所 大阪大学豊中キャンパス

次 第

一、挨拶と活動報告

(11:00 ~ 11:30)

於：共通教育本館(イ号館)・2階イ講堂)

- ・ 大阪大学総長挨拶
- ・ 大阪大学同窓会連合会会長挨拶
- ・ 活動報告「海外拠点活動について」



鷲 田 清 一 総 長
熊 谷 信 昭 元総長
辻 毅一郎 理 事

一、レセプション

(12:00 ~ 13:00 於：学生交流棟1階『宙(sora)』)

抽選会

同窓会連合会会員の皆様には、ご案内を郵送しておりますので、同封の返信葉書にて当日のご出欠をお知らせ願います。

会員になっておられない本学卒業生、教職員OB並びに一般の方々に、上記レセプションに参加ご希望の方は、下記アドレスからご登録をお願いいたします。(会場の都合により先着50名とさせていただきます。)

駐車場に限りがございますので、車でのご来場はご遠慮願います。
お越しの際は公共の交通機関をご利用願います。

お問い合わせ先

大阪大学同窓会連合会事務局

TEL06 - 6879 - 7152

ホームページ <http://www.osaka-u.ac.jp/jp/dousoukai/top.html>

協賛企業等：リーガロイヤルホテル、千里阪急ホテル、東急ホテルズ、大阪大学生生活協同組合

平成20年度いちよう祭開催

いちよう祭は、本学の創立記念日である5月1日を祝し、全学をあげて新入生を歓迎するとともに、教職員・学生の親睦及び地域との連携を図ることを目的に毎年開催されます。今年も、昨年に引き続き、高校生をはじめ学外の方に本学の教育・研究の内容を知っていただくため、以下の日程により開催します。

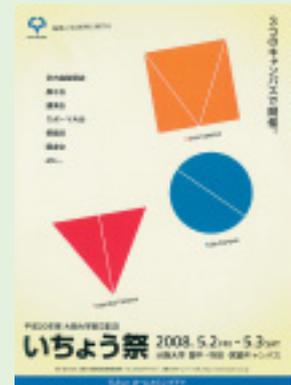
教職員・学生及び地域の皆さまの積極的な参加をお待ちしています。

日程：5月2日（金）・ 5月3日（土・祝）

- ・大学主催の各種行事（学内施設開放、展示会、映画会、講演会など）
- ・学生団体による協賛行事（スポーツ大会、園遊会など）
- ・模擬店

問い合わせ先：総務部総務課総務係（TEL06 - 6879 - 7014）

（総務部総務課）



人権問題に関する映画会開催

人権問題に対する理解と学習を深めるため、下記のとおり映画会を開催しますので、教職員、学生の皆様の積極的な参加をお待ちしています。

なお、本年もいちよう祭行事の一環として開催します。

近隣地域の方々にも多数ご参加いただきますようご案内いたします。

日 時：5月2日（金） 上映時間 第1回目 10時00分～11時40分（～）
第2回目 13時00分～14時40分（～）

場 所：基礎工学部国際棟 シグマホール

上映映画： 「夢の約束」(53分)
「蛍の舞う街で」(42分)
(計95分)

問い合わせ先：総務部総務課総務係（TEL06 - 6879 - 7014）

（総務部総務課）



大阪大学室内楽アンサンブル第6回演奏会

大阪大学室内楽アンサンブル（OUCE）は、クラシック音楽の日常的な練習会および定期的な演奏会活動を通して、大阪大学の文化的基盤の醸成と大阪大学構成員間のコミュニケーション促進に微力を尽くすことを目的として、平成17年4月に設立されました。大阪大学の大学祭行事の一環として年2回（春・秋）、MOホールにおいて演奏会を開催し、毎回多くの方にご来聴をいただいております。

このたび第6回演奏会を下記のとおり開催いたしますので、皆様、お誘い合わせの上、ご来聴賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。詳しくは、OUCEのホームページ（<http://www.mls.eng.osaka-u.ac.jp/ensemble/>）をご覧ください。

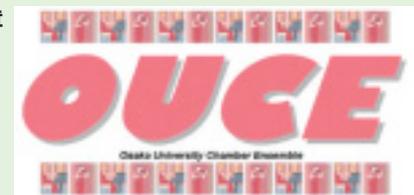
日 時：平成20年5月3日（土・祝） 開場：13:30 開演：14:00

場 所：大阪大学コンベンションセンター MOホール

入場無料

【演奏曲目】チャイコフスキー：くるみ割り人形 作品71 より トレバック、こんぺいとうの踊り、花のワルツ
ドボルザーク：弦楽四重奏曲 ヘ長調 作品96 “アメリカ” 第1楽章、第2楽章
スメタナ：ピアノ三重奏曲 ト短調 作品15 第1楽章
ドビュッシー：フルート、ピオラ、ピアノのためのソナタ 第1楽章、第2楽章
シューベルト：弦楽四重奏曲 二短調 D810 “死と乙女” 第1楽章
ベートーヴェン：トリオ 作品87 第1楽章、第3楽章、第4楽章
シューマン：ピアノ五重奏曲 変ホ長調 作品44 第1楽章
スタジオジブリの世界より ～風の谷のナウシカ、もののけ姫 他～

休憩時間中、ホールロビーにてリコーダー演奏を行います
茶色の小瓶、おもちゃの交響曲、踊る人形 他



問い合わせ先：tsukuda@chem.eng.osaka-u.ac.jp

（OUCE）

『キャンパスに咲く花 阪大吹田編』が刊行

阪大NOW No.86（平成17年12月号）の「クローズアップ」にてご紹介した、基礎セミナー「植物を知り、植物に学ぶ」の成果をまとめた本『キャンパスに咲く花阪大吹田編』（福井希一・栗原佐智子編 発行：大阪大学出版会）が刊行されました。大阪大学出版会及び一般書店で購入できます。

身近な花を参照できるハンディな図鑑

本書は、この地にもともと生えていた野の花や、大学として造成されてから新たに持ち込まれた植物全251種630点を「春・夏・秋・冬」に分類し、撮り下ろしたカラー図鑑です。

日本で初めてのニュータウンとして開発された千里周辺の環境が変化していく様相も見てとれる、まさに「植物の地域史」ともいえます。

中にはキャンパスマップを掲載し、どの辺りに咲いているかなど探索する上で、学内外を問わず、色々な方々にお楽しみいただける内容となっております。

ぜひとも本書を片手に持ちながら、大阪大学吹田キャンパス内をご散歩ください。

【目次概要】

- 春 106種 / 夏 73種 / 秋 54種 / 冬 18種の花や実
- 近隣の見所・環境と植物・薬になる植物
- 食料としての植物・花言葉・花の思い出など、充実のコラムと資料

問い合わせ先：大阪大学出版会

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-7 大阪大学ウエストフロント

TEL/FAX 06-6877-1614 e-mail info@osaka-up.or.jp

URL <http://www.osaka-up.or.jp>

（ホームページからでもご注文いただけます。）



（大阪大学出版会）

IEEEマイルストーン銘板

昨年11月27日（火）、電気・電子・情報・通信分野における世界最大の学会である電気・電子学会（IEEE）より、大阪大学、近畿日本鉄道株式会社、オムロン株式会社、阪急電鉄株式会社の4者による1965年～1971年にかけての産学連携事業の成果である鉄道向け自動改札システムの開発・実用化が、「IEEEマイルストーン」に認定されました。日本では、7件目の認定となります。



その記念の銘板が、開発関係者の重要メンバーである白川 功名誉教授から情報科学研究科を通じて博物館に寄贈され、待兼山修学館1階のロビー壁面に設置されることとなり、4月7日（月）には、白川名誉教授、西尾章治郎理事・副学長、今瀬 眞情報科学研究科長など関係者をお招きして除幕式を行いました。この展示により、博物館で大阪大学の情報科学系のルーツを辿る折に、現在および将来を託された若い学生諸君が大いに元気づけられるものと確信しています。

ガイドマップ



感謝状を贈られる白川名誉教授（右）



（左から）江口太郎館長、今瀬研究科長、白川名誉教授、西尾理事・副学長

（総合学術博物館）

日英におけるデザイン教育への取り組み

基礎工学研究科・山本グループ

昨年度、私たちは大阪大学 CSCD が主催するイタリア・デザイン・サマースクールに参加しました。デザイン史の授業や企業見学などを通して、私たちは国内外の産業や教育の現状について改めて考えるようになりました。現在、『デザイン』という概念がもつ価値や将来性が世界的に注目されています。日本において『デザイン』は「意匠」や「設計」という意味として使用されてきましたが、本来この言葉は「創造」や「統合」といったものを含む広い意味を持っています。日本是个々のものづくり能力において高い評価を受けているのですが、それらをまとめて新たなものを創造する能力が世界的に見ると比較的低いとされています。この意味において、今の日本に必要とされているのはまさにその「創造」力や「統合」力としての『デザイン力』だと言えます。

この問題意識を持ち、私たちは上述の意味での『デザイン』や『デザイン力』についての研究会を組織しました。この度学生海外研修助成事業の支援を受け、『デザイン力』を身につける教育を初等教育から義務化するなどボトムアップ的に取り組んでいる英国と、日本国内での取り組みについて取材しました。またこれらの現地取材に加え、英国の大学や本学にてアンケート調査を行うことを通し、最終



目標に「デザイン力を阪大生に身につけてもらうための新しい『デザイン教育』カリキュラムを作成すること」を掲げ、一年間活動を行ってきました。

『デザイン教育』と聞き、どれほどの人がその具体的な内容が想像できるでしょうか。産業界での『デザイン』に対する高い注目度と比較して、国内の教育機関で『デザイン力』を身につけさせる試みはまだそれほど多いとは言えません。そうした中で、富山県高岡市が初等教育において実践している「ものづくり・デザイン科」はその一歩であると言えます。このカリキュラムは高岡市教育委員会が先導し、平成18年度の4月より実施されている、市内の小中学生を対象としたものづくりプログラムです。取材によると、地場産業を含めた「ものづくり」の精神に慣れ親しんでもらうという点では一定の効果が得られた一方、子どもたちに『デザイン』の広義な概念を指導する教育者が不足しているという問題があることがわかりました。



一方英国では、Design & Technology”と名付けられた英国独自の初等教育カリキュラムのモデル校である小学校や、古くからデザインやアートの教育に取り組んでいるロンドン大学ゴールドスミス校での取材などを通し、英国におけるデザインと教育の関係が見えてきました。英国では、

建築や工芸の歴史、スタイルの変遷、各時代のおおまかな思想の流れなどを早い段階で学ぶことで「自分の立ち位置」を認識させることや“Presentation Skills”という科目があるなど、“individuality（個性、特性）”の意識を芽生えさせることを重要視しています。デザイン教育の分野だけに限らず、「自分の意見を持つ」という基礎が初等教育において形成され、その結果『デザイン力』が身についていくということがわかりました。さらに、教育カリキュラムが各校長に委ねられていることにも象徴的なように、イギリスの教育においては現場が変化を生み出すという「自発」の精神がその根幹を成していることも取材から明らかになりました。



こうして見ると、英国では教育のプロセスそのものが一つの『デザイン力』によって構成されていると言えます。これら『デザイン教育』は生徒のみに対してあるのではなく、同時に教育者に対する『デザイン教育』すなわち「教育をデザイン」するプロセスでもあるのです。翻って私たちの大学ではどうでしょう。本学にもデザイン教育に関するプログラムが幾つかありますが、参加率はそれほど高くありません。調査によると、私たちが定義するような『デザイン力』育成プログラムの受講希望者は全回答数の55%に達するにも関わらず、学生が現行の教育プログラムに受講していない理由の半数が「存在をしらなかったから」であることから、デザイン教育そのものの認知度を高める働きが必要であると感じました。また、本学の指導者に対するアンケート調査では、71%が大学でもデザイン教育を行うべきであると回答しており、同時に指導者対象のワークショップへの参加希望も56%と高く、指導者の関心も高いことがわかりました。

『デザイン教育』は文理の垣根にとられない領域横断的な取り組みです。「阪大生を元気に！」という私たちの

合い言葉も、『デザイン教育』というテーマが阪大生（ひいては指導者も含め）全員に関わる問題だと言う認識を示しています。学部生向け科目として「デザイン入門」、大学院生向け科目として「実践デザイン力」といった新しいカリキュラム、また既に阪大で実践されている異分野融合プロジェクトの一つとして「総合デザイン・プログラム」を立案しました。これらの取り組みを通して、大学自体の研究力の向上や、魅力ある大学人の育成への貢献を目指して今後も活動を継続していく予定です。しかしアンケートの結果からも、まず阪大にも「デザイン教育」と呼べるものがあることを認識させるということが重要であると考えています。この記事も皆様が『デザイン教育』について考える一つのきっかけになれば幸いです。



メンバー：

基礎工学研究科	博士後期課程	1年	山本	景子
工学研究科	博士後期課程	1年	道畑	正岐
言語社会研究科	博士前期課程	2年	土井	一郎
人間科学研究科	博士前期課程	2年	笹田	能美

イギリスに学ぶ都市デザイン

工学部・長尾グループ

日本で最初に開発されたニュータウンである千里ニュータウンは、開発から45年たった今、人口減少、高齢化、二世世代の不定着などといった問題を抱えている。私たちはこの問題に、まちの商店街の活性という観点からアプローチした。なぜなら、この商店街は近隣センターと呼ばれる、最も生活に密着した小さな商店街で、地域内の特定少数が利用する場としてコミュニティ形成にも寄与できる可能性があると考えたからだ。

実際、調査に行ったイギリスのハーロウニュータウン（千里ニュータウンのお手本となったニュータウン）の近隣センターは、ニーズに合わせた店舗の入れ替えによって人々の生活に適応し、商店街は光をうまく取り入れ、人の動線と対流する場所が計画されていることがみられた。そこは、近隣の人々の憩いの場所となっていた。ハーロウは千里より15年早くロンドン郊外に計画されたニュータウンであるが、近隣センターの機能はかたちを変えながらも都心の機能に吸収されてしまうことなく生き続けているように見えた（自立型都市として計画されたが、今では多くの住民

がロンドンで働き、買い物をすることを含めても）。一方の千里では、近隣センターは今や、商店街の機能はほとんど果たしていない。そこを開発して、近隣の住民に求められる店舗を誘致することで地域を活性化することは考えられる。しかし、実際には店舗が分譲されていることによって、店舗の入れ替わりは困難で、千里の更新を統治する主体の不在などを考えると難しい。



自動車が普及し、ほとんどの人が大型ショッピングセンターに簡単にアクセスできる現代において地域の商店街に勝ち目はほとんどない。ビジネスの観点から見ても開発の意義を考えることは難しいと受け取られているようだ。しかし地域の人々の交流を生み、地域力を底上げする役割を担えるのはやはり地域に密着した商店街だけだと考える。イギリスの人々が自分の土地に愛着をもっていたように、日本の人々もまず自分の土地を好きになれるような土地にしたいと考えてほしい。トップダウンで取ってつけたプログラムではなく、住民の生活行為のなかに地域力を育てていくことで、愛着をもって人々と地域が一体となって育っていけると考えられる。

そこで、私たちはまずこれらのことを住民に伝える活動をしている。自分たちの住むまちをかつて流行った「ベッドタウン」などではなく、生活すべてに関わってくるものとして認識し、愛着を持ってもらうためである。これから

も千里に関わっていく中で様々なことを伝え、また私たちも吸収し行くつもりだ。

みなさんも一度、自分のまちについて考え、好きになってください。



メンバー：

工学部 3年 長尾 賢太郎
若林 可奈
加藤 明日香
酒井 麻希

平成19年度大阪大学「学生海外研修助成」事業報告会開催

平成19年度大阪大学「学生海外研修助成」事業に採択された学生グループによる報告会が、1月25日(金)ICホールで行われました。この事業は、本学学生の積極性と企画力・実行力の向上を目的として、自らの企画により海外で交流・研修活動を行うグループを支援するため、平成14年度から実施されているもので、本年度は、基礎工学研究科の山本景子さん他3名による「日英におけるデザイン教育への取り組み」、工学部の長尾賢太郎君他3名による「イギリスに学ぶ都市デザイン」の2件の研修計画が採択され、両グループから、研修成果並びに海外での交流体験等について報告が行われました。報告会には、学生及び教職員約20名が出席し、報告内容に関して活発な質疑応答が行われました。

また、2月8日(金)には、総長室で両グループによる鷲田清一総長に対する報告会が、辻 毅一郎国際交流推進本部長、古城紀雄留学生センター長、木内行雄国際部長同席のもとに行われました。席上、両グループから総長への謝辞が述べられ、1グループ10分という限られた時間の中、緊張した面持ちで研修成果の報告が行われました。報告内容に関する質疑応答の後、総長から、両グループに対して、



今回の研修成果を無駄にせず、後に続く者のために広報に努めてほしいと激励の言葉がかけられました。

各グループが作成した研修の概要を以下に掲載しております。また、当事業の詳細については、留学生センターホームページをご参照ください。

(<http://www.isc.osaka-u.ac.jp/japanese/abroad/html/vsap-j.html#group>)

(国際部学生交流推進課)

コペンハーゲン大学(デンマーク)

Københavns Universitet (The University of Copenhagen)



コペンハーゲン大学は、1479年にデンマーク最初の大学として設立された、長い伝統を持つ世界屈指の大学です。学生数は37,000人あまり、教職員は9,000人を超え、規模においても、同国内はもちろんのことスカンジナビア最大を誇ります。

学部は、生命科学部（農学部に相当）、薬学部、人文学部、法学部、自然科学部、社会学部、保健衛生学部（医学部と歯学部に対応）、神学部があります。

物理学者 ニルス・ボーア (Niels Bohr)、作家 ルズヴィ・ホルベア (Ludvig Holberg)、言語学者 イェスベルセンこと、オト・イェスパスン (Otto Jespersen)、物理学者・化学者 ハンス・クレスチャン・アアステズ (Hans Christian Ørsted)、病理学者 イェンス・ヤアアン・ピンボー (Jens Jørgen Pindborg) などを輩出しており、自然

科学、社会科学、人文科学のすべての領域において世界のトップレベルにある大学です。

大阪大学の大学院言語文化研究科は、1992年以来、コペンハーゲン大学と部局間学術交流協定を結び、学生の交流などを行ってきました。歯学研究科歯科放射線学教室でも、関連部局との間で、10年にわたる研究者交流の実績があります。大阪外国語大学は1965年にデンマーク語学科を設置して以来、デンマーク政府奨学金によりほぼ毎年1～2名の学生をコペンハーゲン大学人文学部北欧語学科、言語学科、歴史学科や神学部ケルケゴール研究センターなどに送ってきたほか、盛んに研究者交流を行い、言語教育や地域研究に力を入れてきましたが、2004年に学術交流協定を締結してからは、交換留学による学生の受入れと派遣も行ってきました。これらの幅広い実績に基づき、昨年10月1日付で、大阪大学としての大学間学術交流協定となりました。

コペンハーゲン大学には2007年1月から薬学部ができたことでもあり、今後は理系、文系ともに幅広い交流が期待されます。

ホームページ：

<http://www.ku.dk/>



編集後記

今年の阪大OB・阪大生へ驚田総長から贈られた式辞と告辞を本号にて掲載していますが、その中での共通したフレーズに、「賢い市民」があります。卒業生には、わたしたちの社会が抱え込んでいる問題、公共的な問題に的確に対処していける人で市民のリーダーたる賢い市民となっていきたい、新入生には、そのための基盤となる教養について大学生活の中で身につけてほしいとのメッセージが送られています。

また、市民を直接のパートナーとし、市民の生活を充実させる資源を提供していく活動である『社会学連携』の拠点となる「大阪大学21世紀懐徳堂」が4月にオープンし、本号のクローズアップで紹介しています。大阪の町人が創った二つの学問所である「懐徳堂」「適塾」の精神を受け継ぎ「地域に生き世界に伸びる」をモットーとする大阪大学にとって、今後を担う市民の育成は重要な使命だと考えられます。大阪大学の学生のみならず、近隣住民の方々も含めた広く市民への情報発信を「阪大NOW」でも担っていきたいと思います。

(瀬尾)

アーチェリー部

正射必中 ~ 最高の射をめざして ~



私達が打ち込んでいるアーチェリーは、数十メートル離れた的を狙いながら弓で矢を射ち、当たった箇所ので点で競い合うスポーツです。普段は50mと30mの距離で競いますが、90mや70m、60mという遠い距離から矢を射って競う競技形式もあります。遠距離から矢を放ち、的の中央には吸い込まれていく様子は爽快であり、自身を奮い立たせます。

弓を引くには、日常生活でめったに使うことの無い筋肉を必要とするため、疲れやすいかもしれません。初めて弓を持つ頃はがむしゃらに矢を射ち、疲労困憊でなかなか高得点を出せないでしょう。しかしながら私達は、正しい弓の引き方について学び、いかに無駄なエネルギーを使うことなく効率の良い引き方をするかについて考えながら、日々練習に打ち込みます。その結果、私達は軽やかで流れるような引き方で矢を的の中央に命中させることに成功します。アーチェリーは道具をいかに使いこなすかについても問わ



れる競技です。そのために多くの情報、知識を取り入れ、弓矢を調整します。そして弓に余計な負荷がかかっていないか、日々確認する必要があります。弓に気遣い弓を愛することもまた高得点への近道でもあります。

私達、大阪大学アーチェリー部は関西学生アーチェリー連盟に置いて男女共に一部に所属しています。七大学定期戦にて準優勝となりました。強豪との戦いは良い勉強の場でもあり、試合後は皆、満足して帰ります。



部員全員がアーチェリーに対して熱心であり、今後の進化に期待しています。大阪大学が全国大会に進出できるよう日々努力したいと思います。

主将 松岡史剛(基3年)

コメント
アーチェリーに興味を持っていただけると幸いです。
大阪大学アーチェリー部を応援宜しくお願いします。



練習場所：土曜日(全体練)

吹田キャンパスアーチェリー場

土曜日以外(フリー練)

吹田、箕面キャンパスアーチェリー場

練習日時：土曜日(全体練)9時~16時

土曜日以外(フリー練)

9時~20時の間の好きな時間

部員数：55人

連絡先：上石 達也(主務)

for_the-hapiness.qx_xp@docomo.ne.jp

090 - 8891 - 7099

「たけのこ保育園」竣工披露式典挙行



テープカットを行う鷲田総長他関係者



挨拶を述べる鷲田総長

3月19日(水)、吹田キャンパス内に新しく建設された「たけのこ保育園」の竣工披露式典が挙行されました。これは、大阪大学における男女共同参画の推進のために、これまで自主運営を続けてきた「たけのこ保育園」と「まきば保育所」(4月からは「まきば保育園」)を大学の保育施設とする整備計画の一環として、元々狭く、老朽化が激しかった「たけのこ保育園」を新築し移転させることとして準備してきたものです。

当日は、あいにくの雨天でしたが、玄関前でのテープカットに始まり、遊戯室に場所を移しての鷲田清一総長の挨拶、宮原秀夫前総長の祝辞などが行われ、大学執行部、来賓の方々、式典に参加された教職員の皆さんとともに、「たけのこ保育園」の竣工を祝いました。

式典後、引き続き見学会を開催し、細長い立地条件ながら、採光や換気に配慮した保育室、体調不調児にも対応する保健室などが公開されました。式典に参加できなかった方も含め、午後1時まで大勢の方に園内を自由に見学していただきました。



鷲田総長(右)、宮原前総長(左)と見学会に参加した入園予定の親子

国立大学法人が建設した保育園としては、最大規模を誇ることから、複数のメディアの取材があり、至る所で取材スタッフによる本学関係者へのインタビューや撮影が行われ、鷲田総長、宮原前総長と入園予定者の親子との会話シーンなど、保育園らしい微笑ましい場面も見られました。

倍増した定員もほぼ充足しており、今後は豊中地区や箕面地区にも保育園ができることを願ってやみません。

(前多様な人材活用推進委員会委員長 沖田 知子)